日の丸・君が代法制化に想う　８／２

電話をとったら突然、「馬鹿野郎！　お前なんか死んじまえ！」だもんな。イヤになった。こんな電話はよくあるが、やっぱり不愉快だ。

また電話だ。「てめえ、のぼせ上がるなよ、この左翼かぶれめ。そんなことやってると、しまいには殺されるぞ！」とドスのきいた声。そして「非国民！　若い者を飛ばすぞ！」「ぶっ殺してやる！」と立て続けに電話。アレッ、何かあったのかと思ったら10本目の電話でやっとわかった。「今日の朝日新聞の発言、よかったですよ、感激しました」と初めての激励の電話。

そうか、アレが載ったのかと思った。６月末に「日の丸・君が代」について朝日新聞の取材を受けた。それがこの日（７月４日）に載ったのだ。

僕は朝日新聞をとっていないので、掲載がわからなかった。ちなみにとっているのは産経新聞。20年前に産経新聞社に勤めていて、その時以来一貫してとっている。愛社精神の塊だ。愛国心より愛社精神の方が強い。産経は４年半勤めたが「無能」でクビになった。それでもずっと新聞はとっている。本当に涙ぐましい愛社精神だ。

ところで、朝日新聞だ。東中野まで歩いて買ってきた。エッ、こんなに大きいのとビックリ。一人あたり４～５行で何人かまとめてひとつのページに載せるのかと思っていたら、カコミで６段もある。それに、よくまとまっている。これは、まとめた記者が偉いのだ。僕が自分で書いてもこんなにうまくは書けない。要は、もっとオープンに討論したらいいだろう、といっただけだ。当たり前過ぎて、「そんなのつまらないよ、もっと変わったこといえ」と文句を言われると思ったくらいだ。

それなのに、「馬鹿野郎！」「殺してやる！」「非国民！」なんていわれる。電話では「９人反対、１人支持」だ。「反対」といってもただの嫌がらせ、脅しだ。かけてくる人間は誰か分からないし、僕なんかは脅しやすいのだろう。それに、「よかったよ」というよりも、「馬鹿野郎！」の方がかけやすいのかもしれない。

そして思ったのは、まだまだこの問題では自由な話し合いができないということだ。僕は、「日の丸も君が代も好きだ」ときちんといっている。ただ、ウルサイ中学生や高校生にはもったいない。こいつらには校旗や校歌で十分だといった。もっと「日の丸・君が代」を大切にしようといった。

それなのに、「非国民！」「売国奴！」「左翼かぶれ！」はないだろう。そんなら「全国民」が「非国民」になっちゃうよ。

少しでも考えの違う人は許せないという硬直した姿勢があるようだ。「愛国者」

といわれる人にも、左翼的な人にも。でも、みんな同じ考えの人だったらつまらない。会う必要もないし、話す必要もない。「１万人の団体で、みんな同じ考えのもとに団結している」というのなら、１人だけと話をすればいい。後の9999人は必要がなくなる。違いますかね。考えの違う人、反対の人がいて楽しいし、自分も勉強になるんでしょうが。

日の丸・君が代も、もっともっと異論、反論を出すべきだ。２～３年かけて全国で討論会をやり、そのあと国民投票にかけたらいい。その結果、国旗が「赤旗」になり、国歌が「インターナショナル」になってもいいと「朝日新聞」では話した。左翼の人にはこれはいたく受けたようだ。右翼からは「ふざけんな！」と猛反発をくったが。

そうだ。電話では９対１で抗議、批判の方が多かったが、会った人の中では、ほとんどの人が「よかった」といってくれた。会う友達が最近は左翼的な人や市民運動家ばっかりだからだろうか。沖縄で昔、日の丸を引きずり下ろして焼いた知花昌一さんにも「よかった」といわれた。

僕は、高校はミッションで日の丸はなかった。もし強制されていたらきっと破り捨てていた、と喋ったところが気に入られたのかもしれない。そうなったら、僕が「第二の知花昌一」になって右翼に襲われてたかもしれないな。あっ、僕が高校生だったほうが時代的には先かな。じゃー「第一の知花」だ。変だな。「知花の前の知花」だ（どうも頭が混乱した）。

「インターナショナル」というと、こんな思い出がある。

15年ほど前、中国で列車に乗っていた。車内で懐かしい歌がかかった。いい歌だなとつい涙ぐんだ。それがインターだった。学生時代は左翼と毎日殴り合いをしていたが、その時よく聞いていた。だから、つい「懐かしい」と思い、涙ぐんだんだ。

「右翼のくせにインターに涙ぐむとはなんだ！　やっぱり売国奴だ！」といわれるのがこわくて、この話は今まで誰にもしたことがなかった。でも、もう何といわれてもいいんだ。書いちゃうよ。

早稲田大学では、全共闘の連中がスクラムを組んで「インターナショナル」や「国際学連の歌」「ワルシャワ労働歌」を歌っていた。胸にジーンと響く勇壮ないい歌だ。「あんないい歌があるなんて左翼はいいなー。チクショー、くやしい」と思ったものだ。こっちは昔の単調な軍歌ばっかり聞いてたからなー。　そうだ、もうひとつ思い出した。早稲田では、校歌「都の西北」を右も左も歌っていた。第二校歌は「人生劇場」だった。そして右も左も「君が代」なんか歌わない（左はもとから歌わないか）。そして、「早稲田ナショナリズム」という言葉があった。そこは「日本」じゃなかった。日本から独立した「早稲田民族」がいたんだ。だから、「日の丸・君が代」は関係なかった。国家をとびこえた「早稲田国」で右と左が

争っていたんだ。不思議な体験だった。

だから、日の丸・君が代よりも早稲田の歌や旗の方が古いかもしれない。日の丸・君が代は明治になってから、西欧にならって作られたんだからせいぜい120年くらいだ。早稲田だってその頃できたんだろう。

もしかしたら、「都の西北」の方が「君が代」より古いのかもしれないな。違うかな。小渕首相は早大合気道部出身で強烈な「早稲田ナショナリスト」だ。だから、今回、国旗・国歌法案を通しても、実は次のことを考えているのだろう。

次とは？　そう、「君が代」にかわって、「都の西北」を国歌にしようという野望ですよ。そして、日の丸にかえてあの稲穂のマークの校旗を国旗にしようとするんですよ。ウーン、そうなったら困るな。僕は、日の丸・君が代もほのぼのしていて好きだし、「日本」と「早稲田」とどっちに忠誠を誓ったらいいんだろう。

と、頭をかかえて今回は終わる。読者のみんなも、もっともっと自由にオープンに日本と国旗・国歌のことを考えたらいい。朝日新聞のインタビューの全文は以下のとおりだ。感想、抗議、批判のメール待ってるからね。

私と日の丸・君が代　教育へ強制、絶対よくない（7／4／1999　朝日新聞）

高校が仙台のミッションスクールだったんです。日の丸のかわりに学校の旗があって、君が代のかわりに賛美歌を歌わされた。大学に行ったら、今度は圧倒的に左翼の独裁体制。そういうものに反発して、右翼運動に入った気がするんです。高校のとき、日の丸や君が代を強制されていたら、ぼくは日の丸を破り捨てていたかもしれない。

教育現場への押し付けは絶対によくない。もし本当に君が代が必要だと思うなら、まず国会で歌うとか、公務員が率先して歌うべきじゃないですか。高校生までは校歌と校旗で十分です。「二十歳になったら初めて歌う」ぐらいでいい。

国の歌や旗なんだから、少なくとも国家を代表する大会や集会だけで使えばいいんです。乱用せずに、もっと大切にすべきじゃないんですか。

それは、僕自身の反省でもあるんです。一水会は昔小さな集会や勉強会でも日の丸を掲げて、君が代を歌っていました。でも、伴奏なしに５人や10人で歌おうとすると、まったく合わない。君が代は難しい歌なんですよ。バラバラになる。それではかえって国歌を侮辱していることにならないか、と。

世界の旗や国歌から見れば、日の丸や君が代はほのぼのしていて平和的です。それに代わる、みんなが尊敬できる歌や旗とかいっても、その歌や旗のもとに一致団結したら危ない。

法制化にももっと反対意見があってもいい。議論をしないのはおかしいですね。日本人は、決まっちゃうと反対意見を許さないところがありますから。

そのあたりは、民族主義運動を30年やってきて、よくわかるんです。国を愛するのはいいことだと思うけど、狭く突っ走る危険性がある。集団となるとそういう傾向がある。

「反対するやつは命をかけて殺してでも」なんて、僕も昔だったらそう思うかもしれないけど、日本の歴史で国旗や国歌が出てきてからまだ百数十年。明治維新で西欧の影響を受けてからです。「極右」の人なら、西欧をまねて作った国歌や国旗なんて捨てて「本来の日本に戻れ」と主張してもいい。

要は、もっと気軽に論じたらいいんですよ。公聴会だけでなく、２～３年かけて全国で討論会とかやってから、国民投票で決めたらどうですか。その結果、国旗が「赤旗」になって、国歌が「インターナショナル」になるならそれでもいい。

HOME　BACK

市民運動家・青山敬子さんにインタビュー　８／９

今週は、＜国民・住民投票を活かす会＞の市民運動家・青山敬子さん（推定33歳）にインタビューしました。インタビュアーは鈴木、神風など４人です。市民運動は時代のトレンド。でも今一つよくわからない。右翼、左翼といった偏狭なイデオロギーにこりかたまったものではない。自分たちの住む街を考え、世の中の仕組みを変えたい。そんなことじゃないのか。でも、イメージとしては左翼っぽい。左翼というと怖そうだから、ちょっとオブラートに包んだのが「市民運動」なのか。国民投票や住民投票のほかにどんな市民運動があるのか。これは「市民運動入門編」にもなっている。これは画期的なインタビューだ。

～　以下、インタビュー　～

－　なぜ、市民運動に入ったんですか。やっぱり友達がいなかったんです　か。勿論、恋人もいなかったでしょうし。

失礼な。私だってカレシいましたよ。ＳＰＡ！　の河井さん（鈴木の「夕刻のコペルニクス」の担当編集者）のようなカッコイイ人ですよ。顔もいいし、頭もいいし、仕事もバリバリやって、お金も持ってる。

－　だったら、市民運動に入る必要ないんじゃないんですか。

いやだからその。市民運動で知り合ったんですよ。

－　じゃー、やっぱり恋人探しに市民運動に入ったんじゃないですか。

そういうと、市民運動のイメージが悪くなるでしょうが、もうっ（口ぐせ）。

－　いや、かえってよくなりますよ。若い男女が恋人を探しに入るなんて。そんなに素敵な若い男女が一杯いるってことですからね。むしろ過大評価ですよ。一般の人は市民運動というと、男はホームレスと変わらない汚いおじさんたち。女は子育てを終わって暇を持て余してるオバサンたち･･･っていうイメージがありますからね。そういう偏見を正すためにも青山さんの体験はぜひ多くの人に紹介したいですよね。

そ、そうですか。私はいいことをしてるのかしら。

－　そうです、自信をもちなさい。ところで「河井君」とはどうなりました？

････（無言）

－　そうか、他の若い女にとられたんですね。それで、そこの市民運動を辞めて今の＜国民・住民投票を活かす会＞に入ったんですね。

イヤッ、私黙秘します。

－　でも、最近、その「河井君」と地下鉄の中でバッタリ会ってるんですね。相変わらずカッコよかったですか。

それが聞いてくださいよ（これも口ぐせ）。40歳過ぎたらただのデブオヤジになってたんですよ。幻滅！　まるで元統一教会信者の乾太一（いぬい・ふといち）のように醜いデブになっていたんです（涙声）。

－　でも、あきらめがついてよかったでしょう。これで未練もなくなったでしょう。「河井君」から「乾太一」じゃ余りに違い過ぎるもんね。「使用前」「使用後」みたいだもんね。あっ、もしかして自分をふった男に呪いをかけてデブにしたとか。人間をブタに変える魔法使いのおばあさんですね。市民運動家の黒魔術はこわいですね。じゃー、核心にいきましょう。男目当てで市民運動に入ったのは分かりますが、そういう方向に気持ちを向けさせたのは何ですか。誰ですか？　　お父さんかな？

父は、右翼なんです。だって渡部昇一と渡辺淳一の熱烈なファンなんです。

－　２人の間には随分へだたりがありますが。ともかく官能小説好きの右翼だったんですね、お父さんは。官能右翼か。それで、「天皇を敬え」っていう意味で「敬子」と名付けたんですか。かわいそうに。

それに反撥して、大きくなってから左傾して市民運動に入ったのかも知れません。

－　そういえば、名前の由来を聞かれて「不敬罪の敬」といってましたよね。「父は大逆事件の幸徳秋水のファンで、私を管野スガのような女性にしたくて不敬の敬にしたんです」と。カッコいいですね。でも、嘘だったんですね。見栄っ張りですね。市民運動をやるうえにはそういう「神話」を作った方がいいんですかね。あと、他に誰か影響を与えたんですか。

牧師さんです。左翼っぽい牧師でちょっと変な人だったけど、知らないことをいっぱい教えてもらいました。

－　性のこととかも。

失礼な、そんなことはありません。そんなみだらなことはこの年まで一度もしてません。いまだに処女です！（キッパリと）

－　なにもそこまで聞いてませんよ。ヤケで自虐的になることはありませんよ。

話変えましょう。好きな食べ物は？

カレーかな。あと甘いもの。ビール。

－　面白くないな。なんかもっと面白いこといってくださいよ。聞いててイライラするな（こんなこと前にもあったなー）。好きな俳優は？

デンゼル・ワシントンかな。

－　ああ、「マルコムｘ」の。あれはよかったですね。他には？

「デスペラード」とか「マスク・オブ・ゾロ」のアントニオ・バンデラス。「ブルース・ブラザース」「トレーディング・プレイス」のダン・アイクロイド、外人ばっかりっすね。

－　で、結婚は？

しません。生涯独身で市民運動をやります。でも、子供だけはほしいので、適当に生みます、海岸で。

－　海亀の産卵みたいですね。＜国民・住民投票を活かす会＞に入った動機は？

もともとは、ジャーナリストの今井一さん（＜活かす会＞前事務局長）にオルグされまして。

でも、議会政治を否定しているわけではありません。選挙のときに争点にならなかったこととか、改めて民意を問う手段として国民投票や住民投票が必要だと思うんです。みんなが安保とか憲法についてよく考えて、議論するきっかけのひとつとして提案したいんです。

先日、全国会議員に「国旗国家法案」についてアンケートを実施しました。締切りまでもう少し時間がありますが、既にけっこうお返事をいただいております。集計がタイヘンそうで、嬉しい悲鳴ってとこですね。その結果はまたＨＰで紹介させてください。

－　じゃー、右翼の奴と知り合うことはないんじゃないんですか。どこで知り合ったんですか。どうして野合してんですか。

今でもよく批判しあってますよ。共闘でもないし。いろんな考えをもった個人が発言し、討論する場が必要だと。

鈴木さんと知り合ったのは、昨年12月に当会が主催した「安保と国民投票」がテーマの討論会でしたね。今井さんが右翼を呼ぶというので大反対したんですよ。だってヤじゃないですか。「右翼を呼ぶなら行かない」っていう友人も多くて、チケット売れなかったし。

せっかく真面目にやってるのに、右翼がいると誤解されるし。右翼なんて同じことをただ繰り返して叫ぶだけで、内容もないし、パーだし。討論会がつぶれると思ったんですよ。「また今井天皇がご乱心だよ～」と陰でよくいってました。

でも、大好きな知花昌一さんが鈴木さんを評価していて、「鈴木さんを降ろすなら僕も討論会には出ない」といってたし、今井天皇の力は強大だったから結局おいでいただきましたが。当日は目を合わせないようにしようと思ってました。

– それで、討論会は盛り上がったんですよね。

そうですね。「100%考えが違う」「敵」と思っていたら、けっこうおもしろいことおっしゃってて、「案外、共通するところ、あるじゃん」っていう感じで。

– で、一水会や僕個人のイベントにも来てくれて、ＨＰも手伝ってくれてるんですか。

ええ、それはオフレコにしたかったんですけどね。左翼の友人が怖くて。怒るだろーな、みんな。でももう今となっては。まあ、これで<国民・住民投票を活かす会>が有名になればそれでいいです。

– じゃー、今日はこのへんで。市民運動の核心をつけなかったな。青山さんの野望も。でも、これからですよね、「青山の野心」が現れてくるのは。みんなも市民運動への疑問、質問、批判、罵倒などどしどしよこしてね。

フーッ疲れた。

HOME BACK

元統一教会信者の乾太一　８／16

唐突ですが、今回のインタビューはなんと、

　元統一教会信者の**乾太一（いぬい・ふといち）**君、40歳です。

　これもかなり唐突だけど、『がんばれ！！　新左翼Part２　激闘篇』（エスエル出版会）を７月末に出しましたが、この夏から秋にかけて僕の本がどっと出ます。６年前に出した『宗教なんてこわくない』（エスエル出版会、今週のブックガイド見てね）も９月に復刊されます。革命家にして仏教徒の、あの遠藤誠弁護士が解説を書いてくれました。

　実は、この本に出会って「ショックを受け、それで統一教会をやめた」のが乾君です。これは是非話を聞いてみたいと思いました。でも、こういう赤裸々な秘密の話は嫌がるかな、と思ったら、なんと快諾。

　「第１回目の＜国民・住民投票を活かす会＞の青山敬子さんのインタビューは面白かった。彼女の後に登場できるなんて光栄です。昨夜は嬉しくて一睡もできませんでした」という。青山敬子さんは「乾さんは顔も体型も似てるし、他人とは思えない。戦争中に生き別れた弟ではないか。それに同じ５本指靴下（水虫の人がはいてるやつ）をはいてる。こんな恥ずかしいのをはいてるのは日本に２人だけだ」といって泣いていた。

　そうか、戦争中に生き別れた姉と弟だったのか。そうすると、２人とも相当な年齢だ。変だ。それに青山さんは「33歳・処女」だといっている。そして「弟のような乾さん」といっている。ふだんは「こら、いぬい」と呼び捨てにしている。
じゃー、乾君は33歳以下なのか。じゃー、乾君（32歳）と訂正しておく。

　この乾君、週刊ＳＰＡ！　の僕の連載『夕刻のコペルニクス』（８月11・18日号）で”衝撃のデビュー”をした。

　６月28日、カンボジアで偽米ドルを所持していて逮捕され、タイで裁判を受けている「よど号ハイジャック犯」の田中義三さんの無罪判決の報告会を新宿のロフトプラスワンで開催したのだが、そこで「事件」があった。

　田中さんを取材し続けていたジャーナリスト（仮にＡさんとしよう。赤坂ではない）が、田中さんが書いた「野中広務官房長官あての手紙」を写真週刊誌に「売った」ことが問題とされたのだ。詳しい経緯は割愛するが、その場の雰囲気がＡさんの糾弾に集中しかけた。乾は「連赤の山中の内ゲバを見ているようです。僕なんか”デブは反革命だ”とかいってすぐ殺されますね」と啖呵（？）をきった。

驚いた。元連合赤軍の植垣康博さん（獄中27年）たちを相手に喧嘩を売っている。勇気がある。連赤が怖くないのだろうか。「タコペ」ではこのことを書いたんだ。

「いや、僕にとってはオウム事件が連赤事件なんですよ」という。エッ、何をいい出すのかと思ったら･･･。 では、「謎解き・乾太一」が始まります。

連赤事件があって、新左翼がつぶれたでしょ。それと同じで、僕にとっての連赤がオウム事件だったんです。オウムは別の宗教ですが、少なくとも宗教やってる人は殺人をするはずはない。警察の弾圧だと思っていた。ところが、オウムは殺人をしていた。ショックでした。そして鈴木さんの本を読んだ。それでやめたんです。

– 筑波大学２年生のときに入会したんだよね。騙されて？ それとも青山さんのように友達がいなかったから？

それもありますが、騙されたんじゃないです。「共産主義研究会」とか「世界思想研究会」とか偽装サークルがあったけど、それで入ったのではないです。統一教会だと知っていて、それで興味を持ってビデオを見に行ったんです。

– そんな人いるの？ 自分から行くなんて。

キリスト教にはもともと興味はあったんです。中学、高校とミッションだったから。でも、キリスト教に疑問を持っても学校の先生は答えてくれなかった。例えばアダムとイブはヘビに誘惑されて善悪を知る知恵の木の実を食べ、それで恥ずかしくなってイチジクの葉で体を隠した、という話がありますよね。知恵がつくとどうして恥ずかしくなり、神の怒りを買ったのか分からなかった。

統一教会では、その疑問をといてくれた。実は、２人はセックスしたんです。結婚前は許されていないのに。それで神の前に出たときに恥ずかしくてイチジクの葉で体を隠した、という。そうだったのか、と思いました。そんな誤解がほかにもあります。

– 確かに、そっちの説の方が説得力があるよね。

それに、集団でいると楽しかった。聖書を読み、神の国をつくるために働けるなんてすばらしいと思ったんです。バンに泊まり込んで全国をまわり伝道したり”珍味”を売ったりしました。使命感に燃えてたし、毎日が充実してました。鈴木さんも「生長の家」をやってたんだからわかるでしょう。魂が揺さぶられる毎日でした。

– そうだよね、俺なんか心が優しいし、清らかだから、本当は政治運動なんかしちゃいけないんだよね。辛淑玉さんと対談して、10月に青谷舎から本が出るんだけど、「鈴木さんは宗教家になればよかったのよ」っていわれた。人を見る目があ

るんだよ。宗教に戻ろうかな。

感傷的にならないでくださいよ。毎日、共同生活をして、神に祈り、聖書を読み、懺悔する。そのうち女の子が「お父様！」と泣き出す。清らかな感動的な光景ですよ。

－　うん、知らない人が見ると異様だけど。でも、その場にいると心が洗われるし、感動するよね。「私はこんな悪いことをしました」と涙を流して罪を告白する。僕も「本屋で万引きしました」「カンニングしました」「猫を殺して食べました」「空気銃で赤ん坊を撃ちました」なんて懺悔したもんな。でも、統一教会に入ったのは食い物につられたっていう説も聞いたことあるよ。

ギクッ！　300円で鍋と餃子を食べ放題だっていうんで何回か誘われて行ったんです。毎回食べさせてもらうだけじゃ悪いからって『ビデオを見に行きますよ』ってついいっちゃった。でも、こっちは友達10人くらいで、友達の家で見たから、安心だと思ったんです。でも、他の９人と違って僕はミッション出身だったから、聖書の謎解きができて、のめり込んだんです。

－　ミッションの人が危ないんだよね、統一教会は。僕も鍋の会があったら入ったかもしれないな。いや、「生長の家」があったから入らないか。それに、「生長の家」の学生道場（＝寮）にいたからな。僕らも毎日「祈りと勉強の日々」だったな。でも、隣の（部屋の）ヤマダ君がある日、統一教会に入って寮を脱走した事件があった。当時は統一教会のことを「原理研」といっていた。「原理の奴ら、許せん」と思ったね。「生長の家」の人は真面目で人がいいし、だから他の宗教家から狙われるんだよ。僕も「右翼」に誘われて今はこうだもんな。そうだ、ヤマダ君はどうしたんだろう。ヤマダ君を返せ！

知りませんよ、僕は下っ端だったんだから。ヤマダさん、このＨＰ見てたら、メールくださいよ。

－　食い物に誘われて統一教会に入り、オウム事件後にやめて、一水会と付き合うようになったんだね。でも一水会でも忘年会の鍋を食ってからだよね。食い物でコロコロ変わるんだね。

大学やめた時、一度家に連れ戻されて、牧師をよばれて”逆洗脳”されたことがあったんです。撥ね返したけど、でもあの時食事を与えられずに２～３日して「統一教会やめたら鍋を食わしてやる」といわれたら転んでたかもしれません。

－　すべては食欲か。なさけない。性欲もあったんじゃないの？

女性もほしかったけど、今と違い、筑波大は男ばっか。遊ぶところもない。心は空虚。自殺するか、統一教会に入るしかなかったんです。

－　すごい選択肢だね。でもあれだけマスコミに叩かれてもやめる人少ないね。

一度やめても戻る人がけっこういる。オウムだってそうらしい。一般の人にはそれがわからない。謎だ。

一度やめた人がマスコミの報道を見て「いくらなんでもこんなひどいことはない。マスコミは嘘つきだ。統一教会の方が正しい」って思うんです。だから、バカな評論家やテレビのワイドショーのコメンテーターが元信者をもう一度押し戻しているんです。やめて一度社会に出ても社会は相変わらず汚い。汚れてる。欲望に支配されている。こんなけがれた社会に住みたくないと思う。

– そうか。その点を一般の人は知らないでいる。誤解してる。戦前、戦中、共産党から転向して、また戻る人がいた。獄中で「日本精神」にふれて共産主義をやめる。本当に転向する。でも、社会に出ると相変わらず汚いし、矛盾に満ちている。それで、共産主義に戻る。これと似ているね。

そうですね。それに統一教会はみんな純真だし。純潔を尊重してます。33歳・聖処女だった人も多い。ここだけが美しい、清い世界だと思う。

– じゃー、統一教会をやめることなかったんじゃないの？

・・・。たしかに、そうですね。でも、キツクなったんです。”カンボジア難民のために寄付してください”とか”車椅子を送りましょう”とかいって人をだますのも嫌になったし。当時は、それにお金を出す人も救われるんだと本気で思ってやってたんですが。

– それに、社会に出るとテレクラやソープや援交や楽しいことがいっぱいある。あっ、世の中はこんなに変わったのか、と驚き、それでサタンの世界にはまったという説もありますが。

失礼な。デマですよ。アメリカの謀略です。僕は少女買春もしないし、テレクラで女の子と知り合って淫行なんかしてません。もっと真面目な理由で統一教会をやめたんです。

– そうだよね。世の中の奴らは無責任な嘘を流すからな。困ったもんだ。でも、なんせソウルの合同結婚式にも出たし。でも会員になって活動するまでは分かるけど、見も知らぬ人と結婚するなんて、よく決心したね。そこが理解できない。

今じゃ僕も理解できないけど、当時は清らかな生活に憧れてましたし。獣欲で女と交わっちゃいけないと思ってたし。結婚は信者同士が行ない、原罪のない子供を生む。そのためにする。だから文鮮明師が選んでくれたひとと結婚するなんて、これはすばらしいと思いました。それに、ＳＰＡ！　の河井さんみたいにカッコよくないから女には縁ないし。こんなことでしか人間の女性とは結婚できないと思ったんです（と泣き出す）。

－　結婚前の性交は許されないんだね。純潔であるべきだし。もちろん、不倫、援交、少女買春なんかしたら地獄に堕ちる。今のように性の乱れた時代だと、ひょっとすると、その反動で「統一教会ブーム」がくるかもしれないよ。でも、結婚前の男女が交わってはだめだけど、神の祝福を受けて結婚したら何をやってもいいの？　「１週間に１回以上はダメ」とか「正常位だけをしなさい」とかそんな規律はないの？

「避妊」はいけないんです。原罪のない子供をつくるのが目的だから。子供をつくる気がないのに性欲だけで交わるのはいけないんです。あと、「異常な」ことはダメですね。懺悔のときに「私は夫とオーラルセックスをしました。罪を犯しました。神様お許しください」といって泣いてる人がいました。リーダーが「罪人め！　恥を知れ！」といって棒でビシビシ叩いてました。

－　想像しただけでもかえって興奮しますね。それを撮ったビデオないの？あったらビデオ上映会に行きますよ。そうだ、今、中野図書館から旧約聖書のカセットテープ借りて毎日聞いてんだけど、いいねー。アブラハムが最愛の子、イサクを神に捧げて殺そうとしたんだよ。今はそこまで聞いてるんだ。

そのアブラハムの世界を僕らは毎日生きてたんです。我々も、アブラハムのように最も大切なものを神に捧げてくださいといわれて、大事な車やギターを売って献金させられたし。全国をバンでまわってる間、「腹減ったー」というと「エジプトが恋しいのか！」と叱られるし。モーゼにつれられてエジプトを脱出した人々は苦しいから、モーゼに対して文句をいう。時々「ああ、エジプトの方がよかった」といってたんです。で、後ろを振り返ると、ロトの妻のように塩の柱になって死んじゃうぞ！　とか。旧約の世界は、遠い昔じゃない、今なんです。

－　じゃー、いい体験をしましたね。

そうですね。宗教は人間の通過儀礼なんですよ。鈴木さんもそうでしょう。宗教をやったんで、今があるわけでしょう。それも本を読んで知識としてスーッと頭に入れるんじゃなく、実地でやってみなくっちゃー。得たものは多いんですよ。ぜひ、このＨＰ、見てる皆さんも、一度、統一教会に入って伝道し、活動してみませんか。僕が紹介しますよ。

－　あらあら、最後は「勧誘」になっちゃったよ。本当はやめてないんじゃないの？　スパイじゃないの？　査問しなくっちゃー。では、このへんで。そうだ、このＨＰで「いぬいふといちの伝道日記」を連載したらいいのに。面白いよ。それで、宗教をめぐって大論争をやるとか。いいねー。

インタビュアーは、鈴木邦男でした。

次は誰をやろうかな。犠牲の羊を探してる僕です。

HOME BACK

市民運動家の僕について　8/23

８月９日の「今週の主張」で、＜国民・住民投票を活かす会＞の青山敬子さん（33歳・処女）にインタビューしたら、「市民運動や国民投票のことが歪めて伝えられた！」と本人はえらくご立腹だ。キチンと市民運動家の素晴らしさを伝えていると思ったのに。

「あのインタビューはひどすぎます。鈴木さんは市民運動家を馬鹿にしています。国民投票だって本当はどうでもいいんでしょう？　今までの朝日新聞のコメントとかはウソだったんですね」という。参るなー。月刊誌『創（つくる）』３月号にも国民投票について書いたじゃないか。＜活かす会＞も宣伝してやったし。

それに、僕は本当は市民運動家なんだ。みんなは僕のことを知らないんだ。誤解してるんだ。「ペッ、右翼のくせに何をいうか」と思っているんだろうが、いけないよ。そんなふうに偏見で差別的に人を見ちゃー。右翼というより、僕は市民運動家だ。そして、宗教家だ。宗教家の側面については新コンテンツで書くから、ここでは市民運動家の僕について書く。

そうだなー、36年も昔のことになるな。僕はミッションスクールの高校３年生だった。早稲田大学の政経学部にはいろうと必死で勉強していた。本当は早稲田でも慶応でも日大でもお茶の水（？）でもどこでもよかったんだ。人が一杯いて、他人に干渉されないで好き勝手にできる大学だったらどこでもよかった。ともかく「自由」がほしかった。それだけ高校の生活は抑圧的で不自由だったんだ。

早稲田の政経の入試は３科目だ。英、国、社で受けた。社とは「一般社会」（と当時はいった）だ。そこではじめて「政治」とか「民主主義」について勉強した。中学でも「社会」はあったかもしれないが全然覚えていない。きっと「日本史」と「世界史」しかやらなかったんだろう。日本に天皇や首相がいるとかさえも知らないアホな田舎の中学生だった。

ともかく、高校の２年か３年で初めて政治や民主主義を習った。みんなが平等に、自由に、豊かに暮らすために「政治」が必要なんですよ、と先生はいう。うん、そうなのかと思った。そして、一人一人に「主権」があるのだという。そうか、僕ら一人一人が政治の主人公なのか、僕らが政治を決めるのか、と思った。

もともとは、そこに住む住民が１カ所に集まって全員で討議をして決めていた。これを「直接民主主義」という。本当はこれをやりたいんだけど、人口が増えちゃって１カ所に集まれない。スイスの一部の州では今もやってますが･･･と先生はいっていた。

つまり、１カ所に集まれないから、「次善の策」として、「間接民主主義」になった。国民が議員を選んで、その議員を通して自分たちの意見を代表してもら

う。ところが、今は「代表」なんかしてくれないし、「反映」もしてくれない。大体、今の政府に反対だといって野党に投票すると、その野党が勝手に連立に参加し、与党になってしまう。投票した人間には何の相談もなしにだ。もっと「主権者」の意志を反映させる政治にしろ！　と怒るのも当然だ。

高校で「主権者」について習ったときは、そこまでは考えなかった。卒業してから「変だなー」と思ったんだ。そして今では「国民投票」があるじゃないか、と考えている。

話が先走ったな。話を高校の「一般社会」の授業に戻そう。授業では随分とかっこいい言葉を一杯教わった。たとえば「権力は腐敗する。絶対的権力は絶対に腐敗する」。うん、いい言葉だ。そうかこれが権力や政治の本質か、と思った。でも、日本じゃー、腐敗してもそのまま権力は続いている。強固だ。これではあまり意味のない言葉だったなと思う。「犬も歩けば棒に当たる」みたいな諺みたいなものか。

それから、「君の意見には反対だ。しかし、それを発表する自由は命を懸けても守る」。ウッ、かっこいいなーと思った。シビれた。涙が出るくらいいい言葉だ。これが政治の理想だ。これこそ「言論の自由」だと思った。ところが、今考えると、こんなこと実行してる奴は一人もおらへん。「朝まで生テレビ」を見ても分かるように、考えの違う奴は怒鳴りつけて、しゃべらせまいとしている。それで「民主主義」とか「政治は･･･」なんて偉そうなこといってるんだから。反対意見を積極的に紹介し、守ってんのは『頑張れ！！　新左翼』（買ってね　）に代表される僕だけじゃないか。

こうして見てくると、高校で習ったことはみんな嘘だったんだ。いや、習ったことは「本当」なんだけど、現実社会がそれを実行してない。現実政治が「嘘」なんですよ。

それに「代表なくして課税なし」という言葉も習ったぞ。これはアメリカが独立戦争の時、生まれたんだ。

要するに、政府が税金を国民に課するのならば、投票権を与えるべきだ、ということだ。当然の話だ。我々は奴隷じゃないんだ。働いて、金を搾り取られるだけじゃたまらない。

でも、よく考えると、この「当然」が行われていない。「在日」の人たちは働いて税金を納めている。なのに参政権はない。これはおかしい。参政権を認めるべきだと僕がある集会で発言したら「鈴木は売国奴だ！」と右翼で一番大きい新聞に大々的に書かれて批判された。それを見てドッと抗議、糾弾が来た。僕は高校で習った教科書のとおりにいっただけなのに。

それに、高校を卒業したらすぐに働いている人もいる。税金はしっかり取られて

るが、未成年だから投票権はない。これもおかしい。18歳以上の投票権を認めている国も多い。日本も認めたらいい。

　でも、日本は自民党という「腐敗した権力」が長期独裁、独占だったんだから「18歳以上」は認めたくなかったんだろうね。「そんな若い人に投票権を与えたら、みんな社会党や共産党に投票する」と思ったんだ。「在日」の参政権を認めないのも同じ理由だったんだろうね（注・参政権は投票権だけでなく議員に立候補する被選挙権も含むんだよ）。

　ちょっと話がカタクなったけど、ともかく高校で習った政治の理想とか理念なんてどこにも生かされていないじゃないか、ということですよ。

　「直接民主主義」はみんなが集まれる狭い地域でしかできない、というが、だったら「狭い地域」の問題はみんなが集まって決めたらいいじゃないか。でも、それを許してない。変だよなー。東京ドームや神宮球場などをそうした住民集会、住民投票の「場」にしてもいい。それよりもこれだけメディアが発達し、技術の進歩もあるんだ。電話投票でも双方向チャンネルのテレビを使うのでも、やり方はいろいろとできるだろう。そうした技術を通して、「一度に集まる」ことはできるのだ。しかし、一旦、間接民主主義に慣れてしまうと、直接民主主義のやり方があっても、もう戻ろうとしないし、取り入れようともしない。

　これは、間接民主主義で選ばれた議員どもが「自分こそ主権者」だと思い、自分たちだけが政治をするんだと錯覚して、思い上がっているからですよ。

　「オレたち政治家が政治をする。国民はオレに投票するだけ。オレが歌をうたう。国民はオレのバックコーラスでいい」。こういう発想なんだよね。だって、「電子投票」なんて機械でできるし、すぐに使える。でも、国民を信頼していないから使わないんだ。投票所でボタンひとつでできる。そうすると、投票終了後、１分もしないで集計できる。そうすると、テレビで延々と「選挙速報」をやる必要もない。

　ではなぜできないのか。「おっ、これはおもしろい」と思って、今まで投票に行かなかったような人も、「面白半分」で行かれたら困ると思っているのだ。国民はアホだから、便利な投票にすると、グンと投票率が上がるだろうが、変な政党に入れるだろう。だから危ない。そう考えているんだ。雨でも風でも歩いて10分くらいかけて近くの学校に行き、候補者の名前をちゃんと書く。そういう「苦労」とか「わずらわしさ」を耐えた人だけが本当に投票する資格がある真面目な投票者だと思っているんだ。

　変な話だ。「不真面目」でも「遊び半分」でも投票権があるんだから、行使させたらいいだろう。それが民主主義だ。しかし、「そんなのは腐敗した民主主義」だというんだろうな。腐敗した権力者どもが。

　というわけで、高校の教科書と現代政治のあまりのギャップをみてこれはおかしいと感じたんですよ、僕は。それで、「国民投票」や「住民投票」のことを考えたんですよ（注・市民運動家の青山によると、このふたつはちょっと違うという。町とか市とか県とかという一部地域の問題は「住民投票」で決めればいい。安保、憲法、国旗、国歌などの全国民的問題は国民全員が参加して「国民投票」で決めるべきだ、ということだそうだ）。

　国民投票は、ゆくゆくは安保、憲法にいくとして、「年初めに」あるいは「練習」として国旗、国歌をやってみたらいいと思ったんですよ。そんなに大騒ぎして命をかけるなんて問題でもないし。全国で公聴会をやり、国民投票をする。
「あっ、国民投票ってこんなふうにするのか」とみんなの理解も得られるし。１回の投票でずっと決まるのは怖いというのなら、４年に一遍、オリンピックの前に国民投票をやってもいい（こういうことをいうとまた攻撃されるんだろうな）。

　ともかくですよ、国旗国歌法案はもっともっと議論して国民投票にするいいテーマだったんです。ところが国会でなんの抗議もなく決まっちゃって拍子抜けですね。

　再び、三たび、話は高校時代に戻る。政治は国民主権のはずなのに、国民の手にはない。それを疑問に思っていたら「首相は国民投票で選ぼう」というポスターが目についた。これはいいと思った。「国民投票」という言葉に新鮮な感動を覚えたのだ。元国会議員の只野直三郎さんのやっていた「日本人民党」という団体だった。学校に行く途中だったので、フラッと寄ってみた。高校生だといったら大歓迎してくれた。僕が「首相だけでなく重要な問題はみんな国民投票で決めたらいいんじゃないですか」といったら、「そうなんだよ、鈴木君！」といって只野先生は僕の肩を両手でポンと叩いた。鈴木邦男17歳。初めて「国民投票」に目覚めたわけである。さて、鈴木少年はこの後どうなるのか。国民投票とのかかわりはいかに。風雲急を告げる次週を待て！

HOME　BACK

『ＪＣトーク戦後54年！日本民族を考える』に出演　８／３０

朝日ニュースター（衛星チャンネル）の討論番組『ＪＣトーク　戦後54年！　日本民族を考える』に出演した。８月21日（土）の午後１時から３時までの生番組だった。ばばこういちさん司会の非常に良質な番組だ。ただ、地上波じゃないから見るひとが少ない。それだけが残念だ。ケーブルＴＶ、ディレクＴＶ、スカイパーフェクＴＶなどでは見ることができる。僕の仙台の実家ではケーブルＴＶに加入してるので、50チャンネルくらいうつる。映画専門、ニュース専門、ＣＮＮ、予備校のサテライト授業と、いろんなものが見られる。この朝日ニュースターも見られる。ところが、東京のわが家では地上波だけ。７チャンネルしか見れない。文化は仙台の方が高いんだ（赤坂注・それは邦男さんちだけでは？）

　さて、『ＪＣトーク』だ。ＪＣとは、日本青年会議所のことだ。。40歳までの企業経営者、弁護士さんなどが入っている。今回はＪＣメンバー５人とゲスト２人の討論会だった。

　ゲストは小林宏一さん（東大教授・社会情報研究所）と僕だ。冒頭、ばばさんがこう問題提起する。

　「あの太平洋戦争が終わって今年で54年が過ぎました。戦争直後に生まれた子供が既に54歳。孫までできる年になりました」そうか。半世紀か。でも56歳になって独身でフラフラしてる奴もいるけど、と思った（赤坂注・つっこもうと思ったのに先越された。でもひとのこといえない自分）。小林さんは57歳。これを聞いてどう思ったのか。

　ばばさんは「幾多の日本人の貴い命が奪われ、多くのアジアのひとも犠牲になったあの戦争。私たち日本人はこうした体験の上に立ってどこまで世界の平和に貢献してきたのでしょうか」と続ける。

　「日の丸・君が代が法制化され、通信傍受法も国会を通過した今、”いつかきた道”を繰り返すことにならないのか。世界の平和と地球市民時代を運動の柱とするＪＣが今改めて日本民族の21世紀へ向かう在り方を考えます」。

　これを受けて小林さんが「今の政治の流れは危険だ。まるで大政翼賛会だ」という。うん、そうだよな、と僕も頷く。しかし、30歳代のＪＣメンバーは、キョトンとしている。実感がないらしい。まあ、僕だって戦争も大政翼賛会も知らないから（赤坂注・エッ、そうなんですか？）、「その頃に戻る」といわれても実感はない。ないけど、他人に向かってはよくいってきたし、書いてきた。

　よくわからないが、ともかくロクにものもいえないような不自由な時代になって

いる。そういう不安を感じている。石川啄木は「時代閉塞の現状」といったが、そんな感じだ（これは９月６日発売の月刊『創』10月号の『鈴木邦男主義』に詳しく書いた。赤坂注・また宣伝してますね）。

「日の丸・君が代法制化」について聞かれて、ＪＣの一人はこういった。「何故騒いでいるのかわからない」。「なにも騒いで法制化する必要はない。放っておけばいい」といったのかと思った。しかし、違うのだ。

「日の丸は国旗だし、君が代は国歌だし、当たり前の話じゃないか。そんな自明のことを何故わざわざ論じるんだ」という。他のＪＣのメンバーもそういう。拍子抜けがした。

僕は「日の丸・君が代は国旗・国歌だ」といった。昔だったら、その時点で「バカヤロー！　誰がそんなこと決めたんだ！」「日の丸は侵略戦争の血で汚れてるんだ！　もう一度戦争をやる気か！」「反動だ！」と罵声を浴びせられ、徹底糾弾される。しかし、今はそれがない。リアクションがない。手応えがない（赤坂注・私ならやりますね）。

へエーと思った。若い人は革新的なひとが多いと漠然と思っていたが違うんだ。そうか。30代とはいえ、ＪＣのひとだ。経営者だ。だから保守的なのか。市民運動の集会にくる若者達とは全然違う。でもＪＣメンバーの弁護士さんがこういった。「日の丸・君が代法制化、通信傍受法、ガイドライン法といろいろ問題がある。だったらそれらひとつひとつに対応したらいいでしょう。それなのに「＜この流れ＞は、”いつかきた道”だ。＜戦争につながる＞と断定するのはどうか。セットにして＜これは戦争に直結する＞といわれてもピンとこない。年配の人達は昔からそういってきたじゃないか。でも戦前には戻っていない」。

あっそうかと思った。「僕らは＜狼少年＞なんですよ」と隣の小林さんにいったら苦笑していた。僕も反省した。＜言葉＞が通じていなかったんだ。右翼も左翼も若者達に通じる言葉を持ってなかったんだ。「大政翼賛会だ」「戦争につながる」といってもピンとこないんだ。「大政翼賛会ってナーニ？　みんなでワイワイ騒いで盛り上がるの？　コンパみたいでいいじゃん」「戦争につながるっていわれてもねー。でも、時には闘うことも必要じゃないの？　だって、カッコいいもん」・・・と思っているのかもしれない。

「俺たちは霊感商法だったのかもしれないな」と反省した。元統一教会の乾君（赤坂注・おなじみ本ＨＰスタッフ）を笑えないな。霊感商法は「あなたの先祖の霊が苦しんでいる。私には見える。その霊を救うためにはこの100万円の壷を買え」という。霊は普通のひとには見えないから、苦しんでるのかどうかわからない。本当はハッピーなのかもしれないし、あるいは苦しんでいるのかもしれない。それを「私にだけは見える」というからいけないんだ。みんなにわかるように見せたらいい（無理か、それは）。

左翼のひとたちも同じことをやってきた。

「今は平和だというけど嘘だ。盗聴法、国民背番号制、日の丸・君が代法制化･･･と戦前に逆戻りしている。反動国民政府は再び侵略戦争を準備してるんだ。お前達には見えないが、オレだけには見える。だから我が〇〇同盟に入れ！　カンパしろ！　それができないやつは反動自民党に手を貸すことになる。戦争協力者だ！ファシストだ！　死ね！」。

また、「今が一番危ない。今立ち上がらないと日本は取り返しがつかなくなる。戦争になり兵隊にとられるぞ！」といってきた。

これじゃー＜狼少年＞といわれてもしかたない。右翼だって同じだ。「今が国難だ。祖国の危機だ。一見平和そうに見えてるが、これほどの危機は未だかつてなかった。お前達には見えないが、オレだけは見える。国家はどんどん悪くなっている。国の誇りはどうした？　子供の教育は？　あー、もう破滅だ！」。

右翼も左翼も「霊感商法」なのだ。さらにもっと詳しく具体的に『がんばれ！！　新左翼　Part３　望郷篇』に書いた（赤坂注･これは10月末にエスエル出版会から出ますってなんで私が･･･）。

でも、これは他人事として批判してるんではない。自分でもいってきたし、やってきたことだ。自己批判し、総括してるんだ。運動体を持ってると、ひとを集めなくちゃならない、新聞の発行部数を増やさなくちゃならない。だから、勢いのいいことをいう。＜今が一番危ない＞と危機感をあおりたてる。また、それが通用した。

しかし、今は通じないようだ。「大政翼賛会ってナーニ？」だもんな。本当いうと僕だってよく知らない。地獄を見たこともないくせに「地獄へ堕ちるぞ！」と脅しているようなもんだ。

日本の昔話にこんあのがあったな。海が荒れて漁に出れない。「海の神が犠牲を求めているんです」と坊主がいう。何人かの娘が犠牲に捧げられる。しかし、海は鎮まらない。「まだまだ犠牲が必要です」。殿様は頭に来て「お前が行って海の神に頼んでこい！」。そして坊主を海に叩き落とす。　面白い！　いい話だ！　昔のひとの方が知恵があったんだよ。

ところで大政翼賛会だ。よくわからないので辞書を引いてみた。『辞林21』（三省堂）によると、こうだ。

「1940（昭和15）年10月、近衛文麿を中心とする新体制運動推進のために創立された組織。産業報国会、大日本婦人会、隣組などを傘下に収めて国民生活のすべてにわたって統括した。1945年国民義勇隊ができるに及んで解散」（赤坂注・ついでにいうと全政党が解散させられてますね。ファシズムなんですね）。

戦争のためにすべてが統制され、国民も協力した（させられた）ということなんだ。たしかに不幸なことだけど、戦争になったらどこの国でも統制し、一丸となって闘ったんだろうな。その中で使命感や生き甲斐に燃えたひともいただろうし、楽しいことだって少しはあっただろう。バケツリレーは結構楽しかったよ（変だな、体験したような気がする）。ものごとには光りもあれば影もある。それなのに「あの時代はすべて闇だった。否定するしかない。あの時代に戻してはならない」と絶叫してるだけじゃダメなんだろう。

それに「翼賛」とは何だ？　右翼も左翼も仲良く協力しようってことかな。翼をパタパタさせて「戦争だ、戦争だ！」って騒いでることかな。いや、「こんなことじゃ戦争になるぞ！」と翼をパタパタさせて騒いでることだろう。だったら今の右翼・左翼と同じじゃないか（変な表現だな）。

『辞林21』をもう一度ひいてみた。「翼賛」とは「力をそえてたすけること。補佐すること」と書いてあった。じゃー、別に「翼」はいらないじゃないか。そうか、わかった。こりゃー、アメリカ帝国主義の謀略ですよ。きっと。

悪いことは全部、右翼と左翼になすりつけて、いけにえにしようという陰謀なんですよ。「鈴木邦男はロリコンだ。女装癖がある。ＳＭ趣味だ。セーラー服を持ってる」というのもアメリカが流してる謀略なんだ。チクチョー、そうだったのか（赤坂注・そうなんですか？）。詳しくは元赤軍派議長の塩見孝也さんに聞いてみよう。そして、インタビューの経緯はこのＨＰに載せよう。

「一人一殺」で有名な血盟団（1932年頃）の井上日召は戦後、占領軍に取り調べられて、「Are you a right winger？」（お前は右翼か？）と聞かれた。井上日召、少しも騒がず「ワシは鳥ではない。I have no wing.」といったんだ。これは歴史の本に出てたから本当だ。ワシ（鷲）は鳥だけど、「ワシは鳥でない」というところはシャレにもなっている（赤坂注・キャー寒すぎる！）。そうだよなー。俺にだって翼はない。重信房子さん（日本赤軍）のお父さんの重信末夫さんに25年前に会ったとき、この話を聞いたら「本当だ」といっていた。彼がなぜ、血盟団のことを知っているのか。だって末夫さんは血盟団のメンバーだったんだ。父は右翼のテロリスト、娘は左翼ゲリラ。両極端だ。されど仲良し。両極端は一致するのです。これぞ「翼賛」体制か！　（重信さんのことは９月末にエスエル出版会から出る『右であれ左であれ』に詳しく書いた。ぜひ読んでくれよん）。

とにかく井上日召にギャフンといわせられた（赤坂注・英語で「ギャフン」とは？）占領軍は、カーッとなって「右翼左翼同時抹殺計画」を立てた。辞書もすべて検閲し、悪いことはすべて右翼と左翼になすりつけるようにした。これが歴史の真実なのだ！（赤坂注・でも「翼賛」という言葉じたいは戦前からあったらしいですよ。ちょっとズサンな謀略史観じゃないですか？）

だから、そんな「戦後体制」からは脱却しなくてはならない！　と結論が出たと

ころで終わりにしよう。

　そうだ。いいことを思いついた。「君が代」がいやだって左翼のひとはいうけど、代案がない。だから知恵をつけてやろう。「この道はいつかきた道だ！」といってんだから、この歌を国歌にする！　オリンピックで勝ったら「このみちーはいつかきたみちー。ああーそおだよおー」と大声で歌う。そして演説する。

　「日本は侵略戦争をして皆様にご迷惑をおかけしました。だから二度とこんなことはやるまいと自戒と懺悔の気持ちで歌ってるんです。お赦しください。アァメン」。そうしたら、世界中の人々の涙を誘うだろう。いいじゃないか、感動的、自虐的、マゾ的で（赤坂注・それってご自分のことでせう。まったくもぉ）。

HOME　BACK

『がんばれ! 新左翼』のこと　９／６

もしかしたら、これも「教科書が教えない歴史」なのかもしれない。『がんばれ！　新左翼』のことだ。＜Part１＞が出たのが10年前。＜Part２＞は６年前にできあがっていたが、いろんな事情で出せずに今年になってやっと出た。自分でも好きな本だし、書いていても楽しかった。

ただ、２冊を今出すことに不安はあった。あの時代を知ってるひとからは「今さら新左翼もねーだろう」といわれるんじゃないか。今の若者たちからは「そんな古いこと、どうでもいいよ、ウルセーな」といわれるんじゃないか。そう思ったのだ。

それに、校正するのも恐かった。なんせ10年前と６年前の本だ。それも単行本にする前は各々『秀麗の山河』（赤坂注・民族派の隔月刊誌）、『新雑誌21』（丸山実編集長の伝説の雑誌）という雑誌に連載していたものだ。だから、本当に書いていたのは12年前と８年前だ。そんな昔の文章を読むのは嫌だったし、恐かった。あの頃は文章は下手クソだったろうな、と思った。

まあ、今だって、文章は下手だと思っているし、ひとの心を打つ文章なんて書けない。ただ、この10年間、勉強はしたつもりだ。本だってものすごく読んでいるし、「文章の書き方」の本も読んだ。講師をしている予備校でも「教える」というより自分が「学んでる」つもりで現代文を勉強した。表面には現れていないかもしれないが、＜成長＞したと思っている。だから、10年前の文章なんておかしくて読めない。そう思っていた。

ところが、読んでみると面白い。これにはビックリした。文体はメチャクチャだし、いや文体なんかない。文法も無視している。しかし、面白い。これは素材そのものがイキがいいし、美味いからなんだろう。つまり、日本料理のようなもんなんだ。

今は、文章を勉強し、なんとか文法的にも正しい文章を書こうとして、料理法や調味料の研究をしている感じだ。これはフランス料理を目指したのか。10年前は、生のままかじり、荒っぽく野性的に料理したんだなと思った。それが「若さ」だとは思いたくないが（赤坂注・でも10年前って何歳だったんでせうか。若かったんでせうか）。

自分で読み返して面白かったんだから、他のひとだって面白いだろうと少し自信をもった。最近の手紙やＨＰの書き込み、メールも『がんばれ！　新左翼』に関するものが多い。これもうれしい。

『まんだら屋の良太』で有名な漫画家の畑中純さんからは丁寧な読書評を頂いた。その一節にこんな箇所があった。

「＜Part１＞＜Part２＞一気に読みました。『夕刻のコペルニクス』へと続いていく、これは鈴木さんのライフワークですね。『ケルン・パー』で大笑いしました」。

うれしかった。本当をいうと、この本は「文章によるマンガ本」

なんだ。少なくともそう目指していた。それに、写真やイラストが多いし、「ちょっと文章の多いマンガ」と読めないこともない。畑中さんが大笑いした「ケルン・パー」は、読んでくださった方はおわかりだと思うが、中核派のことを昔（今もそうかな？）は「ケルン」と呼んでいた。

中枢、中核のことをドイツ語で「ケルン」というからだろう（赤坂注・ホント？）。他の党派（革マルや社青同解放派など）はこれを馬鹿にして「クルクル・パー」に掛けて「ケルン・ケルン・パー」と揶揄していた。今どき、子供でもこんな言葉は使わないだろうな。「バカ、カバ、チンドン屋、お前の母ちゃん、デベソ」なんて悪口もあったけど、これも今は使わないだろう。それに、「チンドン屋」をこんな風にいったら差別になってしまうし。

それから、名古屋に住むＭ・Ｈさんからこんなお便りをもらいました。「この種の本としては読みやすく、思想に関係なく、だれにでも薦められる（？）ものと思います。これを読んで『自分も新右翼になろう』と考えたひとも多いのではないでしょうか？　しかし、タイトルが『がんばれ！　新左翼』ですので、『新右翼になりたいが、新左翼活動もやらなければ･･･』と悩むんでるひともいるのでは？」

いいのではないか、両方やったら。なんならシーズンごとに分けてやるとか。夏は「北方領土返還」とか、終戦記念日もあるから新右翼をやって、秋は国際反戦デー（10月21日）などがあるから新左翼をやって。または１年ごとに変えるとか。

一水会会員で元中核派の成島君がいってたが（赤坂注・今週の「邦男の部屋」に登場！）、この本を読んで中核派に入ったひとが本当にいたそうだから驚きだ。

中核派の機関紙『前進』だって売上が飛躍的に伸びたはずだ。だって「警察に目をつけられないで『前進』を読むにはどうしたらいいか」と電話や手紙で尋ねられて、そのたびにキチンと返事出してやったから。新宿の「模索舎」（赤坂注・ミニコミ誌を扱う本屋さん。『レコンキスタ』も置いてます。電話03-3352-3557）や高田馬場駅前の芳林堂書店に置いてあるからそこで買う。近くに置いてある書店がないときは直接手紙を出して申し込む。ただし、封筒には自分の名前などは書かず、中に書く。さらには「個人名」で送ってもらう。･･･と、『前進』の安全な読み方を指導してやった。

そんなひとが1000人くらいはいただろう。中核派にはこんなに貢献しているのにまったく感謝もされない。「じゃー、お返しにレコンキスタを拡張してあげましょう」というのもない。不人情な奴らだ。それに、以前、法政大学のサークルに講師

で呼ばれて行こうとしたら、中核派の奴らにつぶされてしまった。まったく恩を仇で返す奴らだ、プンプン。

Ｍ・Ｈさんがいうように「誰にでも薦められる（？）」本なんだ。でも、この「（？）」は余分だ。Ｍ・Ｈさん、僕が気を悪くするから、こういう余分なものは付けないように（赤坂注・なに威張ってんですか）。

ちなみに文の後につける「（笑）」というのもイヤだ。文章は全然面白くないのに、笑いを強要しているようで。だから僕は一度も使ったことはない。生涯使わない（赤坂注・スミマセン、私は多用してます。笑い）。

ともかく、誰にでも薦められる本なんだ、本当に。100年後には教科書になる。だって「100年前に新左翼って生物がいたらしいよ」って本で読んでもよくわからない。彼らの機関紙を読んでもチンプンカンプン。それを解説した本を読んでも更にわからない。そのときですよ、この本が教科書になるのは。そして、これから試験問題も出る。「『青春の墓標』の著者名を記せ」「高野悦子の三部作を書け」「赤軍派がハイジャックを決意するきっかけになったマンガは次のうちどれか。①冒険ダン吉②サザエさん③明日のジョー」「社青同解放派は当時なんといってバカにされていたか」「反帝反スタとは何か」「16歳少女買春で失脚した革命家の名を挙げよ」･･･うん、いくらでも作れるな。

そういえば、昔、一水会では「入会条件」として「論文提出」をやってた。それと「鈴木邦男の本を５冊以上読んでいること」という条件があった（赤坂注・それ、キツ〇目組さんが今もやってますよ。邦男さんの本じゃないけど）。「ただし、左翼本とプロレス本を除く」と書かれていた。

誰がこんな条件を決めたんだろう。

プロレス本はわかるけど、『がんばれ！　新左翼』や『腹腹時計と＜狼＞』のような左翼本もダメなんだってよ、面白い本なのに（赤坂注・他人事みたいにいってますね）。

そうか、一水会も大きくなったら「楯の会」（赤坂注・三島由紀夫さんがつくった世界一小さい軍隊。ちなみに当ＨＰ製作はヨコの会）のように面接や試験をすればいいんだ。「三島由紀夫の『文化防衛論』の今日的価値について述べよ」「野村秋介の唱えた新浪漫派とは何か」「ケルンパーの意味を述べよ」「三派全学連の三派とは何か」･･･うん、これだっていくらでも問題は作れる。

ＨＰの掲示板を見ていたら、結構この本を読んでくれているひとがいて、これもうれしい。「横尾忠則と三島由紀夫の霊的兄弟盃」がよかったと書いてくれたひとがいた。これはいい話だ。それから、ＨＰスタッフの神風真理ちゃん（推定年齢19歳）は、この本を読んで高野悦子の『二十歳の原点』と奥浩平の『青春の墓標』を読んだって。偉いね。図書館で借りたの？　こういう波及効果があると本当にうれ

しい。

ここまで書いていてアッと思った。連合赤軍事件を書いた永田洋子は『16の墓標』（彩流社）という本を書いているが、これは『青春の墓標』からとったんだ。今、気が付いた。これは間違いないだろう。奥浩平は中核派の活動家で、革マル派の女の子に恋をし、「学生版・ロミオとジュリエット」と騒がれたもんだ。禁断の恋に悩み、活動に悩み、自殺してしまう。自殺の「墓標」だ。一方の永田は仲間を”総括”して殺した。他殺の「墓標」だ。しかし、墓標ばかりが増えて嫌だな。そこから更に「甦れ！」なんていうと怪談噺になっちゃうし。

しかし、『青春の墓標』はなんと、文芸春秋から出版され、解説を中核派トップの北小路敏が書いてた。今なら考えられない。当時は新左翼もキチンと認知されてたんだ。この本の中で奥浩平はこんなことをいっている。

「私の体には革命のヒドラが宿っている。そして私は結論する。私は愛についてつつましくなければならない。私は革命家であり、私は全国委員会なのだ。私はプロレタリア革命の子であり、エロスの子ではないのだ」。

すごいねー。「革命の子」だなんて（赤坂注・T-REXの曲にもありますよ『CHILDREN OF THE REVOLUTION』）。今の子供も見習えよ。お前らは皆「エロスの子」ばっかりじゃないか。

ところで、「ヒドラ」とは何か。辞書を引いたら、ギリシャ神話に出てくる９頭の蛇だ。それから沼地に住むヒドラという生き物もいるらしい。小さいが再生力が強いというから、ここでは「革命に対する不変不屈の情熱がある」ということだろう。現代文の解釈のようになっちゃったな。

ところで、「私は革命の子。エロスの子ではありません」には原典がある。原典といっちゃー変か。多分、与謝野鉄幹（与謝野晶子のダンナだよ）の次の歌を意識したものだ。

われ男（お）の子　意気の子　名の子　つるぎの子

詩の子　恋の子　あゝもだえの子

いい歌だね。日本男児だ。でも詩の子、恋の子でもあるし、もだえの子だ。すごいね。でももだえてるだけじゃダメだと、奥浩平は「革命の子」だといったんだ。奥の本は絶版だけど、図書館で探したらあるだろう。ぜひ読んでほしい。

そうだ、中核派で出せばいいじゃないか。それとも文春文庫で出すとか。今はく

だらない本ばっかり多いからなー。こういう良書はぜひ文庫にしてほしい。

その点、高野悦子の『二十歳の原点』『二十歳の原点序章』『二十歳の原点ノート』は三冊とも新潮文庫から出ているから、すぐにも読める。実は、僕はこれを紹介するくだりで思わず涙が出てしまった。当時はこんなひたむきな美しい心を持ったひとがいたんだ。そして、革命運動に青春を懸け、燃焼し、死んだ。『がんばれ！　新左翼　Part２』の「第９章　イデオロギー闘争の彼方に」で、奥、高野について書いたが、今読み返しても胸がキュンとなる。あっ、こんなひとたちがいたんだと思う。

オレなんて、なんて堕落しているんだろうと思う。『聖書』を読んで心が洗われ、今の自分を反省する。そんな気分になる。そうだよな、この２人の本は『聖書』だったんだ。本を読んでいないひとのために紹介すると、高野はこんなことを書いている。

「上洛してから帰省後の遅れを取り戻そうと必死になり、『朝日ジャーナル』や『現代の眼』『展望』を読んだ。本当にその内容を理解できたかどうかは疑問だが、ただ何かを求め、何かを漠然と感じたのだった」。

「これからデモに行こう。国家権力との対決なくしては、人間は機械になってしまうんだ」。

「決意。私はスキー道具一式を売却し、その金で『資本論』およびその他の本を買うことをここに誓います」。

うーん、偉いなー、すごいなーと思う。何遍読んでもこのあたりは涙が出る。やっぱりデモや集会くらい自由勝手にやらせるべきだよ。そして『資本論』を学校で読ませるとか。新左翼があることによって、こういう心の美しい、ひたむきな若者も生まれたんだ。

「国の誇り」を押し付けながら、どうしようもない若者が増えるよりいいんじゃないか。茶髪にして、ヘラヘラして、女の子と肩抱き合って渋谷の街を歩いていながらテレビの「ニュース23」のマイクをつきつけられて「国の誇りは大切っすよ」なんていってんだからな。ハヤリなのかね。そして「軍隊は必要っすよ」とか「あの戦争は正しかった」なんていっている。

こんな「愛国」少年たちよりは昔の「革命」をめざした若者たちの方がずっとまじめでひたむきで、偉かったと僕は思うっすよ。ちゃいますかね。ということで今週のオブジェクションは終わり。

HOME　BACK

９・２（クニ）集会　もうアメリカの言いなりはやめよう！　９／１３

「第５回　９・２（クニ）集会　もうアメリカの言いなりはやめよう！」に参加した。９・２はわざわざ「クニ」と読ませている。「クニ君集会」だ。まるで僕の集会みたいじゃないか。でも違う。まあ、元赤軍派議長の塩見孝也さんと一水会の木村三浩君が中心になってやった集会だから僕も関係あるか。挨拶もさせられたし。

＜９・２＞というのは、54年前の９月２日のことで、この日、日本はアメリカに敗れ、米戦艦ミズーリ号上で降伏文書調印をした日だ。日本はいまだにアメリカに従属している。対米従属のグローバリズムと闘い、９・２（国）のことを考え、「人間自主の仁義、愛、信頼に溢れた徳高き日本をつくろう」というのだ。

飯田橋のシニアワーク東京で行われ、150人が参加して盛況だった。イラク大使やユーゴの民族派運動家の挨拶もあった。日本だけがよければいいという排外主義的な民族主義ではない。世界的連帯の中の民族主義だ。そこがいい。だから僕も「この路線でいきましょう。謙虚な民族主義がいいよ」と挨拶した。

塩見さんはこれは「左右合作」で「革命的民族主義だ」と火のような激しい演説をしていた。30年前はこういうアジテーション（扇動）演説をしていたのだろう。そして学生たちは火をも恐れぬ革命家になっていった。「左右合作」だから会場には「日の丸」はない。イラクやユーゴのひともいるし、国際的な集会なんだから、それも当然だろう。いや、正面にはイラクの国旗があった。それに、よく見たら後ろの方に日の丸があった。これは、北朝鮮にいる「よど号グループ」から送られたもので、寄せ書きがされている（赤坂注・一水会のＨＰで画像が見られます。当ＨＰもなんとかします、そのうち）。

「菜の花の咲く日本が恋しい。帰りたい」「美しい祖国・日本のために頑張りましょう」･･･と書かれている。望郷の思いがひしひしと伝わってくる。泣けてくる。

こういう時は、日の丸に寄せ書きをするしかないんだろうなーと思った。日の丸も君が代も好きなんだろう、彼らは。毎朝、国旗掲揚をし、君が代を斉唱しているのかもしれない。

そうだ。５年前の第１回の９・２集会のときは「日の丸論争」がメインだった。東京・神田のパンセでやった。８人くらいのゲストが壇上に並んで、日の丸は国旗かどうか、論争になった。そして一人一人に画用紙を配り、「新しい国旗をつくるとしたらどんなのがいいか描いてくれ」という。そして、クレヨンをもらった。赤一色に塗りつぶして「もちろん、赤旗に決まっている」と胸を張る老革命家がいた。紙に大きくバッテンをして「国旗なんぞいらん。そんなもんがあるから戦争になる」というアナキストもいた。

柴田泰弘さん（赤坂注・よど号ハイジャック犯で決行時16歳。北朝鮮に行ったが

その後日本に密入国して逮捕。裁判で職業を聞かれ「革命家」と答えたナイスガイ）は「白地に赤」でなく「青地に赤」の日の丸にしていた。「青は空の色、平和の色です。家族を大切にし、自立自存の平和な国を作るのが願いです」といっていた（赤坂注・ナイスガイでもデザイン感覚は今一つっすね）。

柴田さんは５年間刑務所にいて今は自由の身だ。子供が２人北朝鮮にいる。奥さんも日本に戻っている。最近、「子供を返せ！」という裁判を起こした八尾恵さんだ。「よど号グループに騙されて結婚させられた。私は柴田の性的奴隷であり、慰安婦だった！」と週刊誌に告発した。その「性的奴隷」の”ご主人様”が柴田さんなのだ。八尾さんの言い分だけを信じちゃかわいそうだが、ともかくこの時はまだ柴田さんは幸せな温かい「家族」を懐かしく思い、信じていたんだ。まったく世の中、一寸先は闇だ、と柴田さんはその後述懐していた。

さて塩見さんはというと、日の丸の上にハンマーと鎌を描いていた。「日本もソ連のような労働者の国にするんだ」と張り切っていた。その時はもうソ連は崩壊してたのに。僕はどうしたかって？　このままでいいと思ったから代替は描きませんよ。

「日の丸よりも軍艦旗の方が格好いいじゃないか。それを描けばよかったのに」と右翼の友人にいわれた。日の丸から四方に光が伸びてるやつだ。軍艦旗とか海軍旗と呼ばれていた（赤坂注・旭日旗ともいいましたよね）。日本海軍はどうも日の丸よりもこっちの方が好きだったらしい。「日の丸はシンプルすぎて平和的で、闘う気がしないな」と思ったのだろう。この旗は朝日新聞社の社旗とも似ている。というよりもルーツは同じなんだ。日本が燦然と光を放って昇っていくイメージを旗にしたのだから、同じなんだよ。朝日も、日の丸が嫌なら、まず、自分の社旗を変えるべきだよな。「朝日が昇る、というのはライジング・サンだ。日本の侵略を象徴している。そんなものを社旗にしていて、申し訳ない。アジアの人々に謝罪し、この旗を廃棄します。ついでに朝日新聞社という名をやめて、夕陽新聞社にします」と。「だから日の丸はやめましょう」というと少しは説得力がある（赤坂注・ありますかね？）。

夜中、朝日新聞社によく抗議の電話があるそうだ。「おタクの旗を持って暴走族が暴れている。うるさい。何とかしてくれ！」と。これは本当の話だ。暴走族が持っているのは海軍旗だ。でも朝日新聞社の旗と似てるから、朝日新聞社に抗議が来るんだそうだ。しかし、朝日の新聞少年が暴走族に入って愛社心から朝日の旗を持っていたらどうするんだろう。海軍旗と区別はつかないし。きっとそういうケースもある。だから、抗議電話は正しかったのだ。いや、朝日を打倒するために送られてきた右翼のスパイかもしれない。右翼団体に入ってる暴走族もいることだし。う～ん、考えると謎が謎を呼んでわからなくなるな（赤坂注・いいですよ、そんな謎呼ばなくて）。

話を戻す。海軍は「日の丸よりは海軍旗が好きだった」といったけど、君が代よ

りも「君が代行進曲」の方が好きだった。海軍旗が日の丸をアレンジしたのと同じように、君が代行進曲も君が代をアレンジしたものだ。勇壮なマーチにしたんだ。軍艦が堂々と海を行くときに、君が代では平和的な感じがして気が抜ける。だから、マーチに直したんだ。

日の丸や君が代を勝手に変えちゃっていいのかね。それも国家が、軍隊がやったんだ。それなのに、以前、君が代をジャズ風にしてピアノで弾いたからといって処分された先生がいた。軍隊だってマーチにしたんだから、ジャズバージョンにしたっていいだろうよ。

それと、ロックシンガーの忌野清志郎さんが君が代をパンクロック風にしてＣＤに入れようとしたらレコード会社が断ったという。いったい何をおびえてるんだ。それにもう「レコード」なんか作ってないのにレコード会社ってのも変だ。社名も「〇〇ＣＤ社」に変えろよ、バカ（赤坂注・いや、今またレコードが”ヤング”に人気なんですよお）。この騒動は『ナイスポ』９月２日号に詳しく載っていた。「”ロック君が代”収録の新アルバム発売中止でレコード会社に非難集中」と見出しに出ていた。

忌野さんは「政治的な動機は一切なく、曲調のアレンジも国歌への純粋な提案」だといっているが、「政治的な動機」があったって、いいんだよ。自由にやったらいい。僕もコメントを求められたから「だらしのないレコード会社（〇リドールだよ）だ」といってやった。忌野さんはさらに「国歌として法制化されてんだから、みんなに広く受け入れてもらおうとした」と殊勝なことをいう。そうだ、９・２集会に来て歌ってもらえばよかったんだ。それにしても、法制化されたからといって、国旗・国歌がタブー化され、論じることも出来なくなっては、かえって逆効果だろうに。

HOME　BACK

『右であれ左であれ』　９／２０

９月中旬だというのに、まだまだ暑い、暑い。

今年の夏はどこへも行かずに必死で原稿を書いていた。昨日（９月14日）は、エスエル出版会から僕の対談集『右であれ左であれ』が送られてきた。なかなかいい出来だ。今読み返してみても楽しいし、教えられることが多い。勿論、対談者がいいからだ。エスエル出版会もこの本には絶対の自信を持っている。「これは売れる。もし売れなかったら出版社をやめる」とまで公言している。嬉しいような、恐いような、複雑な気持ちだ。

近くのマクドナルドに行って、ついつい読みふけってしまった。　岩國哲人さんとの対談「一人五票制の導入」「日本の不可触部分（タブー）の全て」などは今読んでもハッとする。対談したときはよくわからなかったが今になってわかったということも多い。「今」を予言していたのだろう。

一人一人についてとり上げたいのだが、あとは本を手にとってほしい。対談者は桂文珍、井上章一、小阪修平、富岡幸一郎、デーブ・スペクター、猪瀬直樹、松本健一、佐木隆三、テリー伊藤、塩見孝也、関曠野、植垣康博、松崎明、青木哲、重信末夫（重信房子さんのお父さん）の各氏だ。

一つ一つが衝撃的で、考えさせられる対談になっている。もうこんな＜濃い対談＞はできないだろうなーと思った。

ところでハンバーガーを食べながらハンバーガーは『買ってはいけない』に載ってたかなーと思った（赤坂注・どーでもいいけどえらく唐突ですね）。週刊金曜日の連載をまとめた話題のベストセラーで、いい本だし、いい問題提起になっている。ややヒステリックだが。ということを９月末に出る『「買ってはいけない」を買ってはいけない』（夏目書房刊）に書いた。ただ、反論本の趣旨に合わないのでボツになるかもしれない。

「買ってはいけない」ハンバーガーを食べ、「飲んではいけない」コーラを飲みながら、自分の対談本に読みふけっていたんだ。そして、ハッと気がついた。「あれ、今日は一体なんで休みなんだろう？」。

休みだから、こうしてのんびりしている。「勤労感謝の日」だったかな。「体育の日」だったかな（赤坂注・でも会社勤めしてるわけじゃないし、祝祭日関係あるんでしたっけ？）。

家に帰ったら宅配便で知らない女の人からプレゼントが送られてきた。「敬老の

日、おめでとう」。ゲッ、今日は敬老の日かよ！　　なんで僕が「敬老の日」で祝われなくっちゃーならないんだ。ベルサーチのネクタイは嬉しかったけど（赤坂注・気が利かなくてすみません。来年は贈りますね。赤いちゃんちゃんことか？あれは還暦か）。

ベルサーチといえば、野村秋介さんを思い出すね（赤坂注・ジャンニ・ベルサーチ。昨年殺されたイタリアのデザイナー。今は妹さんのドナテッラが仕切っているらしい。デザインはハデです）。

上から下まで全部ベルサーチだった。「パンツ以外は全部ベルサーチだよ」といっていた。野村さんだって「敬老の日」にプレゼントはもらわなかっただろう。僕も老人なのかな。エスエル出版会は僕の本を夏から秋にかけて集中的に出してくれる。そして会社のニュースには「鈴木邦男の老人力を見よ！」と書いていた。

なんかヤダなー。「青春」がないままに、それに「壮年」もないままに「少年Ｋ」から一気に「老人」なのかよ。淋しいなー（赤坂注・何いってるんですか。もう十分エンジョイしたでしょ）。

以前は、誕生日とか、バレンタインデーによくプレゼントをもらったのに。ちょっと前までは専門学校や予備校で「父の日」にプレゼントをもらっていた。それが今じゃー、「敬老の日」だもんなー。

今日発売の週刊ＳＰＡ！　を読んだら、松田洋子さんがマンガ『リスペクター』で「敬老の日」を取り上げていた。やたらと面白い（先週、松田さんと対談した。10月に『リスペクター』が単行本になるので）。

それによると、初めから「敬老の日」ではなく、「としよりの日」だったのが「老人の日」になり、「敬老の日」にまで成り上がったんだという。ヘェー、知らなかった。しかし、誰が抗議して昇進したんだろう。やっぱり老人議員たちなのだろうか。

それとも、「としよりの日」では、尊敬してるのか馬鹿にしてるのかわからないし、キチンと尊敬、感謝の念を示せ！　と老人たちがクレームをつけたからなのか。ぜひとも知りたいものだ。

松田さんも描（書）いていたが、老人になればみんないい人で、敬わなくては･･･というのはおかしい。悪い老人だっているだから。　「老人」というのは一応65歳以上らしい。しかし、高倉健さんや菅原文太さんは自分のことを「老人」とは思ってないだろうし、東京都の「老人無料パス」でバスに乗ったり、映画を見たりしないだろう（赤坂注・バスはダタだけど、映画は割引らしいですよ。でも、健さんたちってバスに乗るんですか）。

65歳以上の人でも、悪い人はいっぱいいるんだから、「敬老の日」というのはお

かしい。「いい老人だけを敬う日」にすべきだよね。もし、65歳以上の人は皆いい人だから「敬え」というのなら、そのことをキチンと実行しなくっちゃー。たとえば、痴漢、強姦、殺人、盗み、放火･･･すべて自由にする。被害に遭うのが嫌だったら、若者は家にいて本を読んでいればいいんだ。それでこそ「敬老の日」だろう。

銭湯の「無料入浴デー」をつくるだけじゃだめだ。ソープもヘルスもキャバクラもレストランもカラオケもすべて無料にしろ！　それなのに、外に出ると相変わらず若者ばかりが大きな顔をしている。これはおかしいよ。これじゃー、まったく「侮老（ぶろう）の日」「反老の日」じゃないか（赤坂注・そうですかー？）

「みどりの日」は、名称からして訳がわかんないから「昭和の日」にしろという運動がある。それよりも本当の「敬老の日」をつくれ。そうしたら、老人たちは９月15日を心待ちにするだろう。また、65歳になるのを楽しみに待つだろう。

昔は30歳代、40歳代でも「〇〇翁」とよばれたひとがいた。老人はそれだけで尊敬された。だから、早く老人になりたいと思ったのだ。こうなると、毎日が「敬老の日」だ。そのもっと昔、つまり「昔々、あるところにおじいさんとおばあさんがいて･･･」という昔話に出てくる頃は老人はさらに尊敬され、大事にされていた。

しかし、松田さんによれば、そういう「昔話」を創り、語って聞かせたのは老人自身だ。子守りと称してマインドコントロールしていたのだという。凄い！　これは新しい歴史の見直しだ。

柳田国男は、「童話というのはなかった。元は大人向けの残酷で、猥褻な話ばっかりだったが、聞いてくれるのは子供ばかりだから、子供向けの話になった」といっている。聞き手の子供が「昔話」を歪めてきたと思ったら、それ以前に語り手の老人が歪め、脚色していたんだ。「老人は偉いよ、知恵があって、優しくて、正直で･･･」と子供に刷り込んでたんですね。すごい、松田さんは「平成の柳田国男」だよ。

松田さんはさらに革命的な提言をする。

もうすぐ全共闘世代が老人になる。だからかつてのパワーをもって決起しろ！と。いいねー。「９月15日は敬老の日」なんて、プチブル的、反日的呼び名を廃止する。「９・15　老人メーデーの日」とする（「老人」というのはヤダな、じゃー、「全共闘世代の日」にするか）。そして、松田さんはこういう。

「厚生省へ、国会へと向けて一せいにシルバーカーで大行進！」「天然牛歩戦術で動いてないように見えるけど心は大行進」「寝たきりで立ち上がれない者は自宅でダイ・イン！」

「入院してる方はハンガー・ストライキを点滴打ちながら決行」

「機動隊と銃撃戦やったわけでもないのに死者続出」

凄い！　凄い！　と感動して読んだよ、僕は。そうだ、これからは、シルバー革命だ。老人の老人による老人のための革命だ。「少年法」改正なんていってるヒマがあったら、「老人法」をつくれ！といいたい。老人を尊び、敬い、元気づけるために「目標」をつくるのだ。90歳になったら何をやっても無罪にする。社会に尽くしてきたお年寄りなんだから、そのくらいの恩恵を与えてもいいだろう。「造反有理・老人無罪」だ。

えーと、「国民の祝日に関する法律」によると、「敬老の日」の趣旨は、「多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」ことだという。でも、社会に尽くさず、社会をぶっこわす活動をしてきた老人やみんなから嫌われ、恐がられてきた老人たちはどうするんだ。そんな人たちも含めて「敬う」というなら、やっぱり老人に「目標」と「楽しみ」を与えて、感謝の意を示すべきだ。

90歳まで生きた老人は殺人、強姦、盗み何でも自由、何でも無罪にする。老人は子供に還るんだから、「老人法」イコール「少年法」なんだ（赤坂注・いってることがムチャクチャですね）。

そうすると、みんなが「早く90歳になりたい！　90歳になったら天国だ！」と心待ちにする。「病気になんかならないで、健康で90歳になろう！」と老人が格闘技を習うようになる。自衛する。働く。勉強する。いいことではないか。

ということで、今週の主張は終わり。

この前、前田日明さんに会ったら、「老人になった時、ガキにいじめられたら嫌だから”仕込み杖”を習うんだ」といっていた。前田さんなんか90歳になっても誰も襲わないよ。

そうだ、学生の頃、右翼の白井為雄先生がボーボワールの『老い』という本を読んでいた。「これはいい本だ。鈴木君も読みなよ」といわれたが、僕は20代だったから「僕には一生『老い』なんて縁がありませんよ」といったのに（赤坂注・小憎らしいガキですね）。

あ～あ、「敬老の日」にネクタイをもらうことになろうとは･･･。

以下次週。

HOME　BACK

「君が代」の法制化　９／２７

よかった、よかった。忌野清志郎さんの「君が代」が発売されるそうだ。出たら僕も買ってみよう。以前（本サイト「今週の主張９／13」参照）にも書いたけど、忌野さんがパンクロック調の「君が代」を吹き込もうとしたら、レコード会社が自主規制して発売中止にした。忌野さんは激怒し、「自主製作でも発売する」と宣言。それが実現するそうだ（赤坂注・でも、製造遅れるという話です）。

数日前、新聞のテレビ欄を見ていたら、そのパンクロック調「君が代」を忌野さんが熱唱すると出ていたので、ビデオの録画予約をしておいた。

ところが、夜、家に帰って見たら映っていない！　ビデオデッキの操作を間違ったか。あるいはテレビ局が「右翼の抗議」を恐れて放映を中止したのか。はたまたアメリカの謀略で、僕のビデオだけが録画できなかったのか。と考え込んでしまった。盗聴法が成立したんでビデオを盗聴して、さらに消してしまったのか（赤坂注・盗聴法「成立」と「施行」をごっちゃにしないでください。それに盗聴法はそんな法律じゃありませんよ。おおかた台湾地震とかプロ野球の延長戦でしょう。先に進みませう）。

ともかく、見れなかった。誰かビデオに録ってるひとがいたら見せてくださいよ。そうだ、松山千春さんはこの問題についてレコード会社だけでなく忌野さんもチクリと批判してたな。

「旗が人を殺すわけでもなければ歌が人を殺すわけでもない。あの『君が代』のリズムはそう簡単に変えられないんです。そういうふうにできているんです。オレは『君が代』の法制化には反対だけど今回の措置は発売中止にしたレコード会社がちょっとデリケートすぎるんじゃないか」（『東京スポーツ』８月21日付）。

松山さんは、スポーツのビッグイベントで招かれて「君が代」を歌ったこともある。法制化には反対だというが、国歌として認め、好きなんだ。そして、できるなら変えないで今のまま歌ったらいいという。これは松山さんのポリシーだ。「パンク調に変えたら意味がない。そんならいっそ別な歌を作ったらいいだろう」と思っているのかもしれない。

「君が代行進曲」は老人力の産物？

松山さんの言い分もわかるが、何もそうかたく考えることもないだろう。日本政府や軍隊だって「君が代」をアレンジして「君が代行進曲」なんてものを作っちゃうくらいだから。ましてや民間人がアレンジするのは構わないと僕は思う。そう思うし、『ナイタイ』にインタビューされたときもそういってやった。

そうだ。あの時、『ナイタイ』の記者は「ホントにそんな曲があったんです

か？」としつこく聞いていた。

そういわれると自信がなくなる。「あったよ」「うん、あったと思うよ」「あったんじゃないかなー」と段々、あやふやになる。カラオケやレコード屋に行ったときに気をつけて探してるが、「君が代行進曲」はない。

エッ、もともとなかったのか。だったら僕はタダの嘘つきだ。虚言癖だし、妄想オヤジだ（赤坂注・大丈夫、それはみんなが知ってますから）。これも「老人力」なのか。どんどん昔のことは忘れる。さらに、＜記憶＞と＜妄想＞の区別がつかなくなる。ヤダな。

そう思ってグジュグジュと思い悩んでいたら、万歳！　証拠が見つかった。ＳＰＡ！　の福田和也さんの連載で、彼も同じことをいってたんだ。

「君が代行進曲があるくらいだから、パンク調君が代があってもいいだろう」と。でも、福田さんは本当に「君が代行進曲」を聴いたことがあるのかな。若いから、多分ないんじゃないの。とすると、「誰かが『君が代行進曲』って歌があったといってたな」と覚えていて、それで書いたんじゃないか。その可能性もある。その「誰か」とはひょっとして僕なの？　ゲッ、こうなると問題は振出に戻る。

はたして、「君が代行進曲」はあったのか、なかったのか。僕の勘違いか、妄想か。はたまたアメリカＣＩＡの謀略か。でも、福田さんほどのひとがいうんだから、やっぱりあったんだよ。それにＳＰＡ！　に嘘は書かないだろう。ＳＰＡ！に書かれてることは全部本当だってみんないってるし（赤坂注・嘘書いてるひともいますよーだ、ここに）。

「生長の家」ブラスバンド部も演奏！

それに「君が代行進曲」については僕は強烈な印象をもってるんだ。何も軍隊でこの歌を聴いたのではない。まァ、軍隊生活に近いけど、「生長の家」の学生道場にいた時の話だ。修行僧のような生活をしていたんですよ、その頃は。毎朝４時50分に起きて、正座して１時間半お祈り。先生の講話を聞き、外に出て国旗掲揚、ラジオ体操、清掃･･･と、朝の行事は厳しかった。夜もお祈り、勉強があるし、昼間は大学に行くが、眠くて眠くて大変だった（赤坂注・その反動が今出てるんですねえ）。

そして、奇妙なことに学生道場にはブラスバンド部があった。みんなの楽しみのためというよりは「生長の家」の行事のためだ。人が多く集まるところで、「生長の家」の「聖歌」を演奏する。それに当時は左翼が強い時だったから、「生長の家」も「革命の危機から日本を守れ！」といっていた。闘う宗教だった。だから、ブラスバンド部も聖歌のほかに軍歌や愛国的な歌を演奏していた。

ブラスバンド部の練習は、朝の行事が終わる７時頃からやった。しかし、野中の

一軒家ではない。港区の乃木坂だ。高級住宅街の真っ只中だ。毎日のように住民から抗議が来る。そりゃーそうだろう。グッスリ寝てる時に大音響でたたき起こしてくれるのだ。そのたびに菓子折りをもってわびて歩いた。

学生道場には本部講師の先生夫妻がおり、その下に学生の自治会があった。自治会の委員長というのは、近所にお菓子をもって謝りに行くのが一番の仕事だった。僕も委員長をやってたから、よく行った。しかし、今なら大変だよね。。オウムじゃないが、こんなことがあったら住民運動をおこされて、すぐに追い出されてしまう。しかし、「生長の家」の土地だから、追い出されはしないか。

そのブラスバンド部には僕も入ったが、カンが悪いのですぐクビになった。大きなお皿を２つもって打ち鳴らすやつをやった（名称がわかんないよ。タンバリン？　カスタネット？　シンバルかな）。思い切って鳴らそうとしたら、両手が交差しちゃって空振り（赤坂・ナイスボケに感涙）。そんなこんなで降ろされた。

このブラスバンド部は「生長の家」の講習会の時によく演奏していた。メンバーの真野（早大文学部）が「次は愛国行進曲をやります」「次は神とともに生くる歌です」と司会を兼ねるのだが、なかなかいいムードで進んでいた。

ある時、真野がとんでもなくお馬鹿ちゃんなことをいっちゃった。　以下次週！

・・・と、ここで終わりにしようと思ったけど、これじゃー、見てるひとが怒るよね。じゃー、続けよう。

真野は大声でこういったんだ。

「では続いて君が代行進曲マーチです！」

みんな、笑い出しちゃった。「行進曲」と「マーチ」は同じだろうが、アホ、と笑ったんだ。真野は真っ赤になって立ちつくしていた（赤坂注・実名でこんなこと書かれちゃって真野さん、ゴメンナサイ。見てたらご連絡くださいね。鈴木邦男のサイン本を謹呈しますよ。ウソだけど）。

こんな凄い、衝（笑？）撃的な思い出があるんだ。だから、「君が代行進曲」のことはしっかりと覚えていたんだ。文句あるか！（赤坂注・なに威張ってんですか。）

この真野って奴は、早大の文学部で芝居をやってた。でも汚い奴で何カ月も風呂に入らない。着たきりスズメ。当時は９畳に３人ずつ住んでいたが、僕はこの汚い真野と一緒だった。地獄だった。もう一人は慶応の川島慧三だ。大きなメガネをかけていて、当時『少年マガジン』に連載されていた『丸出ダメ夫』に似ていたので「ダメ夫！」とみんなに呼ばれていた。かわいそうに。マガジンでそんなマンガが

始まらなければそんなことをいっていじめられなかったのに。ひどい話だ。でも「ダメ夫」といいだしたのは僕だったかな（赤坂注・容疑濃厚です）。ともかく、この３人が相部屋だったんだ。

この汚い真野は「生長の家」の行事もよくさぼって寝てた。だから僕は蹴飛ばしてたたき起こした。

「バカヤロー、革命が迫ってるんだぞ！　俺たちは日本を守るために死ぬんだ！　そんなことでいいのか、売国奴め！」（赤坂注・今、自分がいわれてることそのまんまですね）。

でもこいつは「国のことなんかどうでもいい。オレは眠たいんだ」と反日的なことをいっていた。その「売国奴」で「反日的」な真野は今はなんと関西の警察署長をしているという。ウーン、信じられない。

今でも「君が代行進曲マーチ」を口ずさんでいるのかな。

HOME　BACK

ロック「君が代」その後　10/4

９月28日（火）、テレビ朝日「ニュースステーション」を見ていた。驚いた。忌野清志郎さんが生出演でロック「君が代」を歌っていた。エッ、全然違うじゃねえか。なんだ、スタジオで生で聴きたかったよ、とテレビに向かって思わず叫んじゃった。

「ではこれを聴いてどう思ったかをいろいろなひとに聞いてみましょう」と、民主党の鳩山由紀夫氏、街の学生、サッカーのサポーターに混じって僕もコメントした。取材はこの日の４時にあった。家でＣＤを聴かせてもらい、感想をいったのだ。30分くらい取材されたが、放映は30秒くらいだった（赤坂注・テレビってそうなんですよねー。いいたいことが反映されないっすよね）。それは一向に構わないんだけど、やっぱり「生演奏」を聴きたかった。テレビで見るだけでもＣＤとは全然迫力が違うよ。全く別の曲のようだった。

元気のいい曲だ。でも忌野さんは、「歌詞は変えてないし、曲もそのままだ。自分が歌うとこうなるんだ」といっていた。なるほど。面白いと思ったし、いいと思う。鳩山さんは、いろんな歌い方があっていいといってたし、僕もそう思う。前も書いたけど、国家や軍隊が「君が代」を勝手に変えて「君が代行進曲」を作ったんだ。だったら、民間人もどう歌おうといいわけだ。

「賊軍の旗」と”ガイジン”の曲

日本の政治家や軍人たちは本当は「日の丸」「君が代」が好きじゃなかったんだと思うよ。明治維新以降、「国旗、国歌がないと近代国家とみなされないよ」と外国からいわれて急いで作ったんだ。外国は革命や独立戦争などを通じて近代国家を作ってきた。だから、闘いの旗が国旗となったし、闘いの歌が国歌になった。

日本はその点、平和な国だった。明治維新という「革命」を経て近代国家を作ったが、「賊軍」を全否定したわけでなく、その文化、伝統の上に近代国家を作った。「日の丸」なんて、「賊軍」が使っていた。それを「錦旗」を押し立てて官軍が討ったのだ。でも、「錦旗」は「日本国旗」にはならなかった。本来なら、これが革命軍であった官軍の旗なんだから国旗になってる筈なのにならない。多分、畏れ多いと思ったんだろう。外国人のアドバイスもあったんだろう。「天皇を中心にして近代国家を作るべきだ。その時、外国のように君主は”神聖不可侵”ということを憲法に書いたらいい。また、錦旗は天皇家を表す旗にして、国旗は別にすべきだ」と。

だから、菊の花をデザインした錦旗は神聖なものとされた。また、「日の丸」の方が遠くからでも一目でわかるし、シンプルでいいからと国旗になった。

永六輔さんは「賊軍の旗が新政権の旗になった国なんて他にない」といっている。いいんじゃないの。それこそ”寛容の国”なんだよ。「君が代」だって昔からあった歌詞だし。

ただ、曲は外国人の手を借りて作曲した。国歌を外国人に作ってもらうなんて、こんな国も珍しいかもしれない。でもそんなことは皆知りながら歓迎してたんだ。外国人が作曲した曲でもいいものはいいと進歩的に思ったんだろう。今こんなことをやったら、「反日的だ」「外国かぶれだ」といって反対運動が起こるだろうに。100年以上前の方が、より寛容でより国際的だったんだ。

いろんなバージョンでいいでしょ

前に週刊ＳＰＡ！（赤坂注・99年６月２日号第228回）でも書いたが、「君が代」は今の曲になる前にかなり試行錯誤している。実は「５つの君が代」があったと作曲家の團伊玖磨さんはいっている。難しくてプロの歌手でも歌えないようなバージョンがあったり、賛美歌のバージョンがあったりする。そのうち忌野さんのも入るかもしれない。

では、忌野さんのロック「君が代」の話だよ。

「これを聴いてどう思いましたか」と聞かれたから「元気でいい。面白い」といった。「今の『君が代』よりもこっちの方がいいですか」という。ウーン、元の方が儀式用にはいいだろう。しかし、元々は５つのバージョンがあったんだから、そのうちの「賛美歌風」の方が好きだからそれに戻してほしいと思っている。そういった。

野中広務前官房長官はいいことをいっていた。「法制化しても『君が代』の演奏のやり方を強制するのものではない」。政府自らいったんだ。じゃー、賛美歌風に演奏しようとロック風に演奏しようといいんだ。「よし、オレはこれからは賛美歌風でいこう」とミッションスクール出身の僕は思いましたよ（赤坂注・どこで？プロレスの試合？　一水会の現代講座？）。

と、ここで真夜中にファクシミリがコトコトと音をたてている。なになに‥。「ニュースステーション見ました。忌野さんの『君が代』も、仕事で疲れた私の耳には『あら、にぎやかな”鳩ぽっぽ”みたいな君が代じゃん』という感じで入ってきました。鈴木邦男さんの『いろんなバージョンがあっていい』は私も同感で、今後もいろんなひとがいろんな君が代を創造し、唄いたいときに唄えばいいと思う。アレンジバージョンが増殖し、現在（本来？）の『君が代』は絶滅寸前の危機になる。そして、ちゃんと唄える人間は宮内庁職員と右翼長老だけになる（本物の『君が代』はやがて何がなんだかわからなくなる）」

なるほど面白い意見ですね。都内在住の会社員・小嶋知恵さんでした（赤坂注・いいんすか、名前出しちゃって）。

さあ、みなさんはどう思いましたか。

そうだ、日本の政治家や軍人は本当は「日の丸」や「君が代」をあまり好きじゃないという話だ。外国からいわれて作っただけで、これは平和的で戦争に向かない。それがいいんだが、戦争好きなひとはそうはいかない。だから「君が代」を勝手に変えて「君が代行進曲」にする。日の丸に勝手に線を入れて「旭日旗（海軍旗、軍艦旗）」にする。「うん、これでこそ闘える」と思ったんだ。

サッカーの中田英寿選手は、「君が代」は戦いの前に歌う歌じゃないといったが、その通りなんだ。「闘いの歌」じゃないから当然だ。プロレスやボクシングの前によく国歌の演奏や斉唱をするが、あれもやめてもらいたい。

＜国＞が戦争するわけじゃないだろうに。それに、「君が代」は闘いには向かないから選手は萎える。だって戦争のない＜未来＞を先取りした歌なんだから。

左翼のひとは、よく「憲法第９条の精神を世界に！」という。だったら、「『君が代』の非戦の精神を世界に！」と声を大にして叫んでほしいよ。

大相撲の千秋楽を見ていてハッと気づいた。「君が代」斉唱があるが、15日間の闘いが終わった後に歌っている。「よくがんばったね。若乃花も偉いね。武蔵丸もよく横綱の責任を果たしたね」といたわり、たたえている（赤坂注・エッ、そうなんですか）。

つまり、「闘いは終わりね」という歌なんだよ、これは。癒しの歌なんだ。ああ、なんと高貴な歌か、と感動したね。

今日の『東京スポーツ』を買ったら、これも一面が「君が代」だった。「ＮＨＫアナへ猛批判。武蔵丸に君が代要求！」。うん、これはＮＨＫアナが軽率だ。アホだ。帰化したばかりの、武蔵丸に「『君が代』を歌ってくれ」と要求したのだ。その場で歌ってみせろというのではなく、これからは声を出して歌ってほしい、という意味らしい。しかし「デリカシーがない」と批判されている。　なんか法制化されてから、やたらと不自由になったな。「あっ、こいつは口をモゴモゴしてるだけで歌ってない、許せん」とか、皆が監視するようになる。　いやだな。「君が代」なんて難しい曲は僕だって歌えないよ。帰化したばかりの武蔵丸に強制するなんて酷じゃないか。

そしたら、９月29日（水曜日。これを書いてるうちに日付が変わった）の産経新聞朝刊のコラム「産経抄」ではこれに反撥していた。日本人になった横綱だし、相撲は国技なんだから、「国歌を歌って喜びを素直に表現したらどうか」という。「歌えといっていいじゃないか。こんなことで騒ぐ国は日本くらいだ。つまりは心が寒く貧しいのだ」とまでいう。ウーン、そーかなー。もっと余裕をもって考えたらいいだろう。起立して国歌を聴いているだけでも国歌に敬意を表しているんだし、「素直に喜びを表現している」と思うよ、武蔵丸も。ポーカーフェイスだから

あんまり喜びの表現が伝わらなかっただけだよ、きっと。

じれったいの･･･

　僕個人としては、「君が代」は斉唱するよりも演奏して皆が謹んで聴くという方がいいと思うな。その方が国歌を大事にして尊重しているように思う。難しい歌をバラバラに歌うよりはいい。

　話をニュースステーションに戻す。鳩山さんや久米宏さんや僕など年輩者は「ロック君が代でもいいんじゃないの」といっていたが、若者たちは「ヤだよこんなの」「国歌じゃない」「これじゃ試合会場で歌えない」･･･といっていた。若者たちの方がずーっと保守的、国粋的なんだ。ウーンと考え込みましたよ（赤坂注・そりゃー、メディアの影響です。五輪とかW杯とかプロパガンダが凄すぎるからでしょ）。

　あるいはこうかな。世の中が元気がよくて、外国調の歌ばかりが多いから、雅楽調のテンポののろい「君が代」は新鮮に聴こえてるんだろうか、若者たちには。そして年輩者の方が「君が代」にイラダチを感じるのか。「なんだ、このトロイ歌は。こんなもので戦争をやれるか！」と。それで軍隊はマーチにしちゃったし。忌野さんは「カッコ悪い曲だな。オレが歌ったらこうなるんだよ」とやってみたし。じゃー、僕も作曲してみようかな。新しいバージョンを（赤坂注・それは『編曲』では？）。

　ともかく、平和的で、雅で、のんびりしてるから、イラつくし、じれったくなるんだよ、「君が代」は（赤坂注・キャー！　過激！）。

　でも、＜平和＞ってそういうものよ。じれったいのよ、イライラするのよ。

　「ちくしょう、やっちまえ！」「殺せ！」と叫ぶ方が手っ取り早いわけよ。

　でも、「それじゃいけないよ。じれったくても平和は貴いんだよ」と諭しているのが「君が代」なんだよ。

　こうなると、まるで「君が代教」の教祖様だね、わたくしは。

HOME　BACK

「非国民」て誰だ？　10/11

もしかしたら、僕は一番の愛国者かもしれない。だって、「日の丸・君が代」は好きだし、だから「もっともっと大切にしよう」といっているのだ。

それなのに「非国民！」とか「売国奴！」なんていわれる。嫌な国だ。僕のような愛国者が非国民だったら１億2000万人の日本人はすべて「非国民」になるよ。

少なくとも外国には敬意をはらえ！

何度もいうように僕は「日の丸・君が代」が好きだ。だから、ガヤガヤとうるさくて、ひとの話など聞かない中学生や高校生の前で「日の丸」を掲げたり、「君が代」を歌わせたりするのは反対だ。こんなガキ共にもったいないと思うからだ。「日の丸」や「君が代」がかわいそうだ。泣いてるじゃないか。

同じ理由で格闘技の大会などで始まる前に国歌を流すのも反対だ。もっと大切に扱うべきだ。

この前、ある格闘技の大会に行った。ブラジル人と日本人の対戦だ。ブラジルの国歌は長い。「エッ、まだ終わんないのか」と会場はザワついている。起立していない奴もいる。「早く終われよ」と座ったままブツクサ文句をいってる奴もいる。ヒデー奴らだ。さらに驚いたことにリング上の日本人選手がウロウロとリング上を歩き回っている。なんだこいつは、と思った。ブラジル国歌が流れる間中、落ち着きなく歩き回り、さらに「君が代」のときもそうだ。

百歩（赤坂注・ホントは100万歩です）譲って「『君が代』は嫌いだから聞いてらんねえよ」というのならまだわかる。起立しない人間もまあいいだろう（赤坂注・ホントは許せない。赤坂も前科者）。

しかし、ブラジル国歌に対しては失礼じゃないのか。座ったまま「早く終われよ」といったり、リング上で歩き回ったり･･･って。もし僕がブラジル選手ならこの時点でブン殴るね、「ブラジルを侮辱するのか！」と。

国歌を演奏するというのは重い行為だ。もっともっと大切にすべきことだ。格闘技くらいで演奏してほしくない。もし演奏するならキチンとやるべきだ。少なくとも相手国に失礼にならないようにすべきだ。

ブラジル選手は、直立不動で両国の国歌を厳粛に聞いていた。しかし、ムッとしたはずだ。ブラジルを侮辱されたと思ったはずだ。これは大会主催者が悪い。キチンと日本人選手に教えるべきだ。それができないなら国歌を流すな。それだけだ。

「こんな奴は負けてしまえ」と日本人選手に憎しみを感じた。僕の＜念力＞は強い。その念力とブラジル選手の怨念でこの日本人選手は負けた（赤坂注・そりゃ単

なる実力の差では？　でも、昔「生長の家学生道場」が「燃えちゃえばいい」と思ったらホントに火事になったというのを聞きましたが）。

斉唱、掲揚は難しいのだ

「国旗国歌法」が成立してから、国旗・国歌が＜乱用＞されるようで嫌だ。今まで掲げたこともない奴が急に「法律で決まったから」といって掲げる。「歌わないと法律違反になる」と誤解して急に歌い出す。カラオケにだって「君が代」はある。

でも、「君が代」は難しい歌だ。特に「日の丸」を掲揚しながら歌うのは難しい。僕はその道の「プロ」だから、少し教えてやろう。

僕は学生時代、「生長の家学生道場」に６年間いた。毎朝４時50分に起床してお祈りし、お経を読み、先生のご講話を聞き、そして庭に出て国旗掲揚をしていた。その体験が６年間だ。１日も休まずやった。

30人が一列に並んで「君が代」を斉唱する。そして当番の者が「日の丸」をスルスルと上げる。これは簡単なようでとても難しい。旗の上がるのに合わせて、歌の早さを変えるわけにはいかない。歌は一定の早さだ。それに合わせてゆっくりと旗を上げる。でもうまくやれるひとはほとんどいない。上まで上がり切ったのに、歌は、まだずっと続いていたり、逆に、ゆっくり上げすぎて途中で歌が終わってしまい、「イケネッ！」とあわててひもを引っ張って旗を上げたり･･･今思えば「不敬」の数々だった（赤坂爆笑）。

それに「君が代」だって合ってない。歌い方の指導も受けたが、それでも合わない。それに30人もいると、１割は必ず音痴がいる。さらに全国から学生が来ているから、地方なまりの強い奴が多い。なまって「君が代」を歌う。だからどうしても合わない。汚い斉唱になる。「日の丸」さん「君が代」さんに申し訳ない。

ただ、１人だけ歌うのがうまくて、旗を上げるのがうまいひとがいた。慶応大学の森雄彦さんだった（赤坂注・あっまた実名？）。音程どおり正しく歌えたのはこのひとだけだった。旗もキチンと１ミリの誤差もなく上に収まる。

それに「日の丸」のたたみ方を知ってるのもこのひとだけだった。「エッ、たたみ方なんてあんの？」と驚くだろう。ほら、みなよ。こんなことも知らないで国旗、国歌を強制してるんだから。困るよなー。

と偉そうにいうけど僕もできない。「ただ、二つ折り、四つ折りにたためばいいんだろう」といわれるかもしれない。しかし、違うんだ。毛布やシーツをたたむのとは違う。

実は三角形を作って折っていくんだ。はじめに上下を二つに折ってそれから三角、三角、だったかな。うーん、忘れた。これじゃー、僕も非国民か。でもこんな

「たたみ方」をしてるひとはほとんどいない。右翼のひとだってあまり知らない。

　では何故、森さんだけが知っていたのか。実は彼は子供の頃、ボーイスカウトにいたからだ。そこで、教育を受けたからだ。ボーイスカウト（長いから「ＢＳ」に略そう）はインターナショナルな組織だ。そこにいて、ナショナルな儀礼を習っていたというのも奇妙だと思ったが、「国旗を掲揚する」「国歌を歌う」ということは実は外国から入ってきた習慣なんだ。だから三角にたたむなんておよそ「非日本的なたたみ方」が「正式なたたみ方」になったんだ。

国旗国歌が大切にされない本当の理由

　前にもいったように、明治維新前は日本に国旗、国歌なんかなかった。そんなものは必要ないと思っていたんだ（赤坂注・あれっ、ハナシ変わったんですか？「ＢＳ」は？　せっかく略したのに。鈴木注・ウルセー）。

　それなのに明治になってから近代国家の仲間入りをしようと、急に国旗、国歌を作り、憲法も作ったんだ。外国人にいわれて国旗、国歌を作ったし、「君が代」なんて外国人が作曲している。

　だから「こんなものはやめてしまえ」「昔の日本に戻れ」といってるわけじゃない。そんなにあたふたと作ったにしてはいい国旗だし、いい国歌だと思う。

　ただ、「君が代」は難しい曲だ。演奏を聞くと荘重でなかなかいい。平和的だし。だからオリンピックや相撲のように闘いが終わってから「みんながんばったね」と健闘を讃え、ねぎらい合うにはピッタリだ。

　しかし、闘いの前に歌う歌じゃない。それに「斉唱」は無理があるのではないか、と僕は思っている。外国の場合では国歌を演奏しているときはみんな直立不動でじっと聞き入っている。そういうケースが多いようだ。日本のように声を出して歌うという「斉唱」は少ないのではないか。だったら、「君が代」を演奏し、それを厳粛に聞く方が「君が代」に対する敬意を表すことになるのではないか。

　そういうとあるひとにいわれた。「バカ野郎！　非国民め！　外国の場合はどうかしらないが日本人は大声で斉唱するんだ。それが日本人だ！」と。でも＜国歌＞というのも外国からきた発想だし、＜国歌＞の前で直立不動の姿勢をとるというのも外国からきたものだ。だったら、多くの外国でやっているように歌わず静かに聞く方がより正しいのではないだろうか。

　あるいはアメリカなどではよくやっているが、プロの歌手が一人で歌を歌い、他のひとは静かに聞いている。この方がずっと荘厳だと思う。

　これをマネて日本人のプロの歌手もときどきやってるが、日本のプロの歌手は声量が少ないのか、下手なのかうまく歌えない。だから、プロ歌手でも文部省で「試験」をして、このひとは「君が代」をソロで歌っていいかどうか判定する。できな

いひとは「教育」し、試験に受かったひとだけが大会場でソロで歌える。そのくらいしたらいいだろう。でないと、どこの集会に行っても全く合っていない「君が代斉唱」ばかり聞かされて「君が代」が嫌いになっちゃうよ。

　あるいはこれはアメリカＣＩＡの陰謀なのか。日本のナショナリズムの高揚をおそれて、ひそかに工作員を使って「国旗・国歌法案」を成立させた。中学や高校でも押し付ける。どこでも下手くそな「君が代斉唱」が流れる。「日の丸」も乱用され、ありがたみがなくなる。そして「こんなのヤダ！」と思う「反日的」人間がドッと増える。そんなことまで考えたのかもしれない。

　おそるべし、アメリカ！　だ

HOME　BACK

「武蔵丸関と『君が代』」に想ふ　10/18

　これじゃーまるで僕は「日の丸・君が代評論家」だね。いや、「日の丸・君が代博士」かな（赤坂注・10月４日の「主張」では「日の丸・君が代教の教祖」と名乗っておられたハズ）。

　「日の丸・君が代」がらみで何か＜事件＞があると必ず新聞やテレビからコメントを求められる。そんなに詳しいわけじゃーないのに。でも、国旗・国歌法案が通ってから、いろいろと事件やニュースが続く。そのつど僕も必死で考える。書く。喋る。かなり詳しくなったし、今まで知らなかったこともわかってきた。

ちょっと長いお知らせ

　今回は、「武蔵丸関」問題について書く。が、その前にお知らせを３つ。

　まず、掲示板でも紹介したが、一水会創設メンバーで「楯の会」会員だった***阿部勉***さんが亡くなられた。

　僕より３年下の昭和21年生まれで、早大法学部在学中から右翼運動に携わっていた。赤坂がバクロしたように「今の鈴木には共感できない」といわれたこともあるが、良い仲間であったことにかわりはない。

　謹んでご冥福をお祈りする。

　次に『通販生活　秋の特大号』（カタログハウス発行）のこと。「世界各国の国歌はどんな歌詞なんだろう」というすごい特集をやっている。９ページにわたる大特集だ。

　「各国の国歌テーマは大きく３つに分類される」「世界の国歌は歌詞の中で『誰』を讃えているのか」「法制化でもめているのは日本だけじゃなかった」「国家が変われば国歌も変わる」･･･。凄い。驚いた。今までいろんな本を読んだが、こんなにキチンと具体的にまとまっている特集は初めてだ。

　これに僕もコメントしている（赤坂注・メイントピックはこれです）。

　「（国歌は）４年に一度、国民投票をすればいい」。またもや右翼から攻撃されそうなことをいっている。何で「４年」なのかは･･･詳しくは来週書こう。

　そして、週刊ＳＰＡ！　連載中の松田洋子さんのマンガ『秘密の花園結社・リスペクター』が単行本化される。10月29日発売だ。これは事件ですよ。この本の巻末で松田さんと僕が討論している。

　お前となんの関係があるんだ、と赤坂にいわれたが（赤坂注・いってましぇ

ん）、実は松田さんをＳＰＡ！　に紹介したのは僕なんだ。僕は『リスペクター』の「生みの親」だ。いや「生ませの父だ」。なんだかよくわからないが、「討論」はマンガに負けずに過激だよ。

そこで僕は日本中がアッと驚く「日の丸の起源」を発表している。討論中に突然、天啓がひらめいて喋ったのだ。「日の丸の霊」（赤坂注・そんなのあんの？）が乗り移り、僕をして喋らせたのだ（赤坂注・なんで翻訳調なんですか？）。

その時に喋ったところの内容は、僕の生涯の中で最も大きな事件のひとつなんだ。アラアラ英文を書いてるようになっちゃった。ともかく凄い内容だけど、ここでは書けない。買ってくださいね。

でも、松田さんもビックリして椅子からズリ落ちてた（赤坂注・「鈴木説」が余りにもくだらなかったからでは？）。「日の丸の出生にはそんな秘密があったんですか！」と。「でも源義経がジンギスカンになったような話ですね」といってたけど（赤坂注・やっぱり･･･）。

「君が代」は「厳粛に聞く」のが一番だ

では、今日のメインの「武蔵丸関」だ。

９月26日の大相撲千秋楽でのことだ。恒例の優勝インタビューで武蔵丸関に対し、ＮＨＫの石橋省三アナウンサーが「武蔵丸関、『君が代』を歌うようにお願いしたいですね」と求めた。無礼な話だ。　しかし、武蔵丸関はムッとした様子も見せず、「今、一生懸命やってます」と答えた。歌えるように一生懸命練習してるということなんだろう。なんとも痛々しい。これも国歌国旗法案が通ったからだ。だからＮＨＫアナもこんなことをいったんだ。

「ＮＨＫアナに猛批判」と東京スポーツ（９月29日付）は報じていた。当然だろう。こんな難しい歌は僕だってキチンと歌えない。すぐ音程をはずす。ただメロディを聞いていると荘厳だし、いい歌だと思う。それに大相撲が終わって歌うというのは「みんながんばったね、ご苦労さん。闘いは終わったんだ」という”ねぎらい”や”癒し”として流れるのだ。また、優勝した力士を讃えるという意味もある。

その時に讃えられた力士が自らも声を出して歌うというのは僕は不自然だと思う。厳粛に聞いているだけの方がいい。武蔵丸関の方が正しい。

が、巷のＮＨＫアナへの批判は別の意味であったようだ。つまり、日本に帰化したばかりの武蔵丸関は日本語もそんなにうまくない。それなのに「君が代」を歌えとは酷ではないか、というのだ。

オウム評論家の有田芳生さん（赤坂注・そ、そんな肩書アリなんですか？）は「デリカシーがない」と批判した。サッカーのラモス瑠偉さんは「（歌えないから）”口パク”で参加した」というし、僕と対談したこともあるデーブ・スペクター

さんは「僕が歌えないのに武蔵丸関は無理だよ」という。

デーブ（赤坂注・親しげですね）とは、対談集『右であれ左であれ』（エスエル出版会）で討論した。彼は（見かけとは裏腹に）子供の頃からの三島由紀夫ファンで、三島の本を読みたくて日本語を勉強し、高校生のときに『三島由紀夫論』を書き上げ、アメリカの日系人の間に回覧した。それは僕も見せてもらったが、立派なものだった。

「僕は三島由紀夫の生まれ変わりじゃないかと思った」というほどだ。つまり、三島由紀夫（の生まれ変わり）ですら難しくて歌えないといっているのだ。武蔵丸関に強要するのはヒドイだろう。

「いや、大相撲は国技だし、横綱だから歌わなくてはだめだ」という声もある。

だったらあえていおう！

「国技」というが、誰がそんなことを決めたんだ？

法律で決まっているのか？（赤坂注・キャー邦男様ー、お素敵ー！）

誤解してもらっては困るが、僕は相撲が好きだ。

湯沢中学（秋田県）の頃は、毎日相撲ばかり取っていた。強かった。将来は相撲取りになろうと思っていた。「湯沢ラジオ」（放送局に非ず）という電器店の息子の住谷正宏君（赤坂注・また実名？　大丈夫？）とはよく闘っていた。彼は左利きだったので、僕も左組みになった。「左はず右上手」になれば湯沢中学では誰にも負けなかった。

あっ、いけない。いつまでも昔の思い出にひたってちゃー。そんな相撲好きの僕もついカラミたくなるんだよ、こんなことをいわれると。

「いや、柔道や野球の方が国技だろう」と。

じゃー、どれが国技か国民投票で決めるか。法律で決めるか。

「いや、新体操を国技にすべきだ」というひともいるし、先週のＳＰＡ！　によると元タイガーマスクの佐山聡さんは「天皇陛下に見て頂ける格闘技」をつくりたいといってるんだ。「天覧試合」のできる誇りある格闘技をつくりたいというんだよ。彼も「国技」を目指しているんだろう。

だから、「大相撲は国技だ！」というのはファジーな感覚なんだ。それでいいだろう。日本はそういうアバウトな国だし、寛容な国だ。「まるで邦男さんみたいですね」って赤坂がいうけどテレるからそんなにほめないでくれよ（赤坂注・いって

ましぇん、その２）。

まあそんな寛容な国だから僕は好きなんだ。「君が代」の「君」は「天皇」か「恋人」か「”君と僕”の君（英語のyou）」なのか。それもファジーだ。分かんない、いいんじゃないの、分かんなくて。

「日本」という国名だって「ニホン」か「ニッポン」か分かんない。二通りの呼び名がある。オリンピックなどでは「ジャパン」といわれる。「三つの国名を持つ国」だ。すごい。でも、「法律で決めて呼び名を統一しろ」という声はないよね、いいんじゃないの、それで。

優勝力士を讃えるための歌とは

話は戻るが、ＮＨＫも「猛批判」にたまりかねて「軽率だった」と謝った。もっとも産経新聞は「謝るな。ＮＨＫアナは当然のことをしたんだ」といってたが。

産経新聞はブラジルに渡った日本人の愛国心をよく取り上げている。「ブラジルの国籍をとっても、なお、日本人の心を忘れずに」いて、心の中では「日の丸・君が代」を持っているんだ、と。それは立派だと思う。

だったら、武蔵丸関だってそうだよね。国籍は「日本」になっても、心の中には「ハワイの国旗や国歌」があるんだ。エッ、ハワイの国旗ってないの？　じゃー、アメリカの国旗と国歌か。その誇りはいつまでもあるだろう。いいことだ。

だから、ＮＨＫアナに「『君が代』を歌え！」といわれたら、「ウルセー！」と怒鳴って、「星条旗よ永遠なれ」を歌ってやればいいんだ！　「帰化したけど僕の体の血はアメリカ人だ」といってやればいい。

帰化した横綱だから、「『君が代』を歌え」といわれるのなら、帰化しない外国人力士が優勝したらどうする。平幕優勝が最近多いから、ありうるケースだよ。たとえばモンゴル人の旭鷲山（きょくしゅうざん）が優勝したら、旭鷲山にも「『君が代』を歌え」というのだろうか。いや、旭鷲山を讃えて千秋楽は「モンゴル国歌」が流れるのか。

さらに、星誕期（ほしたんご）や星安出寿（ほしあんです）が優勝したらアルゼンチン国歌が流れるのか。マドンナが映画「エビータ」で歌ってたよね。あれがいいな。

「でも、優勝した力士を讃えるんじゃなくて、国技だから千秋楽に『君が代』を歌うんですよ。外国の国歌を流すわけないでしょ」といぬいふといち（統一教会偽装脱会者）はいう。

でも、「国技」とは決まってないし、千秋楽に「君が代」を流すというのも法律で決まってるわけじゃない。とまたもやカラミたくなる（赤坂注・居酒屋によくい

るおっちゃんみたい）。

　それに、「優勝力士を讃える」意味もあるんだよ、何度もいうけど。だから、モンゴル国歌やアルゼンチン国歌を流すべきだよ。

　というわけで中途半端に今週は終わるけど、また来週、じっくり考えてみるけんね。

HOME　BACK

僕はやっぱり松陰なのだ　10/25

赤坂のアホ、いや違った「尊敬する偉大な赤坂様」はまた深読みをしてるな（赤坂注・出てくるなっていったくせにご自分からふらないでください）。

僕も原稿を書かせてもらった『武道通信』（杉山頴男事務所発行・電話042-580-6428）七ノ巻の「吉田松陰特集」のことだよ。この中で「俺は吉田松陰の生まれ変わりじゃないのかと思った」と書いたら、それを「今の僕」の心境と取ったんだね（赤坂注・10月19日の掲示板の書き込みでーす）。

そんなだいそれたこと考えちゃいないよ。あくまでも「昔の話」だよ。松陰全集を読んだら、難しい文章なのに全部スーッと頭に入り、分かる。アレッ、俺と同じことを考えてるよ、このひとはと思った。そして松陰の歩いた場所の記憶までがまざまざと甦ってきた。

それに松陰は＜誠＞のひとだが、全く政治性がない。かけひきがない。幕府であろうと役人であろうと自分が真心で話したら必ず分かってくれると固く信じている。いいひとなんだ。それにストイックで女を知らずに一生を終えた。まるで俺のようじゃないかと涙がこぼれた（赤坂注・なんか不器用そうなところはそっくりですね）。

「右翼なんてやめろ！」。新宿で出会った松陰は語った

そして15年前、松陰に出会った。新宿のセンタービルという高層ビルの「ストーン・ヘンジ」という店だ。夜景がきれいなところだ。

「鈴木君、久しぶり」といって松陰は出てきた。こう書いたからといってなにも僕は発狂したわけではない、変なクスリを飲んでいるわけでもない。本当の話だ。連れは２人のオバさんだった。普通のオバさんだ。しかし、なぜかまばたきをしない。ジーッと見ている。この２人のオバさんの「宗教」に僕はオルグされてたのだ。その時、「自動書記」で松陰は現れた。

このことはエスエル出版会から出ている『宗教なんてこわくない』（ブックガイド参照）に詳しく書いた。松陰は、「アホたちと一緒になってくだらない右翼をやってんじゃないよ。そんな奴らはゴミだよ。そんな泥沼から抜け出し、この２人と一緒に日本を救うために立ち上がってくれ」といった。

右翼はゴミなのか。でもこれは僕がいったんじゃないからね。松陰先生がおっしゃったんだよ。

でも、考えてみたら、僕が松陰の生まれ変わりだとしたら、その時僕は僕と話していたわけだ。なんという奇跡だ。こんなことができるなんて。

何かの映画にこんなのがあった。エジプトの王様が死んだ後ミイラになる。ミイラになると何千年か後に蘇るのだ。そして蘇った男が記憶を頼りに自分のミイラを探し、対面する。これも自分が自分に会ってるんだ。

奇跡だ。阿刀田高の小説に昔、自分が学生だった時の電話番号に電話したら学生時代の自分が出てきて会話した、という話があった。それ以来、怖くて自分の昔の電話番号にかけられない。といっても、ずーっと同じ住所で同じ番号か。

「一水会の松陰先生」、暴走中

ともかく松陰の話だ。政治オンチでただ＜誠＞だけのひとだ。女も知らずにまるで僕みたいだと思った。そこまで書いたんだよね（赤坂注・何度も書くとウソ臭さが倍増しますよ）。

時代状況も考えず、「あいつを殺せ」「倒幕をやれ。今すぐやれ」と煽る。「もう少し現状を考えてくださいよ」と塾生はなだめる。「ウルセー」と怒鳴って松陰はいう。「僕は忠義をするつもり、諸友は功業を為すつもり」。

クーッ、かっこいいなと思った。俺だけが＜忠義＞なんだといっちゃう。いい切る。あとの奴はただの売名だし、手柄がほしいだけの奴だという。すごい。

でも、そういわれた塾生たちも困ったでしょうね。「まいったなー、またかよ」といってたんでしょうね。高杉晋作だって、義絶されてんだから。松陰は「困ったちゃん」だったんだ。牢獄にいるか、旅に出るか。家でもみんな心配する。松陰の本名は寅次郎だ（赤坂注・それは通称名。名は矩方です）。

「あーあ、寅ちゃんどこ行ったんだろうね」と故郷の柴又（じゃない山口の萩）ではおいちゃん、おばちゃん、さくら達が待ってんだろうね。

「現状を考えてください」と塾生は必死で先生をなだめる。しかし、松陰は聞かない。

このことを赤坂のアホ、いや尊敬する赤坂様は掲示板で引用し、「あはははは。なるほどお」と書いている。なんだこれは。ギクッ。

そうか、今、僕が勝手なことばかりいって、それで一水会や周囲のひとたちが必死で止めている。そのことをいったと思ったのか（赤坂注・いやそこまでは･･･思ってたけど）。まいったなー。それはないよ。でもいわれてみると少しはあるかな。

朝日新聞（７月４日付）の「私と『日の丸・君が代』」にコメントしたら、「許せん！」と右翼から猛攻撃を受けた（本ＨＰ「今週の主張８月２日」参照）。それになんと一水会の機関紙『レコンキスタ』（８月１日号）には「鈴木邦男の国旗・国歌論に反対する」という四宮正貴氏（元一水会国際局長）の論文が載っていた。また「鈴木会長の発言は一水会の統一見解ではない」という「社告」も載ってい

た。

　これを見て「やっぱ”組織”を感じましたね」というひともいたし、「代表すらも批判できるんだから自由でいいじゃん」というひともいた。まあ、みんな好きなことを好きにいえばいいだろう。

　それと、先週「主張」で書いたけど、「内外タイムス」（10月20日付）に武蔵丸関の君が代問題について僕がコメントした。武蔵丸関は千秋楽に君が代を歌わなかったが、歌わせるべきかという特集だ。

　ふだんは「内外タイムス」など買わないのにきっとプロレスのことが見たくて買った一水会の会員がいた。そして僕のコメントをみて、同紙に抗議の電話をした。

　後でそれを聞いて「そんなの俺に抗議してくれよ！」といった。「でも、内容の間違いじゃなくて、会長の紹介文が間違ってたんです」という。紹介文は「新右翼団体『一水会』代表で、『国旗国歌法案』に反対した鈴木邦男」となっていた。

　「法律で決めることに反対したんじゃないと会長はいってたでしょう。だから、間違いを訂正しろといったんです」という。うーん、でも、じっくり審議を尽くすべきだといったし、「このままでは反対だ」と記者は受け取ったんだ。そんなわかりにくい喋り方をした僕が悪いわけだ（赤坂注・ちなみにわかりにくいのはいつもです）。「やはり、文句は俺にいえ」といった。

　しかし、もう抗議した後だ。翌日の「内外タイムス」に「訂正」が出ていた。可哀想に、というか申し訳ない、というか。この後、手紙と電話で僕が謝った。　というわけで、「日の丸・君が代」となると、みんな”ホット”になる。ナーバスになる。もっと気軽に考えたらいいだろうと思うが。

　だから、みんなをリラックスさせようといろいろ喋ってんのにその＜誠＞が通じない。喋れば喋るほど”乱心”扱いされ、「なにもそこまでいわなくても」「まずいですよ」と後輩たちに止められる。ウーン、やっぱり松陰かな。

松陰なら国歌に反対するはずだ！

　でも、松陰は「君が代」なんか歌わなかったぞ。右翼の人たちはみんな松陰を尊敬しているが、松陰は「君が代」を知らず、歌いもしなかった。「当たり前じゃないか、まだなかったんだから」というだろう。そうだ。でも、松陰がもうちょっと長生きして、「君が代」を聞いたらどう思っただろうか。

　「ふざけんな！　こんなの歌ってられるか」と思っただろう。だって、これはドイツ人のエッケルトやイギリス人のフェントンなど外国人が作曲したんだ。松陰は＜尊王攘夷＞そのものだ。「毛唐、出て行け！」といって作曲した外人を斬っただろう。どうせ塾生にやれといっても「また先生、そんなことを。日本は近代化する

んですよ。外国並みに国歌ぐらいないといかんぞなもし。外国人に作ってもらってもいいじゃん」ていわれるに決まってる（赤坂注・そんないい方で？）

だから、＜誠＞のひと、＜激情＞のひと松陰は、一人で殴り込み、作曲した外人を斬り捨てる。

うん、きっとそうなるよ。その後はどうなる。「汚らわしい。毛唐が作曲した歌なんて歌えるか。アホらしい」といって自分で作曲したんでしょうな。あるいは「外国の真似をして国歌をつくる必要はない。そんなモノマネはやめろ、バカ！」というか。うん、これのような気がする。「そうだよ、鈴木君だけが僕の心を分かってくれる」と松陰の声が聞こえたよ。あらあら、なにも考えてないのに、ここまで自動的に「筆が」走ってしもた。

というわけで、今週は自動書記の原稿でした。今週は僕が書いたようだが、本当は松陰先生が書いた。そうだ、これからは「吉田松陰のホームページ」にしようかな。そうすると、西郷隆盛とか高杉晋作とか土方歳三とかいろんなビッグなひとたちが掲示板に書き込みをしてくれるだろう。

景山民夫さんや新井将敬さんも書いてくれるよね。こんな豪華な掲示板はちょっとない。みなみあめん坊さんに「掲示板は赤坂ばかりだ」なんてもういわれないよ（赤坂注・まだあめん坊さんのせいにしてますね）。

HOME　BACK

西村は「トロイの木馬」だね　11/1

「大川豊さん（大川興業総裁）と対談しませんか？」と、ある雑誌から電話がかかってきた。「いいですね。ぜひお願いします」と二つ返事で引き受けた。　大川さんは今話題のひとだ。なんせ、西村眞悟前政務次官（自由党）のクビを飛ばした男だ。やってやろうじゃないかと思った。でも、待てど暮らせど電話は来ない。大川さんが取材は一切断っているのだ。なんだこいつは。自分で火をつけておきながら逃げてんのかよ。

徹底的に議論すりゃいいのに

そして大川は次週の『週刊プレイボーイ』（11月９日号）に「西村問題、これだけはいっておきたい」とヤケに真面目なことを書いている。テレビの取材などでは真意が伝わらないので一切断り、ここだけコメントする、というのだ。　「騒動になるように仕掛けたことはない」というし、こういう。

「それにしても西村氏にはできれば辞職してほしくなかった。西村氏が問題提起しようとしていた話は堂々と国会の場で討論して、政策論争を展開しないと意味がない」。

なんだ、まるで産経新聞の社説のようなことをいってんな。でもそれもいえるよな。国会で呼んで徹底的に激論したら面白かった。なんなら国会も夜中にやって「朝まで国会」にすればいい。それで西村を論破したらいい。ディベートで西村が勝ったら、そのまま政務次官として留まる。負けたら辞職だ。その方がいい。

以前、ＮＨＫで高校生のディベート番組をやっていた。審判員がいてキチンと判定をする。「僕はこっちが好きだ」とか「こいつは嫌いだ」という感情的な判定ではない。「どちらがより論理的だったか」「どちらがより冷静に話せたか」「どちらが相手の弱点を的確に突いたか」というところを見て判定する。格闘技や新体操のジャッジみたいなものだ。それでやったらいいんだ。

あるいは「非核三原則」を採っている政府の一員として不適格、というのなら、喚問して糾弾すればいい。テレビを通じて「査問」「総括」するんだ。塩見孝也（赤坂注・おなじみ元赤軍派議長）さんや植垣康博さん（元連赤兵士。８人を殺して獄中生活27年。昨年出所。カッコイイです）にも特別出演してもらってやったらいい。

ついでだから大川豊も『プレイボーイ』の編集長も喚問する。そこで、糾弾し、総括する。自分たちの「問題提起」が間違っていないというんだから、ここで闘ってもらおうじゃないか。それなのにみんな「闘い」を放棄してしまった。卑怯な奴らだ、バカヤローが。

西村は勝手に辞めた。大川は取材を拒否し、おいら（赤坂注・何故いきなり「おいら」？）との対談も逃げて「名」をとった。『プレイボーイ』は言い出しっぺでこの号は売り切れで「実」をとった。みんなモヤモヤしたまま終わっちゃった。そして小渕と小沢だけがほくそ笑む。こういう構図なんだよ。これは後で説明するけんね。

『プレイボーイ』はウハウハ、笑いが止まらんやろな。けしからんやっちゃ。あっ、いかん態度のデカイ書き方をするとすぐ宮崎学（赤坂注・ご存じ任侠作家。中野の大親分。ステキですよん）に似てくる。注意せなあかんな･･･（赤坂注・大丈夫、似てませんから）。

『プレイボーイ』入手の顛末

「大川さんと対談しませんか」といわれて、『プレイボーイ』を買いに行ったらどこも売り切れ。赤坂のアホは買うわけないし。

困って、週刊『ＳＰＡ！』の担当者の河井さん（赤坂注・ステキです。こればっか）に頼んでコピーを送ってもらおうと思ったが、「河井さんはお前にこき使われて病気になった。私用で使うな！　アホ！　自分をなんだと思ってるんだ！　バカ！」と赤坂にいわれてたので、やめた（赤坂注・ひどーい、そんなふうにいってません。体位、じゃない、大意はあってるけど）。

担当編集者に何も無理なことはいってないのに。冤罪だよ。救援連絡センターの山中幸男事務局長にいったら「そんなもん自分たちで解決しろ。こっちは忙しいんだ」と叱られた（赤坂注・『赤坂鬼婆説』が定着しちゃうじゃないですか、広めないでくださいよう）。

それに、河井さんは「ぎっくり腰」だというし。これも僕のせいじゃない。神風真理ちゃんによると「若い女と無理な体位をしたから」というじゃないか。「河井さんに限ってそんなことないよ。無責任なデマを流すな」と叱っておいたけど。

というわけで、『ＳＰＡ！』には頼めないし、『ヤンナイ』にも頼めないし、しかたないからワイドショーを見て勉強した。まあ、これでだいたい分かった。　しかし、下品な男だね、こいつは。「強姦で語る防衛論」か。多分、『プレイボーイ』でそれも「お笑い」の大川相手だから、「お笑い」として喋ったんだろう。大川をなめてたんだよ。バカだね、ガードが甘いよ。「ゲラ（校正）を見てなかった」という説もあるし。秘書には元日本学生同盟（民族派学生組織だよ）の佐々木もいるというのに（赤坂注・日学同なら他にも誰かいましたよね）、迂闊だったね。

でも、やっぱり『プレイボーイ』の記事を見てみたい。でも河井さんには頼めないし。そうだ、逆の体位をすれば「揺り戻し」で治るんじゃないのかな。あっ、「体位」はデマなのか。ダメじゃないか、デマを流して。真理ポンめ！

で、10月22日（金）のことだった。「ジャナ専」（日本ジャーナリスト専門学校）の授業の日だ。僕は現代史を教えているが、この日は、「天皇とマッカーサー」をやろうと思っていた。

そしたら、講師室で亀井淳先生が授業用に資料を整理している。亀井先生は元『週刊新潮』の編集次長で、今はフリーのジャーナリスト。真面目な先生だ。赤坂は尊敬しまくっていて「亀井先生と内橋克人さんのためにしかたなく高い会費を払って『日本ジャーナリスト会議』に参加している」といっていた（赤坂注・バラさないでくださいよ･･･）。

見たら、西村と大川の討論の載った『プレイボーイ』だ。

「あっ、それ探してたんです。ください」「いいですよ、新聞のコピーもどうぞ」。助かった。そうだ、いっそこれをコピーして生徒に配り、みんなで読む。そうすると僕の「予習」にもなる（この時点ではまだ大川と対談するつもりだったからだよ）。

それでコピーして、この日の授業は「核と国防」にした。「天皇とマッカーサー」なんてどうでもいいよ。やめちゃった。

そして生徒に朗読させて、初めて読んだ。

小渕と小沢が責任を取れ！

フーと一息。本題に入る前にこんだけ書いちゃったよ。

西村発言の核心は「核」だよね。あれれ、ダジャレをいうつもりはなかったのに。僕は核は嫌いだからこれからは「核心」という言葉も使わないようにしよう。

「パキスタンとインドの間で核戦争の危機が叫ばれてますが」という大川の問いに西村はこう答えている。

「いや、核を両方が持った以上、核戦争は起きません。核を持たないことが一番危険なんだ。日本が一番危ない。日本も核武装した方がええかもわからんということも国会で検討せなアカンな」。

これを見ると「核武装すべきだ」とはいってない。国会で討論したらいいといっている。「論議をタブーにするのはおかしい」と産経新聞はいう。僕もそれは分かる。

だから、国会に呼んでその上でクビを切ればよかった。西村にいいたいだけいわせる。質問もする。その上で、「じゃー、議員としてやれ。政府としては非核三原則を採っているんだから、お前はダメだ」とクビを切ればよかったんだ。それをすんなり辞職させてやるなんて変だ。辞表を突き返し、バカヤロー、お前なんかクビ

だ！　強姦野郎！　といってやればよかったんだ。

　だって柿沢弘治さん（赤坂注・元自民党議員。赤坂の地元。フランス語が得意）が今年の都知事選に出るんで辞表を出したら「受け取れん！　クビだ！」と除名処分にした。同じく栗本慎一郎さん（赤坂注・元明治大学教授。著書『パンツをはいたサル』など。古いか）が盗聴法成立に抗議して辞表を出したらこれも除名処分になった。

　西村の方がもっと問題が大きいはずだ。それなのにすんなり辞表を受理している。これにはわけがあるんですよ。裏があるんですよ。以下次号！

　まずいか。もう少し続けよう。

　今回、一番責任あるのは本当は小渕と小沢だよ。西村はヤンチャな子供みたいなもんだ。考えもしないでポンポン口から出任せを喋る。ただのアホだ。「この点、邦男さんとそっくり」と赤坂のアホがいうとるが確かにいえる（赤坂注・ギクッ！　いいましたっけ？）

　それに西村は「朝まで生テレビ」によく出ていて、なんでも喋っていいもんだと思った。確かに「核を持つかどうか議論すべきだ」と朝生でいってた。でもそのときは「バカヤロ！ー」「アホ！」「死ね！」といわれて発言もすぐ吹き飛んじゃった。あの下品な討論で「鍛え」られたんだ。

　いや、朝生ではいえなかったんで『プレイボーイ』では思い切っていったのか。「あの時は議員だったからいいけど、今は政務次官だから許されないのだ」というひともいる。そうなんだろう。

　ともかく、暴言、放言する人間なんだよ。そんなことは分かり切っていて、小渕と小沢は防衛政務次官という重要なポストに西村をつけたんだ。ここがミステリーなんだよ。

　ズバリ、西村のアホは「トロイの木馬」なんや。小渕や小沢は核を含めて本格的な防衛論議をしたいと思った。時代は「右傾化」だ。教科書、日の丸・君が代、そして憲法までは大丈夫だ。防衛も論議できるようになった。しかし、核はまだいえない。いや、ひょっとして「核のタブー」も少しはなくなったかな。ウーン、不安だな。といって、自分たちが出るわけにいかん。

　そうだ、西村のアホがいた。あいつならいつかポロッというやろう。それで国民が騒いだらまだ早いということや。すぐクビを切ろう。どうせあんな放言議員だ、だれも同情せんやろ（赤坂注・なるほど。でも何故いんちき関西弁なんですか？）

　･･･と、これが今回の事件の真実なんですよ。責任を追求するなら小渕と小沢だ。

だから、小渕と小沢が『プレイボーイ』に手を回して西村を出すように圧力をかけた、という説はない。

そこで僕の考えだが、僕はどんなことがあっても核には反対だ。「そんなの感情論だ」とかいわれるだろう。しかし、感情論がすべて悪いわけじゃない。核兵器を持ってまでこの国を守る必要はない。極論だがそう思う。どうしても戦争しなくちゃならない時（ないと思うけど）は老若男女、みんな一丸となって闘って守ったらいい。三島由紀夫は「自衛隊二分論」を唱えていた。ひとつは陸上を中心に「国土防衛隊」をつくり、日本を守る。もうひとつは航空を中心にし、国連軍にくれてやる。いいねー、こういう壮大な考えは。

僕は、国と国の戦争は殺し合いではなくいつかは＜格闘技＞になると思うよ。昔は集団の意見をまとめる時に反対者は殺していた。しかし、「ひとの頭を割るよりも頭数を数える方がいい」ということで選挙や民主主義が生まれたんだ。国と国の考えの違いを＜殺し合い＞で解決するなんて野蛮だし、ひどいよ。格闘技で決めたらいいんだ。500年後は確実にそうなってる。その時は「本当のことをいっていたのは鈴木邦男だけだ」と僕の名は教科書に載るだろう。

西村と辻元議員のバトルを提案する

しかし、西村の「強姦国防法」はすごいね。

「例えば、集団自衛権は『強姦されている女を助ける』という原理ですね。同じようにいえば、征服とはその国の男を排除し、征服した女を強姦し、自分の子供を生ませるということです。逆に、国防とは『我々の愛すべき大和撫子』が他国の男に強姦されるのを防ぐこと」･･･。

ウーン、わかりやすいというか乱暴というか。右翼だってこんな乱暴なことはいわんよ。まるでジンギスカンの時代ですな、頭の中は。それでも社民党の辻元清美議員はこの守るべき「大和撫子」に入ってないらしい。

「社民党の（集団自衛権に反対を唱える）女性議員にいうてやった。『お前が強姦されとってもオレは絶対に救ったらんぞ』と」。

論理が一貫してないよ。どんなひとでも「大和撫子」なら助けてあげなくっちゃー。でも、ワイドショーを見てたら国会前で辻元さんが西村を待ち構えていて「困ります、こんなこといわれちゃ」と文句いってた。アレも変だよな。だったら、国会でこの２人を対決させたらいい。いや「朝生」がいいな。司会もなし、ギャラリーもなし。２人だけ。時間無制限の「何でもアリ」でやる。何ならオリの中に入れて死ぬまで闘わせる。論争に負けて謝るか。肉体言語になるか。殺すか殺されるか。犯すか犯されるか。

それを見た国民は「闘うとは何か」「何のために闘うのか」「守るべき価値は何

か」が初めて分かるだろう。ぜひお２人にやってほしい。

ということで、終わり。

来週は「もう『君が代』なんか歌わない！」です。

オッ、どうしたんだ。鈴木に何があったんだ。全国民驚愕のなかで衝撃の「主張」が展開されます。

待て！　次号

HOME　BACK

もう「君が代」なんか歌わない！ 11/8

僕はもう「君が代」なんか歌わなくていいんだ。だって「一生分」歌ってるんだもん。物事には「絶対量」というものがある。僕はそれを達成したのだ。これには自信がある（赤坂注・ヤな自信ですね）。ノルマを決めろ！政府が「国旗国家法案」を決めたとき、国民として国家を一生の間に何回くらい歌ってほしいと思ったのか。あるいはどのくらい歌えば「期待される日本人像」になるのか。そのへんをキチンとしてほしかった。野党もこのあたりをちゃんと国会で質問しなくちゃだめじゃないか。僕が社民党から選挙に出て議員になったらやってやるよ。

ただ「歌え」、だた「掲げろ」じゃダメなんだ。１年のうち祝日とこの日は歌えとかいわなくちゃ。「１年に10日は歌いませう」とか「一生の間に1000回のノルマを達成しませう」とか。法律を作るならそこまでやればいいんだよ。

だって、体を鍛えるためにフィットネス・ジムに行くのだって「目標」や「ノルマ」を数値で決めるでしょう。「マラソンは疲れるまでやる」「ダンベルは腕がしびれるまでやる」「腹筋はぶっ倒れるまでやる」なんてのはない。「数値」で決めるんだ。「マラソンは30分やる」とか「トラックを20周走る」「ダンベルは10キロのを10回を１セットで３セットやる」とか「腹筋は20回を１セットで３セットやる」とか。そういう数値を決めないと体そのものを壊してしまう。

だから「君が代」もそうすればいいんだ。

たとえば時間を決めて「１日に５回歌う」という過激な案があってもいい。イスラム教の礼拝のようだ。これはキツイ。多分、誰もできないだろう。みんな非国民になる。あっ、かえっていいか。１日５回だから月にして150回だ。　そうすると右翼の集会でもみんないい合うんだろうな。「参りましたよ、先月はノルマの半分も達成できませんでしたよ。僕も非国民ですな」「いや私もそうでしたよ。10分の１もノルマを達成できませんでしたよ。これじゃー、売国奴ですな。しかし、仕事も何もできないし、困りますね」･･･と。

私もあなたも「非国民」、君も僕も「売国奴」。みんな揃って「反日」よ。そしたら、「民族の誇り」なんていえないよ、みんな。どうせ１億2000万人は非国民なんだから･･･ともっともっと謙虚な国民になるよ。他の国に対してももっとやさしくなれるし（赤坂「異議ナーシ」）。

･･･と「効果」もあるだろうが、でも「１日５回『君が代』を歌いませう」を法律にするのはムリだね。だから達成できるノルマにする。すると祝日は１年で10日くらいだろう。20日くらいかな、よく分かんねー（赤坂注・14日です。「国民の祝日に関する法律」で決まってます。たまにはマジメな注を）。

それと自分の誕生日と親の誕生日と学校や会社の創立記念日を入れても年に30回

だ。だから政府もこのへんを妥当と思ってるんじゃないか。だったらキチンと書けよ、法律に。

「国旗及び国歌に関する法律」は、

第１条　国旗は、日章旗とする。

第２条　国歌は、君が代とする。

の２カ条しかないんだ。あとは附則でこまごまと国旗のタテとヨコの比率はいくらだとか書かれている。君が代もオタマジャクシ付き（楽譜っていうの？　オタマジャクシじゃ精子だよね。何か分かんねー。←今どき中学生だっていいませんよ、そんなこと。赤坂）なんだよ。

でも、これじゃー、「どのくらい歌ったらいい」のか分からん。「朝生」で半年くらい前に「国旗・国歌」をやっていた。はっきりいって最低の論争だったよ。誰もひとの話を聞いてないし、罵倒や揚げ足取りばっかりだった。聞いて損したよ。

「日の丸」や「君が代」に表れている「日本精神」は大らかで、平和そのものだ。聖徳太子がいうようにみんなの意見を聴き、三宝（赤坂注・いわゆるひとつの”仏法僧”ですね）を敬い･･･と。ひとの意見も聴かず、罵倒する奴らは最も「日本精神」からは遠い。こんな奴らに「『日の丸』『君が代』は平和の象徴であり」なんていわれても説得力がない。国旗、国歌を最も冒涜してる奴らだよ、こいつらは。

その中で高市早苗さん（自民党）がいいことをそれもたった一回いってた。この法律に「第３条」を加えるべきだ、と。「国旗、国歌を尊重すべし」と。いいねー。「日章旗」や「君が代」を国旗、国歌に決めただけじゃダメなんだ。「それがどーした」で終わりだ。「だからみんなで大切にしよう」「尊重しようね」ということでなくちゃー。それが「法律」だよ。ただの「宣言」じゃないんだから。

僕は2万5000回は歌ってる

じゃー、「尊重する」とはどういうことか。例えば「１年に30回は歌ってあげませう」という数値ノルマがつかなくちゃダメだろうに･･･。

そうすると「１年に30回」だから、20歳から80歳まで歌うとして30×60＝1800回だ。つまり、一生のうちに1800回歌えばいいんだ。そうすると「第３条」の「『君が代』を尊重すべし」に”合格”する。

そこで僕の話だ。僕は「生長の家」学生道場に６年間もいた（大学院にも行ったから）。休みで帰省したときを除いて、朝夕歌った。朝は国旗掲揚、夕べは国旗降下だ。

すると、１年365日のうち300日は歌った。朝夕だから１年に600回は歌った。

それが６年だから「3600回」は歌った。学生道場以外でもいろんな行事や集会はあったから、この６年内に１万回は歌った。そのあと「右翼」になってからもさらに歌った。

学生道場を出てから今まで30年だ。30年間では学生道場にいたほどは歌っていない。まあ、でも３分の１くらいは歌ったか。とすると、30年で１万5000回か。合計で２万5000回か。普通の「よき日本人」が一生に歌う分の10人分だ。つまり、もうおいらは歌わなくても十分おつりがくるんだ。もう誰にも遠慮はいらん。歌わないぞ！　誰が歌うもんか。

そうだ、さらに「９人分」余っているんだから、知り合いのひとにこの「権利」を分けてあげよう。まず沖縄の知花昌一さんにあげよう。何があっても「鈴木邦男に分けてもらったんだから歌わなくていいんだ」と堂々としていればいい。あとは、武蔵丸、旭鷲山、星誕期、星安出寿に分けてやろう。これで５人だ。赤坂も「君が代」は嫌いらしいから、分けてやろう（赤坂注・ありがたいんだかありがたくないんだか。苦笑）。もう３人分あるよ。さあ、申し込んでおくれ。早い者勝ちだよ。

よし、忘れないようにこの「譲る分」の順位を書いとこう。先月は赤坂が１位だったんだが、最近うるさいし、意地悪をするから今月は６位に落としてやった。ザマミロ。まだ嫌がらせが続くようなら来月は９位だ。もう後がないぞ。さあ、どうするどうなる赤坂、だ！（赤坂注・意地悪って？　私が？　いつ？）　昨日、用事で赤坂にＦＡＸしたら「お風呂に入ってる時を狙ってＦＡＸしないでよ！　いやらしい！　スケベ！　変態！」といわれた。まいるなー。ＦＡＸでそんなの見れるのかよ（赤坂注・そーはいってませんが、なぜかお風呂から出てくると邦男さんから留守電やファクシミリが来てるんですよ。これホント。「こんな時間に寝るな、バカヤロー」とか。で、しかたなく「寝てません。お風呂入ってて」とか正直にいってんです）。「私の爆乳を見たいんでせう」とかいってる（赤坂注・いつも見せてるでしょ。ウソ）。全く冤罪だよ（赤坂注・そりゃ私のセリフです）。

この後すぐ「45歳の高知の会社員ですけど･･･。お前の文章は独りよがりだ。自分の言葉に酔ってんじゃねーよ、バカヤロー」と電話があった。ヤダナー、やめてくれよ赤坂。ボイスチェンジャーを使ってまで嫌がらせ電話をするのは（赤坂注・あ、そのテがありましたか）。

あれっ、今気がついたけど、計算違いしてた。2万5000回を1800で割ると14人分だね。じゃ、まだまだ赤坂は大丈夫か。それに、もっと多くのひとに歌わない権利を分けてあげられるよ。

「日の丸・君が代」の「尊重」のしかた

えーと、話を戻す。いつまでもアホの赤坂の相手なんかしてられん（赤坂注・こんなにお慕いしておりますのにー。おぼえてろよー。笑い）。

高市早苗議員のいうように「第３条」に「国旗、国歌を尊重すべし」と入れるべきだと僕も思う。＜尊重＞とはまず「愛する」こと。「大切にする」ことだ。愛するには愛する＜気持ち＞と＜回数＞が必要だ。夫婦だったら１日に何回せっぷんするとか週に何回せっくすするとか･･･。これは形式的なようだが大切だ。まあ赤坂のように結婚したことのない奴には分からんだろうが。ペッ！（赤坂注・「56歳独身右翼」にそこまでいわれなきゃならない私の人生って一体･･･）。

ただ「愛している」という夫婦はダメなんだ。「愛」を形にして表し、「数値」にして実践しないと（今日は、やけに学問的になって話が難解になったな。ついてこれん奴は読むのやめてもう寝ろ）。

それで、「日の丸・君が代」への愛だよ。面倒だから、集中的に「君が代」の話にまとめてするけんね。

まず、「数値」は決まった。「一生の間に1800回歌うこと」。歌えなかったら罰則だね。親が反日的な奴で死ぬ間際に「ごめんなさい。一生の間に800回しか歌えませんでした」となったら子供が引き継ぐ。子供は自分の1800回に親の「遺産」分の1000回が加わり、2800回だ。そいつもノルマを果たせなかったら、また子供にいく。いつか「大忠臣」といわれる子供が生まれて、一生の間に１億回くらい歌って先祖の罪を全部チャラにしてくれるだろう。家貧しくして忠臣現わる、だ。何かよく分からんが（赤坂注・そればっかですね）。

では、「愛」の＜気持ち＞の方だ。

まず、正式な「三角たたみ」のできない奴は即、逮捕だ。ボロボロの「日の丸」を車につけてる奴（赤坂はそれがレッカー移動されてるのを目撃しました）とか恐れ多くも「日の丸」を壁に画鋲で留めてる奴も逮捕だ。まったく尊重していないじゃないか。中には「日の丸」を引きずって走ってる黒い車もあったぞ。何をやってる車か知らんが。暴走族のようにナチスの旗と「日の丸」と一緒に振ってんのも尊重してないんだ。逮捕し、銃殺だ！　「日の丸」を大切にしない奴は日本人じゃない。だから殺してもいいんだ。サッカーで面白そうに旗を振ったり、すぐ道端に捨てたりする奴。これも公開銃殺だ！

あっ、おいらも昔は「三角たたみ」ができなかった（実は今もできない）。赤坂が写真もってるけど、昔汚いぼろぼろの「日の丸」をまくり上げてとめて得意げに写真撮って外国の雑誌に出たこともあった（赤坂注・ＨＰでも発表の予定。お楽しみに）。恥ずかしい。でも「法律不遡及」の原則でこれはいいんだね。

ウーン、こうなると「第３条」を入れるのも考えものかな。まるで「お犬様」になっちゃう。小渕首相は「犬公方」ならぬ「旗公方」「歌公方」になっちゃうよね。

ではまた来週会いませう。

くれぐれも「日の丸・君が代」を大切に。

火の元には気をつけて。

（赤坂注・とくに「君が代」に集中してなかった気がしますけど。ま、いいですか）

HOME　BACK

豪紙記者のインタビューで「勉強」だ！11/15

そうか、こんな手があったかと思った。

「観の転換」というやつだ。見方をちょっと変えると気分も楽になるし、大いに勉強にもなる。多分これも昔、「生長の家」で教わったことだよな。シドニーの新聞記者と会ってるときにそう思ったのだ。

ガイジンの右翼観は「Oh! Terrible!」

今までは外人記者と会うのはおっくうだった。嫌だった。面倒だし、時間は取られるし、基礎的なことから説明しなくちゃならないし。通訳を通すから普通の２倍も時間を取られちゃう。

おまけに僕個人の話を聞きたいわけじゃない。「この問題について日本の右翼としてどう思うか」「右翼は今、何を考えているか」といった話ばかりだ。「バカヤロー、そんなこと俺の知ったことか！」と心の中で叫ぶだけで気が弱いからいえない。

「活動家としてはもう半分引退してますから･･･。右翼の運動についてならこのひとたちの方が詳しいですよ」と他団体のひとを紹介する。「どうしても一水会の人間に話を聞きたいというのなら木村（三浩）書記長がいいでしょう。彼は英語もペラペラだし、外国へもよく行ってますから」と、他のひとに回すようにしている。

しかし、「それでも鈴木さんの話を聞きたい」といわれると、ひとがいいから結局引き受けてしまう。そして、いつも後悔する（赤坂注・結局、自慢話なんですか？）。

でも、例外的に楽しいインタビューもあった。でも大昔の話だ。25年前に櫻井よしこさんにインタビューされたときだ。「シカコ・トリビューン」だったか「クリスチャンズ・サイエンス・モニター」だったか忘れたが、彼女はそこの記者だった。日本語を喋ってもすべて「英語訛り」になる。日本人なのに変なひとだと思った（赤坂注・ハノイ生まれなんだそうです。許してあげて）。　あの頃は、僕も産経新聞を辞めて再度右翼運動を始めた頃だったので、はりきっていた。取材はすべて受けていた。櫻井さんには気に入ってもらった。港区の赤坂に家があって、外国人を集めてよくパーティーをやっていた。僕もよく呼んでもらった。

「このひとは性格はいいんだけど、思想は偏ってんのよ、極右なのよ、危ないひとよ」と外国人に紹介していた。「オー！　テリブル！」とみんな大げさに驚いていた（赤坂注・珍獣を見る目ってやつですね）。

その後、櫻井さんはテレビのキャスターになり、今はフリーのジャーナリストだ。『ＳＡＰＩＯ』にも連載している。アッという間に考えが「右翼」になった。僕を通り越して「極右」になった。一体、彼女に何が起こったんだろう。一度じっくり聞いてみたい。それで対談して本にするというのもいいな。

青谷舎（赤坂注・宮崎学さんと邦男さんの対談本『突破者の本音』の出版社）に

頼もうか。でも、辛淑玉さん（赤坂注・ご存じ人材育成コンサルタント）と僕の対談本がまだ出ないしな。３カ月も前にゲラは校了になってるのに。今月中に出るんだろうか。

・・・と、ここまで書いた直後に電話があった。11月13日に発売だ！

バンザーイ！　詳細は後日。

この前、櫻井さんから電話があったので、「今じゃ僕よりも右翼じゃないですか。オー！　テリブル！」といってやった。櫻井さんは笑って取り合わなかった。

”君が代博士”、記者にセマる

というわけで、25年前は楽しい取材もあったんだけど、それ以後はないなーという話だ。そんな時「観の転換」をはかる「事件」があったという話だ。事件というべきことじゃないか。

ええと、11月２日（火）の午前11時に『シドニー・モーニング・ヘラルド』の東京支局長、マイケル・ミレットさんの取材を受けた。「平成になって日本人の天皇観は変わりましたか」「日の丸・君が代の法制化をどう思われますか」「外国は日本の右傾化を心配してるようですが・・・」と型どおりの質問をされた。それが終わって帰ろうとするから「待ってください」と引き留めた。そして今度は僕の方から質問をした。

これが僕の「観の転換」なのだ。ただ聞かれるだけじゃなく、こっちも彼らの考えを聞いておこうと思ったのだ。このチャンスを何とか「活用」しなくっちゃー＜国旗・国歌＞について、世界的視野から考えようと思ったのだ。（赤坂注・逆インタビューですか。赤坂も経験ありますが、迷惑でした。苦笑）。

「シドニーといったら、もしかしたらオーストラリアですよね」「えっ、よく知ってますね。さすが国際派の鈴木さんですね」とマイケルさんは驚いていた（赤坂爆笑）。

フフフッ、そんなことで驚くのはまだ早い。次の質問で彼は思わず座り直したけんね。

おらはこう聞いただ。

「オーストラリアの国旗にはユニオン・ジャックが入っていますよね。英連邦の国だから。でも独立国だからユニオン・ジャックを外そうという運動があるんですよね。それは実現しそうなんですか」。

「えっ、そんなことまで知ってんですか」とビックリしてた。「鈴木さんが『君が代博士』といわれているのは知ってましたが、私の国の旗のことまで詳しく知ってたなんて嬉しいですよ」といっていた。英語では確かにそういったのに（赤坂注・『ドクター・キミガヨ』？）、通訳の佐々木さん（同社東京支局次長）はなぜかそこを飛ばして通訳した。

「で、オーストラリアは国旗を変えるのか否か。どうなんです、What's Michael（ホワッツマイケル）？」といったがギャグが通じないようで、相手はポカンとしていた。小林まことのマンガ「ホワッツマイケル」は読んでないようだ。

で、マイケルさんはこういった。

「何とタイムリーな質問であることか。あなたの質問は日本人から受けた最もすばらしい質問のうちのひとつだと私は感動せずにはいられないところの体験を私は持った」。直訳だと読者が分からんけん、意訳して伝える。

彼はさらに「実は４日後に共和制に移行するかどうかの国民投票があるんです。それを受けて共和制になったら国旗も変わるでしょう」という。

「えっ、オーストラリアは共和制じゃないの？」と驚いてる読者諸君。認識不足ですな。オーストラリアは英連邦を構成する重要国だ。だからエリザベス女王を国家元首といただく「立憲君主国」なんですよ。

英連邦は世界で54カ国もある。すごいねー。その中でもエリザベス女王を国家元首とするのは15カ国だ。また、オーストラリア、ニュージーランドなど４カ国は英国旗ユニオン・ジャックを国旗の左肩にあしらっている。おわかりかな。

マイケルさんは「国民投票でもきっと君主制維持派が勝ちますよ」といっていた。11月７日の新聞を見たら、まさしくその通りになっていた。

みんなもその新聞は見たと思う。「えっ、オーストラリアの君主はエリザベス女王だったのか」と初めて知ったひとも多かったようだ。女王様もこの国民投票の結果を「尊重し受け入れる」とおっしゃった。

でも、オーストラリアが「君主国」だろうと「共和国」だろうと別に変わりがない。法律が変わるわけでもないし、人民の権利や義務が変わるわけでもない。だったらどうして･･･と思った。「独立国」だということを示したいからか。でも、カナダもニュージーランドもオーストラリアも「独立国」だと世界中の人々は認識している。君主国だろうが、民主国だろうが、それで変わることはない。

「じゃー、どうして共和国になりたいの？」とマイケルさんに聞いた。すると「もっとアジアに目を向けるためです。アジアの一員としてやっていきたいからです」という。そうなのか。でも国民投票では「女王様を国家元首とする国がいい」となった。長い歴史を持った国だという「誇り」を持っていたいのか。そこで僕はまた聞いた。

「今回の国民投票でもし共和制になっていたら、自動的に国旗も変わっていたんですか？」と。これは当然そうなるはずだよね。でも、違うというのだよ、マイケルちゃんは。

「それは全く別の問題です。共和制になっても国旗はそのままです。国旗を変えるかどうかの論議はまた別々にやっているんです」。

ふうん、するとなんですかね、共和制になり、英連邦を飛び出しても国旗は今のまま英国国旗が入っている。そんな状況になるわけですか。不自然ですね。おかしいですね。

「不自然かもしれませんが、そうなるんです。もっとも、共和制になったら、次は国旗を変える番だ！　という運動も勢いづくとは思いますが」。今のところ国旗を変えようという運動も下火のままだそうだ。君主制は維持したのに国旗だけ変えようというのでは盛り上がらないのか。しかし、カナダは英連邦だけど、国旗にユニオン・ジャックは入ってないね。

「あそこは初めからユニオン・ジャックを入れようという議論がなかったんで

す。それにフランス人も多いし、英語とフランス語が公用語として使われている。それでまったく独自の国旗ができたんですよ」。

豪州国歌は一般公募で決めたんだけど

　ともかく勉強になった。オーストラリアはやっぱり君主国家だったんだね。と認識を新たにした。
　でも、待てよ、じゃー、国歌はどうなるんだ。オーストラリアの国歌は英国国歌「ゴッド・セイブ・ザ・クイーン」を歌っているのか。そうだよな、きっと。国旗にユニオン・ジャックを入れてるくらいだから。と思ったら、なんと違っていた。
　マイケルさん曰く。「確かにずっと英国国歌を歌っていたんです。でも独自の国歌を作るべきだという運動が起こって、15年前に新しい国歌ができたんです」。
「あっ、知ってる。思い出した。確か一般公募で決めたんですよね」といったらまたもやマイケルさんは驚いていた。「ど、どうしてそれを･･･」。
　それは･･と謎解きをしようと思ったら、もう枚数が尽きた。
　本当はもっと書きたいのだが、赤坂のアホが「長く書けばいいってもんじゃない！　バカ！　低能！　無能！　ゴキブリ！　そんな時間あったら『ペテロ邦男』とか『邦男の部屋』とか別のコンテンツも書け！」っていうんだよ（赤坂注・体位、しつこいか。大意はあってます。みんなもそう思うでょ）。
　ひどいねー。こっちは寝る時間も惜しみ、食うものも食わず、ヒーコラいって書いてるのに。「長けりゃいいってもんか。内容もないのに。トンマ！」って、パートナー（赤坂注・仕事上の、って入れてくださいね）としていうべき言葉かね、おら、疑問に思うだよ。でも、自虐的だから黙って泣き寝入りしてるけど（赤坂注・ここでバラしてるじゃないですか。あんまりワガママいってると狂言妊娠しちゃいますよ。←先週のＳＰＡ！　参照）。
　というわけで、続きは次回に。本当はオーストラリア国歌の「一般公募」にはすごいドラマとあっと驚く裏話があるんですよ。一気に書こうと思ったが、赤坂のアホが邪魔するんよね。みんなもアタマにきて、イライラすると思うけど、恨むなら赤坂を恨め！　呪うなら赤坂を呪え！

　ということで涙をのんで次回に続く。

HOME　BACK

日豪両国歌の共通点　11/22

　オーストラリアは11月６日に行なわれた国民投票で立憲君主国維持が決まった。元首はイギリスのエリザベス女王だ。そして国旗を変えようという運動も下火になった。だから国旗は今でもユニオン・ジャック（英国国旗）が入っている。オーストラリアは英連邦を支える重要な国なのだ。「アジアの一員」というよりは「白人の誇り」を選んだのだろう。

　ということを先週書いた。今週はオーストラリアの国歌についてだ（赤坂注・めずらしく先週に続いてますね）。

　『通販生活』見た？

　英連邦の名誉ある構成国なんだから、国歌も英国国歌を歌っているのかと思った。

「昔はそうでしたが、今は違います」とマイケル・ミレットさんはいう。

　先週も書いたがマイケルさんは豪紙『シドニー・モ–ニング・ヘラルド』の東京支局長だ。11月２日に僕が日本の民族主義について取材された後に、オーストラリアの国旗国歌について”逆取材”したのだ。

　「そうだ、思い出した。たしかオーストラリアは一般公募で国歌を決めたんだよね」といったら、マイケルさんは青い目を白黒させていた。ところでこれって英語で何というのだろう。それに昔、洋画を見てたら「俺の目の黒いうちは許さん」というのがあった。お前は青いじゃないかと思った。赤坂も「英ＢＢＣニュースを見てたら同時通訳のひとが『親方日の丸』といってましたが、英国なら『親方ユニオン・ジャック』ですよね。でもどういう意味？」といってた。蛇足。

　「よくそんなことまで知ってますね」と驚くマイケルさん。「実はこれに載ってたんですよ」と僕はやおら１冊の本を取り出した。『通販生活　秋の特大号』（カタログハウス発行。電話・購読者係0120-832-932）で今年の10月号だ。

　ここでは何と世界の国歌についての大特集をやっているのだ。９ページにわたる意欲的な分かりやすい特集で、今まで読んだ中では一番いいと思う（赤坂注・偉大なる「鈴木邦男先生」も出てますしね）。

　「『君が代』の『君』と『代』が問題になっているけど　世界各国の国歌はどんな歌詞なんだろう」という特集だ。その中の大きな章だけを紹介してみよう。

　「『君が代』の歴史」「各国の国歌テーマは大きく３つに分類される／”革命・独立歌”“愛国歌”“賛仰歌”」「神、王様、君、民･･･／世界の国歌は歌詞の中で『誰』を

讃えているのか」。

「戦争、分裂、国政変更･･･／国家が変われば国歌も変わる」ここでは僕がコメントした。「４年に一度国民投票すればいい」と無謀な提案をしてまたもや周囲の怒りを買ったが（赤坂注・なんで４年なのかっていうとね･･･。本人が説明します、そのうち。あと邦男さんの経歴が違ってた）。

そして「国歌の決め方いろいろ／公募あり、一般曲採用あり。法制化でもめているのは日本だけじゃなかった」。ここ！　ここですよ！　オーストラリアの国歌が紹介されたのは。

こう紹介しただけで読みたくなったでしょう。本当にすごい企画ですよ、これは。全国の中学、高校でもこれをテキストに教え、話し合いをすべきですよ。どんなふうにして世界の国歌が決まっていったのかよくわかる。『祝えや国民』のヒミツでは、オーストラリアの国歌について。

「すったもんだの論争のあげく、ようやく独自の国歌を持てたオーストラリア」と見出しには書かれている。そしてこう説明している。

「もとはイギリス国歌が使われていたが1977年から議論が沸騰。一般公募を行い３曲を候補とした国民投票の結果、1984年正式に国歌として閣議決定された」。

ということは、７年以上も議論し、国民投票にかけて新しい国歌を作ったんだ。これは「『君が代』変えろ」派の市民運動家たちに勇気を与えるよ。よかったね、＜国民・住民投票を活かす会＞の諸君！　1984年に閣議決定したということはまだ15年しか経たないんだ。ずいぶんと新しい国歌だ。じゃー、それまでは英国国歌「ゴッド・セイブ・ザ・クイーン」を歌ってたわけだ。その方が長く歌っていたんだから愛着があるだろうに。

「確かに老人や保守的な人々は今でも集まりで英国国歌を歌っています」。フーン、日本の右翼みたいな人たちかな。

「じゃー、マイケルさん、あなたはどうなんです」と聞いた。彼は40歳。１歳から23歳まではずっと英国国歌を歌っていたんだ（赤坂注・１歳で国歌歌えるの？）。お母さんの胎内でも聞いていた。だったら新国歌よりもずっと愛着があり、懐かしいだろうに･･･と思った。

「オーノー、ちゃいますねん。オースラリアは独立国なのになぜ外国の歌を歌うのだと不思議に思ってたし、反撥してました」。へえーそうなの。マセたガキだったんだね。ガキなのに戦争批判してた「少年Ｈ」みたいだね。それに「外国の国歌」っていったって、君らは英連邦なんだから。君らの国の歌じゃないか。と思ったが、「いや、若者はみんな、英国国歌に反撥してました。それが愛国心です」という。うーん、難しい。英連邦の一員として英国国歌を歌うのも愛国心。そんなの

嫌だ、独自の国歌を作ろうというのも愛国心だ。愛国心と愛国心の闘いだ。”愛愛戦争”だ。「えーい、面倒だ。どっちもいらん。国歌なんていらんよ」というひとはいなかったんですか、と聞いたら質問の意味がなかなか理解してもらえない。やっと分かったら「そんなひといるわけないでしょう」。

　では、一般公募で決まったオースラリアの国歌を紹介しよう。

『祝えや国民』

(1)

*　祝えや国民 自由の国*

*　こがねは満ち満ち　海と山の幸に恵まれし　富める国よ*

*　歴史に残さん　わがよき国　歌いて祝わん　わがよき国*

(2)

*　南十字星の　下に　はげまん*

*　われらの世界を広く広めん　果てしなき原野　分ちあいて*

*　共に進みゆかん　わがよき国　歌いて祝わん　わがよき国*

（赤坂注・『通販生活』からの孫引きです。邦訳は共同音楽出版社刊『世界の国歌全集』によるそうです）

　なかなかいい歌ですね。フォークソングのようで、素朴で、そして国に愛と誇りを持てる歌だ。「南十字星の下にはげまん」なんてロマンティックでいいですね。日本から新婚旅行で行ったひとは星を見上げながらはげんでいるんでしょうね。愛と生産の歌でもありますね（赤坂注・こらこら）。

　「フォークソングのようだといいましたね。実際そうだったんです」とマイケルさん。えっでも一般公募したんでしょう。それがフォークソング？　「いや、歌詞はそうですが、曲は50年以上前からあったフォークソングなんです。だから国民に親しまれていたし、すぐに馴染んだんです」。そうなのか。じゃー、替え歌か。そんなこといっちゃダメだな。もともと親しまれていた曲に歌詞をつけたんだ。

　「では、日本と似てますね」といっちゃった。日本では歌詞が昔から知られていた和歌だった。日本のフォークソングだった。違うかな。でも、和歌は昔は声に出して歌ってたんだよね（赤坂注・百人一首選手権なんか見てるとそうですよね。秋来ぬとおおお、目にはさやかにいいいい、みたいな）。

　それに120年前に外国人に頼んで曲をつけたんだ。うーん、似ている。オースラ

リアと日本は兄弟だったんだ。ルーツは同じだよ、きっと。だって、日本人は眠れないときに「羊が１匹、羊が２匹･･･」と数える。これはかつて陸続きだった時代のことを深層意識の中でおぼえているからだ。冬はウールを着るし、夏はジンギスカン鍋を食うし（赤坂注・恥ずかしいからもうやめてください）。

「でも羊が１匹、羊が２匹･･･といって眠れます？」とマイケルさん。エッ、だってそれしかないでしょうが就寝儀式は。

「これはもともとオースラリアの伝統、習慣なんです。羊が多いし、寝るときはつい思い浮かべるんです。ワンシープ、ツーシープ、スリーシープ･･･と。この”シープ”って言葉がいかにも眠くなる発音でしょう。それを『ヒツジ』にしたら目が覚めますよ。だから真似るなら原文どおりにきちんとワンシープ、ツーシープ、スリーシープ･･･とやってくださいよ」。

そうだったのか。「すみませんでした。オースラリアを侮辱して」と日本国民を代表して謝罪した。

「ところで、50年前にできたフォークソングはじゃー、誰が作曲したんですか？」と聞いたら驚くなかれ、なんと･･･（以下次号）。

･･･と、ＳＰＡ！　ならここで終わるんだが、サービスで謎解きもやりませう。

「それも”羊”に関係あるんです」とマイケルさん。「そうか、羊が作曲したのか。さすがは羊の国、オースラリアだ」。

「失礼な。羊が作曲できるはずありませんよ。ちゃんとした人間が作曲したんですよ」。

「じゃー、軍楽隊の隊長さんとか有名な作曲家とか？」

「いえ、名前はわかっていませんが、羊泥棒が作曲したんです」。

エッ、そんな。と思わず絶句した。何も面白くするために話を作っているのではない。本当なんだ。”羊泥棒”って英語ではsheep thiefっていうのかな。one sheep thief、two sheep thief･･･と。これも数えると眠れそうだな。

羊泥棒作曲にしちゃあすごいよね。でも羊泥棒でもいい曲はいいと国歌にしちゃう。そこがすごい。いいですね、大らかで気に入った。それにオーストラリア人は国旗・国歌を非常に大切にするという。

アメリカ人のように小旗を作って打ち振るとか何かといえば国旗を振り回して叫ぶのは嫌いだという。あんなに乱用してはかえって大切にしてないという。　これは全く僕と同じ考えだ。感動した。意気投合した。どうしてこんなに考えが一致するんだろう。

「それは鈴木さんが”羊年”だからですよ。もともとオースラリア人なんですよ」。

ゲッ、そんな理屈があるのか。「私も羊年なんですよ。同志です」といって握手して別れた。でも後で考えたらマイケルさんは40歳。羊年じゃないぞ。それにオースラリア人は干支なんてあるのかな？　それとも羊の国だからみんな羊年なのかな。

と、羊に、いや狐につままれたような１日でした。

オワリ。

HOME　BACK

やっぱり国旗と国歌は国民投票にかけよう！11/29

11月８日（月）、全日空ホテルで「『朝まで生テレビ』放送150回を祝う会」があったので、それに出てきた。”朝生”は１回のパネリストが20人くらいだから、150回なら3000人だよね。でも重なって何度も出てるひとがいるから、総数にすると1000人くらいか。1000人というと日本の政界、言論界の主だったひとたちはすべて出てる感じだね。でも1000人集まったら大変というので、今回は「厳選100名様」だけが「ご招待」になったんだ。

「あなたはクイズに当選しました」「特別に選ばれました」「だからお金を振り込んでください」というのと似てるが、こっちは本当にご招待だし、タダだ。それに有名人はいっぱい見れるし、ごちそうは食えるし、ハッピーだった（赤坂注・恥ずかしいからそういうの書かないでほしいんですけど。あと、ハナシがタイトルと違いますけど）。原稿の締め切りも忘れて二次会、三次会と12時頃までつきあってしまった。

さーて、来週のＳＰＡ！　の宣伝も

そこで、今話題の辻元清美議員（社民党）に会った。11月２日号の『週刊プレイボーイ』で、西村真悟議員（自由党）に「セクハラ発言」された可哀想な女性だ。西村は「国防とは、我々の愛すべき大和撫子が他国の男に強姦されることを防ぐこと」といってた。下品な防衛論だ。

しかし、左翼の女性や社民党の議員やアホの赤坂はこの「守るべき大和撫子」に入っていないという（赤坂注・別にいいけど、なんで私をご存じなんですかね？）。だって、「社民党の（集団自衛権に反対を唱える）女性議員にいってやった。『お前が強姦されとっても、オレは絶対に救ったらんぞ』」といってんだよ、こいつは。

この女性議員が辻元清美さんなんよ。彼女、激怒しとった。そして「鈴木さん、私のボディガードになってえな」「よかとよ。やっちゃるけん」という話になった。そうだ！　と僕は更に「革命的な提言」をしてやった。清美ちゃん（赤坂注・馴れ馴れしいですね）は、「ホンマ？」とびっくりしていた。

その先を書くと、「ぎっくり腰の編集者」に叱られる（赤坂注・ＳＰＡ！　の〇井さんですね）。そうだ、神風”精虫”真理（赤坂注・真理ちゃんは違うといってますよ）は、「編集者は、若い女を相手に変な体位をしたんでぎっくり腰になった」といってたが、それは嘘だ。

何でも「痴漢」の特集記事があって、その体験レポートを書くために無理な姿勢

で女性の腰に手を伸ばし、それでぎっくり腰になったという。これは編集者と親しい赤坂の証言だ（赤坂注・ちょっと違うけど、まあいいですか）。

だから、「仕事熱心」からぎっくり腰になったのであり、「遊び」でなったのではない。これは彼の名誉のためにも正しておかなくてはならない（赤坂注・でも「あー。尻やわらかかったなあ」っていってましたよ。ホント）。

精虫真理め、デマを流したらダメじゃんか。お前なんか精虫に戻ってしまえ！ちょっとくらい若くて美人だと思って図に乗ってるんじゃねえよ、バカヤー！　と赤坂がいってたぞ（赤坂・ギクッ！）。

というわけで、詳しくは（ぎっくり腰でなく辻元清美ちゃんのことだよ）週刊ＳＰＡ！　の12月８日発売号を読んでね。僕のアッと驚く「提言」と辻元議員のアッと驚く「反応」が載ってるから。買ってソンはないよ。「つまらなかった」というひとがいたら、僕が330円返します。「ＳＡＰＩＯ」（12月８日号）の「ゴー宣」にも、清美ちゃんが取り上げられている。メチャ面白かった。小林よしのりさんは天才だね、やっぱ（赤坂注・へーそうかなあ。誕生日同じなんですよ、私。あと高橋和巳さんと野毛英雄さん。林家ぺーさんみたいですみまん）。ついでに新刊の宣伝も
そうそう、件のパーティーでは辛淑玉さんにも会った。「最近の朝生はつまらない。初心に戻れ。でないともうつぶれるよ」と相変わらず厳しいことをいってた。「可愛い顔して辛辣なこといいますね」といったら「あのくらい、いってやんなくちゃー」と息巻いてた。そして、出版社・青谷舎に対する不満をぶちまけられた。

「このままでは出版をやめる！」というのを必死になだめて、ともかく出してくださいよと平身低頭だった。そのおかげで２日後に出た。

辛淑玉・鈴木邦男討論『こんな日本　大嫌い！』（青谷舎・1500円）がその本だ。

「初めは４万部出すといってたのに」と辛さんは怒ってたが、その何分の一の発行だ。苦労して作った本だ。僕が校正を終わり、「あとがき」を書いたのが７月で、それから辛さんの分の編集、校正が手間取り、大幅に直したので11月になってしまった。

運動の後輩たちに見せたら、「どうせ辛さんと鈴木さんで自虐的、反日的なことをぶつぶつといってたんでしょう。読まなくてもわかりますよ。こんな本、売れませんよ」といわれてしまった。うーん、タイトルが悪かったかな。どうせなら時代に合わせて「憂国討論」とか「愛国討論」にすればよかったかな、チクショー。･･･と落ち込んでたら、めずらしく赤坂が「おもしろい」といってくれた（赤坂注・エッ、いつもいってるのに）んで、ほっとした。死のうと思ってたのに生きる自信がわいた。赤坂様様だ。赤坂様は僕の心の太陽です（赤坂注・ひえー、ホメ殺しできましたか。苦笑）。

それで、「どうせ売れないか」と、今まで放っておいたんだけど、読み返してみると、けっこう内容があるし、教えられることが多い。「日の丸・君が代」についても詳しく書いてるし。「帰化」の申請について初めてその実態を知ったし。「帰還運動」の生々しい話なども詳しく語られている。「よき日本人とは何か」といった話なども考えさせられるし。もしかしたら今まで出した本の中で一番いい討論本じゃないか。誰だよ、「どうせ、自虐、反日の本だろう」なんていうのは。

それにしても辛さんは人間のスケールが大きい。何をいっても怒らないし、何を聞いても丁寧に教えてくれる。赤坂とは大違いだ。そして、気っ風がいい。お祭り好きで、体が大きいから、男物の浴衣を着て男物の鉢巻きとステテコでお祭りに行くんだってよ。あっ、これはお酒を飲んだときにポロッといったことだから内緒だよ（赤坂注・どこで内緒にするってんですか）。

最近の「君が代」の濫用を憂う

さて、話変わって「君が代」だ（赤坂注・いつもながら唐突ですね）。
11月14日（日）に、東京ベイＮＫホールに「アルティメット・ジャパン」の大会を見に行った。まあ、一口にいうと「なんでもあり」の格闘技だ。そこで、選手入場のときにやたらと「君が代」がかかるんだ。そう、あの忌野清志郎さんのパンク版「君が代」だよ。これが闘う気分にぴったり合うんだな。選手は体を動かしてリズムに乗りながら入場していた。うーん、こうすると「君が代」も闘う歌になるんだな。元々は平和な歌だったのになー。と複雑な気持ちだった。もしかしたら、「パンク君が代」は平成版「君が代行進曲」になっちゃうかもしれんな。

そうだ、掲示板にも書いたけど、この大会の後、前田日明さんが安生洋二に背後から突然襲われて昏倒した。テロだ。僕は目撃した。そして今、発売中の『ゴング格闘技』（2000年１月号）に書いた。あらゆる面で「なんでもあり」になってしまった。怖い。

それと、「天皇陛下在位10周年」の式典をテレビで見ていたら、やたらと「君が代」を歌っている。歌手が独唱して、それで終わりかと思ったら、みんなで斉唱し、輪唱し（これはないか。でも輪唱っていいね。一人が「君が代」はと歌ったら次の人達が「君が代」と続ける。かえって荘厳な感じがするだろう）。

ともかく、この１時間の式典で５、６回「君が代」を歌ってた。「法制化したんだから、ジャンジャン歌わなくっちゃー」という感じがして嫌だった。歌手が１回独唱すればいいと思うよ。その方が厳粛な感じがする。ともかく法制化してから、どこでも「日の丸・君が代」を出しまくって、安売りしてるようで嫌だな。もっと大事にすべきだよ。

それに、法制化されると、もう「反対意見」はいえない感じで、タブーになっちゃう。反対してるひとはどこへ行っちゃったんだろう（赤坂注・うーん、いろい

ろやってるようだけど、今一注目されませんね）。
法制化されても議論しよう

　僕は「たとえ法制化されても４年に１回は確認の国民投票をすべきだ」と思っている。10年に一度、最高裁の裁判官の信任投票をやるよね。あれと同じで、選挙のときに一緒でもいいから信任投票をやったらいい、これについては先週の「主張」でも紹介した『通販生活』（99年10月号）にこう書いたんだ。

　「国は国民の自由を保障するためにあるのだから、国歌を歌う権利と同様に歌わない権利も保障するべき。政治家だけで決めていい問題ではない。今でさえ国歌について論議することがはばかられる状態なのに、法制化されれば遵法意識の高い日本人は国歌について自由に議論することができなくなってしまう。今、君が代は一般国民どころか右翼にも大事にされているとは思えない。国民がじっくり議論して大事にできるものに決めて、４年に一度、確認の意味も含めて国民が信任投票すればいいのだ」と。

　実は、これは法制化の前にしゃべったんだ。でも、そのとおりになってるよね。それに、「国旗」についても４年に一度、同時に国民投票をやったらいいといったんだ。でも、そのときの特集が「世界の国歌」だったから、国歌についてだけの話になったんだ。

　それで、何故「４年に一度」なのか。赤坂が「ちゃんと説明しなくちゃダメじゃないか、バカヤロー」というので説明しますよ、ハイハイ（赤坂無言）。

　４年に一度、オリンピックがあるでしょう。それに合わせてやったらいいと思ったんだ。

　だって、対外的に最も必要とされるのはオリンピックのときでしょ。その前になると忘れないし。あるいは４年に一度、閏年があるから、「２月29日」に国民投票をするっていうのもいいね。

　でも、混乱しちゃうかな。「あれっ、この前は『君が代』だったのに、今度は『上を向いて歩こう』かよ」とかその次は『海ゆかば』だったりして（赤坂注・いまの若いひとは『海ゆかば』なんて知りません）。国旗も「日の丸」だったり「赤旗」だったり、（対抗して？）源氏の「白旗」にしたり。いや、白旗じゃダメか。闘う前から降参してるみたいだし。

　それに、きっと他の国から「日本は何を考えてるんだ」といわれるだろうな。でも、中国やロシアだって国歌を頻繁に変えてるんだし、変えたっていいんだよ。イタリアは戦争に負けて国歌を変えたし、ドイツは歌詞の１番と２番が「侵略的」だというので３番だけを歌っている。負けたのにそのままの国歌で歌ってんのは日本だけだね。もともと「戦争用」の歌じゃなかったからだよ。

中国は、第二次世界大戦後の1949年、中華人民共和国が成立し、「義勇軍行進曲」が国歌に制定された。そして、1978年には「毛沢東を讃える」内容の歌詞に変更された。ところが、毛の死後、その「毛沢東の旗をかかげよ」という部分を取っちゃって、もとの歌詞に戻した。忙しいことだ。

ロシアは、ソビエト連邦時代の1943年「スターリンの歌」に公募の歌詞をつけて国歌になった。1977年、詞の中の「スターリン」が「レーニン」に変更になった。ソビエト解体後はこれもまずいとなって廃棄。19世紀の作曲家による「祖国愛の歌」を編曲したものを使用。歌詞はついてない（すべて『通販生活』から引用）。

ということは、ロシアでは「国歌斉唱」はないんだ。歌おうにも歌詞がない。メロディだけをみんなハミングしてるのかな。昔の「７人の刑事」のテーマソングみたいに。あっ、誰も知らないか（赤坂も知らないということにしてください）。

「君が代」の歌詞が気に食わないんなら、こういう手もあるじゃないか。代案がないから負けるんだよ、君たちは。しっかりしろよ。と、僕にいわれるようじゃダメだな、市民運動家諸君。「日本の国歌はロシア式にしろ！」くらい、いってみなよ（赤坂注・あーあ、右翼も市民運動家もテキに回しちゃって）。

というわけで、今週はオワリ。

赤坂にも世話になってるし、謹んで歌ってやるよ。

♪赤坂が代は、千代に八千代に･･･

（先日の件は反省してますから、それだけはお許しをーっ。さて先日の件とは。以下次号！）

HOME　BACK

赤尾敏さんと「国会議員の制服」について　12/6

　11月24日は野分祭（のわきさい）だった（赤坂注・一水会では三島由紀夫さんと森田必勝さんの追悼祭を「野分祭」といいます。森田さんの辞世の歌「今日にかけてかねて誓ひし我が胸の思ひを知るは野分のみかは」からとったそうです）。
　そこで発表したのだが、2000年１月から一水会は新体制で出発することになった。
　木村三浩書記長が会長に就任し、若い会員で新たな運動を進めることになった。僕は顧問になる。今までも「運動」面では引退したも同然だったから、あまり変わらないかもしれないが、若手が主体的に責任をもって運動を思い切りやる体制ができたわけだ。僕としても、これからは更に自由に言論活動ができるし、肩の荷が降りてホッとしている。
　というわけで、これからも本ＨＰをよろしくお願い申し上げます。では、よいお年を。

　あっ、まだ１カ月あったのか。じゃー、気を取り直してやりませう。

新刊２冊！　もう少しお待ちを

　年内にもう２冊本が出るはずだったのに遅れてる。
　１冊は『がんばれ！　新左翼』（Part３望郷篇）。９月中に必死に原稿を書いてエスエル出版会に渡したのに、ゲラも出てこない。『買ってはいけない』の便乗本･･･じゃない批判本の『買ってはいけない大論争』を急遽出して、それで僕の本は忘れられたようだ。悲しい。来年になっちゃうのか。
　もう１冊は、10月中に書き下ろして出版社に入れ、11月に出るはずだった『右翼用語の新釈事典』だ。昔、『レコンキスタ』（赤坂注・ご存じ一水会の機関紙ですよん）に５回くらい書いたが、これを書き改め、250枚の書き下ろしを加えて他の出版社から出す予定だ。『がんばれ！　新左翼』を９月中に書いて、10月は１カ月この『右翼用語』にかかり、10月末に原稿を入れる約束をした。しかし、連載とかＨＰとか他にもメチャクチャ仕事があって、友人は亡くなるし、テロは目撃するし（赤坂注・掲示板にも出てましたが、「生長の家」のご学友と前田日明さん襲撃です）、ここでは書けないけど”殺すか殺されるか”の怖い体験もしたし（赤坂注・相手は私じゃありません。念のため）･･･というわけで、原稿を書く時間がなくて、なんと１カ月も遅れて11月末にやっと入れた。こんなに約束を破ったのは初めてだ（赤坂注・へー。そうですか）。　でも、苦労した甲斐があって、面白いものができると思う
　「街宣」「肉体言語」「ＹＰ体制」「デモ」「カンパ」「潜在右翼」「えせ右翼」といろんな言語の「定説」（！）と、さらに僕なりの「解釈」と、一般国民から見た新たな「定説」･･･などを書いたんですよ。そして、「ビラ貼り」の章では、

大日本愛国党の筆保泰禎（ふでやす・ひろやす）さんにインタビューした。筆保さんは59歳だけど、今でも毎日ビラ貼りに出ている。１日に１人で600枚貼るという。もう「名人芸」だ。「ビラ貼りの神様」だ（赤坂注・これ聞いてから、電柱のあのビラをみると、熱いものがこみあげるようになりました）。

僕なんて、もう体力、気力、性力ないし（赤坂注・シャレになってないですよ。でもそれをいうなら「精力」では？）、１日に５枚も貼れない。本当に頭が下がる。都内に貼ってある大日本愛国党のビラはほとんど筆保さんが貼ったものだ。街宣車で日中、ゲリラ的にやっている。そのビラ貼りの歴史と意義、方法などをじっくりうかがった。『右翼用語の新釈事典』は、来年の１月か２月に出るでせう。

国旗・国歌は国会議員が率先して尊敬しろ

さて、筆保さんの電話でのインタビューを終えて、「どうもありがとうございました」といって電話を切ろうとしたら「ＳＰＡ！　の連載読んでますよ。朝日新聞に書いてた”日の丸・君が代”論も読みましたよ」といわれた。

ギクッとして反射的に「どうもすみません」と謝ってしまった。我ながら自虐的だ。だって、向こうは天下の大日本愛国党だよ。日本の右翼の由緒正しいブランドだ。どんな田舎に行っても子供でも知っている。

昔、一水会の街宣車で東北の田舎に行ったら「あっ、愛国党が来た！」っていわれた。ちゃんと車に「一水会」と書いてあるのに（赤坂爆笑）、子供もおばあちゃんも「右翼＝愛国党」って思っちゃうんだ。すごい。悔しい。ともかく日本の右翼の代表が大日本愛国党だ。

それに比べたら、僕なんて異端というか、誰にも相手にされてないというか、だからヤケになって好き勝手なことをいっている（赤坂注・「いじけ」が原点なんですか？　トホホ）。

朝日新聞（今年の７月４日付。「今週の主張」８月２日号に全文掲載）の「日の丸・君が代」のコメントだって、右翼の99％（いや100％か）から文句をいわれ、糾弾された。自分の一水会の後輩たちからも「これが一水会の見解と思われたら困る。これは鈴木個人の勝手な考えで、一水会全体は違う」と『レコンキスタ』に”社告”を出されてしまった（赤坂注・でも知花昌一さんを始め、市民運動家には評判よかったざんすね。苦笑）。

そんなことがあったので、「アッまた叱られるな」と思ったんだ。

でもなんと･･･。

「ＳＰＡ！　は面白いよ。それに朝日のコメントよかったね。君が代も子供に押し付ける前にまず大人が歌わなくちゃだめだよ。公務員から歌えっていってたの、大賛成ですよ。それに励まされて、国会に請願に行ってきたんですよ。国会の開会式では議員がまず君が代を歌えって。横断幕を作って行ってきましたよ」。

「えっ！　本当ですか！」とびっくりしてしまった。一水会からも理解されなかったのに、伝統右翼の代表の大日本愛国党のひとから評価してもらったなんて。思わず涙がジーンとあふれたよ。

「赤尾敏総裁も鈴木さんと同じことをいってましたよ」と更に思いがけないこと

をいう。そんなバカなと思った。赤尾さんにはいつも叱られていた。
「何が新右翼だ、バカヤロー。安保廃棄なんてふざけている。アメリカの助けがなくてどうやって日本を守るつもりだ！」と怒鳴られ、ステッキを振り上げられた。こわいひとだった。亡くなるときまで毎日、銀座で街宣してたし、運動家としては立派なひととして尊敬しているが、考えは随分と違うと思っていた。
それなのに「鈴木さんと同じことをいってた」という。
赤尾さんは一度、国会議員だったことがある。戦前だが、確か最高得票数で当選した。すごい人気があったんだ。その時から「国会の開会式では全員、君が代を歌え」といってたのだという。すごい。大人が率先してやれば子供は自然に習う。子供に強制してはダメだ、と。
また、こうもいったという。国会は政治の場だ。政治は「まつりごと」（祭事、祭祀、奉事の意）といって、本来神聖なものだ。神に祈るような気持ちで国家のことを議論するのだ。だから、開会のときは神官をよんでお祓いをさせる（赤坂注・毎年１月４日の御用始は似たようなことやってますよ）。
ここでは君が代を歌い、国民儀礼をする。それから審議に入る。さらに国民の代表として神聖な仕事を行うのだという意識を持たせるために、ローマの元老院のような制服を着せる。
･･･ということを提唱したんだそうな。赤尾さんてすごいんだなーと僕は腰を抜かした。変な体位で腰を抜かすひともいるけど（赤坂注・まだいってるんですか）、僕は思想的、精神的に腰を抜かしたんだ。
ウーン、僕よりもずっと「新しい」し、「革命的」な提案だ。だいたい、今の政治家はひどいよ。自分たちは国旗も掲げない、国歌も歌わない。それでいて子供に強制しようとする。考えがセコいというか、卑劣だよ。
「赤尾提案」はすぐやるべきだよ。僕が社民党の議員になったらまず第一に提案するね。議員が国会で歌えないようなら国歌としてもやめたらいいんだ、バカヤロー！　と怒りに燃えてきたね（赤坂注・居酒屋によくいるタイプ）。
それに、制服もいいね（赤坂注・制服好きですよねー。苦笑）。ローマの元老院のようにバスローブみたいのを全員で着る。自民は白、社民党や共産党は赤。自由、公明は黄色･･･とか。なんか新左翼のヘルメットみたいだね。

ローマ人にならって「国会議員も制服」で

と、ここまで書いてアレッと思った。
あのバスローブはローマの元老院の制服なの？　歴史の本や映画を見ると、ローマ人は全員あれを着てるよね。だったらどいつが議員でどいつが一般人かわからんぞ。それとも、ローマ市民は別な制服を着てたのかな。これはぜひ法律を勉強してる赤坂くんに聞かなくちゃ。
そんで電話した。そしたら、弁護士を目指してるのにわからんという（赤坂注・いつそんな話に？　それに法学と政治学は違うでしょ）。
だいたい、お前はおいらのＨＰパートナーじゃないか。分からないことがあったらすぐに調べて注をつけるのがお前の仕事だろう。そのために高いお金を（いつ

か）払おうと思ってるんだよ。面白くもないツッコミばかり入れやがって。
　でも、赤坂は「そんなことワッカンナーイ」と女子高生みたいな気のない返事で（赤坂注・またまた。好きなくせに）、「ローマ人は同じ服だったんじゃないんですか、奴隷以外は。ローマに入りてはローマに従えっていうし」とわけの分かんないことをいう。
　「それにローマ人は、仕事は奴隷にやらせて、遊んでばかりいたんでしょう。私のように勉強するわけじゃないし。食欲と性欲のことしか頭にないのよ。だからすぐできるようにガウンみたいなのを着てたんでしょう」。
　ゲッそうかよ。ひで一解釈だ。「だってローマの道も一歩からっていうでしょう」。これもフォローになってないよ（赤坂注・本ＨＰをご覧の皆様、私がこんなことというと思います？？？？？　え一ん。２件問い合わせたけど、分からなかったんですよ）。
　頼りにならない赤坂との話を切り上げて、ＳＰＡ！　の編集者に電話した。本当はいけないんだよね。ＳＰＡ！　の仕事じゃないんだから。でも有能な彼は調べてすぐにＦＡＸしてくれた。ありがたい、涙が出る。こら、赤坂、ちゃんと礼をいっておけよ。本当はお前がやらなくちゃーいけないことなんだぞ（赤坂注・はいはい。でも、〇井さん、すごーい）。
　それに神風精虫真理め、こんないいひとのことを変な噂で中傷するなよ、バカヤロー（乱入！　神風注・ひどーい、それクニーがいったんだよ、真理じゃないよ。そんなこというともう遊んであげないから）。

　で、ローマ人の服だ。ローマ人はまず「トゥニカ」という下着を着てた。２枚の布地を肩と脇で縫い合わせたもので、首から被り、帯を締めた。さらにその上に「トガ」というものを着用した。これは帝政後期に至るまで公式行事の正装だった。凝ったものも多く、着方も難しく、そのために選ばれた奴隷が特別な訓練を受けるほどだったという。
　だから、ローマ市民全員が制服を着ていたようなもんだ。さらに、元老院議員用の「トゥニカ」には、緋色の太縞が一本入っていた。また、騎士の身分用には同色の細縞が二本ついていた。つまり、議員と騎士はきちんと分かるようにしていたんだ。赤尾さんはこのことを「議員の制服」といったんだろう。なるほどと思った。
　じゃー、日本の議員の「制服」はどうしたらいいのか。
　同じ色の背広でもいいが、これだとオリンピックの選手団になっちゃう。やはり、ローマの元老院のようにトゥニカの上にトガを着てほしいね。神に仕える司祭のようでもあり、いいじゃないか。そうすると、もっと真剣に議論もするでしょう、きっと。

HOME　BACK

今週の主張１２／１３

　11月30日（火）、マッド・アマノさんに会った。写真週刊誌『ＦＯＣＵＳ』の巻末で「狂告の時代」の連載をやっている、あのパロディストだ。それも、「日の丸」テーマにしたパロディを発表するという。問題が問題なだけに、『ＦＯＣＵＳ』でも告知しなかった。ひっそりと、内密にやるという。こりゃー、見に行かなくちゃと思った。その秘密の非公然「案内状」にはこう書かれていた。

　＜現在の日本ではタブーといわれている「日の丸」問題。政府が勝手に法制化して
しまった国旗としての「日の丸」。果たして「これでいいのか？」。「日の丸」を茶化すだけでは問題は解決しない。そこで、タブーに挑戦だ。この際、世界に出して恥ずかしくないデザインを提案しようじゃないか。嘲笑、冷笑、苦笑あなたならどの「日の丸」を選びますか？＞

　しかし、この日は他にも出版記念会やら何やらあって迷った（赤坂注・つまんないミエはらなくていいのにー）。しかし、事は「日の丸」だ。それに、あのマッド・アマノさんがやるんだ。わざわざ来てくれと僕に招待があった。何かが起こるんだろう。やはり、行かなくっちゃーと思ったのだ。

パロディ発表会場は都内ディスコ！

　午後８時より都内の某ディスコ（赤坂注・どこどこ？　ディスコと聞いちゃー、黙ってられません）で行うという。右翼や左翼の襲撃から防衛するために、わざとディスコで偽装してやったのだ。
　行ったが、問題の「日の丸」映画はなかなか始まらない。
　そう、問題提起のショッキングな短編映画を作ったのだ。警戒して、様子を見ているのかもしれない。ディスコでは延々と騒々しい音楽がかかり、若者達が酒を飲み、踊り狂っている。まいったなー、会場を間違ったんじゃないのかと不安になった（赤坂注・光景が目に浮かぶようです。耳にティッシュ詰めるといいんですよ）。
　でも、９時頃、アマノさんが現れたんで、ホッとした。知り合いの共同通信の記者もいた。あとは知らない若者ばかり。皆、踊りに来た連中らしい。その喧騒に紛れて、危ない「日の丸」映画を上映しようというのだ。
　「スタートは10時50分からです」とアマノさん。ひでーな、４時間も待たせるのかよ。でも、せっかく来たんだ。見ておかなくちゃーと思って。じーっと待った。長いよなー。最後の30分は熱烈に待った（赤坂注・このテのイベントはそんなもんです。外に出ちゃえばいいのに。再入場ダメだったんですか？）。　待つ間に、ア

マノさん、共同通信の記者と「日の丸」談義をした。アマノさんは映画を作るくらい「日の丸」が好きで、熱中している。熱中するあまり、パロディを考えたり、他にはこんな国旗の案がどうかなと考えている。

僕も「日の丸・君が代」は好きだし、「日の丸博士」「君が代博士」と皆からいわれている（赤坂注・「皆」って誰？）。タクシーは「日の丸タクシー」しか乗らないし、ピンキャバに行くときも「美人キャバレー・日の丸」しか行かない。子供のときはいつも「日の丸弁当」だったし。

そして、共同通信記者も僕ら２人に劣らず「日の丸好き」だ。「好き」というんじゃないか。詳しいし、「日の丸」については何でも知っている。

半年ほど前に共同通信で「日の丸」の特集をやった。その時インタビューをされた
んだ。「でも、あの時は10人のうち９人には取材を断られました」という。エッそんなに危ないテーマなのかとビックリした。好きでも嫌いでも自由に思ったことをいったらいいのに。根性のない連中だ。日本の評論家、文化人はだらしがないね、と思った。

「日の丸」だって消耗品なのだ

「日の丸を作ってる会社に取材に行ったんですよ」と記者は苦労話をしてくれた。シンプルだが、「日の丸」は作るのが大変で、手間がかかるという。白い布に赤丸だけだから、すぐできるのかと思ったら違う。寸法や割合や赤の色の出し方や大変なのだという。それに背景が白だけというのはやりにくいという。ちょっとでも汚れたら終わりだ。他の国の旗のように色や模様が一杯ある方が作るのは楽なんだという。

フーン、そういうものなのか。

「『国旗国歌法案』が通ったから『日の丸』を作る会社も忙しくなったんでしょうね」と聞いたら、そんなことはないという。

中学、高校では強制してるわりに、旗は売れていないという。官公庁はもう買ってるし、それが半年に一度買い替えられるだけだという（赤坂注・どーでもいいけど「という」が多い「という」苦情がきそうです）。

旗は、毎日外に掲揚しておくと、半年でダメになる。それを知らないで一水会では
何年もひとつの旗を使ってボロボロになっていた。それを壁にかけていたのを写真に
撮られて外国の週刊誌に出たことがある（赤坂注・近日アップします。ほっぺがふっくら。笑い）。あれは国旗を大切にしていないことだと今では反省している。

昔、『朝日ジャーナル』の『若者たちの神々』に出た時も、ボロボロで破れた「日の丸」を立てて演説していた。全くダメな奴だな、と昔の自分を叱っておいた（赤坂注・今のご自分も厳しく叱ってください。なんなら私が。いつもだけど）。

話を戻すが、官庁、学校では半年に一度、国旗を買い替えるが、一般の家庭では全然買わないんだ。法律ができたから、「日の丸」を買うひとがドッと増えたのか

と思ったのに･･･。そんなことはないのか。
　昔はどこの家庭でも祝祭日には国旗を立てていたし、息子が大学に入ったときは新しい「日の丸」を渡したし、娘が嫁に行くといってはやはり新しい「日の丸」を持って行かせた。
　そのようにして人々は「日の丸」を大切にしたんだ。暴走族やサッカーのサポーターたちが遊び半分で「日の丸」を振ったり、捨てたりするのを見ると本当に腹が立つ。あんな奴らは逮捕して厳罰に処すべきだよ。
　それに、一般のひとが「日の丸」を出さないのは、出すと「右翼だと思われる」というのがある。困ったことだ。警察の公安が「潜在右翼」を見つけるときのマニュアルに「郵便受けに右翼の機関紙がある者」、「街宣車を見て手を振ったり、拍手したりする者」、「庭先で木刀の素振りをしながら『国賊を殺す！』と呟いている者（赤坂注・そんなひといるんですか？）、そして、「『日の丸の旗』を掲げる者」･･･とある。
　これは本当の話だ。
　来年早々に出す『右翼用語の新釈事典』にもこのことは書いた。だから、一般国民
としてもいくら法律ができたとはいえ、うっかり「日の丸」を出すと「潜在右翼だ！」と目をつけられる。ひどい話だ。
　「そんなことをいう鈴木さんはどうなんですか」と記者に聞かれた。ギクッとした。
　「僕のＨＰを見てくださいよ。僕はもう２万回も国旗掲揚をしたんです。日本国民の義務は立派に果たした。だから、もういいんです。ノルマを果たしたし、これからは左翼になったって、オツリがくるんだ」と威張ってやった（赤坂注・威張ってどうすんですか。詳しくは「今週の主張11／８　もう『君が代』なんか歌わない！」をご覧ください）。
　「それに、『日の丸』を出して、周りのひとから右翼と思われるのは嫌だし･･･」といったら、「とっくに思われてるでしょうが。何を今さら」と馬鹿にされた。

一般家庭が「日の丸」を掲げない本当の理由

　「『日の丸』を作る生地は３つあるんですよ」と取材してきた記者はいう。　普通は木綿、ちょっといいのは絹、そしてポリエステルのもあるという（赤坂暴露・「ポリエチレン」と書こうとしてました）。警察はきっとポリエステルを使っているんだろう。しかし、絹の「日の丸」は見たことないな。
　「一般の家庭で『日の丸』を立てないのはもうひとつ別の理由があるんですよ」と記者はいう。
　それは、竿と玉が別売りで、なかなか手に入らないのだという。旗はスポーツ用品
店やデパートでも売っている。右翼グッズ店や暴走族グッズ店でも売っている。しかし、竿と玉は売ってない。大きな旗屋でもあるかどうか分からない。取り寄せたり、わざわざ作らせたりするという（赤坂注・話がおちそう「という」ヤな予感に

加え、相変わらず「という」が多い「という」）。

そうか、大変なんだ。竿は洗濯の竹竿とか、釣竿でも代用できるだろうが、その先のものはない。

「しかし、なんで日本のは『金の玉』なんでしょうね。外国の旗にはこんなの付いてないでしょう。それにこの金の玉は一体、何という名前なんでしょうか」という。「文字通り、金玉なんじゃないの」といったら皆シーンとなってしまった（赤坂注・「シーン」ならいいでしょ。赤坂ならラリアットです）。

でも、外国の国旗はどうなっているのかな。多分、槍のようなものが付いてたんじゃないだろうか。国旗も闘いの象徴なのだ。その点、「日の丸」は闘いをやめた平和の時代の象徴なんだよ。

そういえば、個人の家の「紋」にしても、そんなことはいえる。ヨーロッパだと、貴族でも軍人でも家紋はみんな動物だ。虎とかライオンとか鷹とか鷲とか。日本の場合、家紋は植物が多い。徳川家の葵もそうだ。着物に付けるし、戦場に出たときの旗にもその紋を染め抜いている。真田幸村なんて六文銭だからね。よくあんな紋で闘えたもんだ。熊とか鷹とか象とかもっと強そうなものを描いたらよかったのに（赤坂注・えー、「三途の川の渡し銭」なんでしょ。いいと思うけど。あと、地獄の六道の入口のお地蔵さんに一文ずつ渡すという説も。夜読むとコワイけどオカルト好き。オカルト寛平、なんてね）。

と思うのがシロウトだ。これには深いワケがあったのだという。昔、ベストセラー『悪の論理』を書いた倉前盛通さんが書いてたよ（赤坂注・結局、答えは本を読め、と。苦笑）。

と、そんな話を３人でしてたら、10時50分になり、マッド・アマノさんの「日の丸」映画が始まった。

面白い映画だった。別に「日の丸」を茶化しているのではない。いかに「日の丸」は日本に根付いているかがよく分かる。パロディを通すと、かえって「日の丸」の大切さがわかるんだ。こういうものがテレビに出せないというのが悲しいね。

僕のような熱烈な「日の丸・君が代」主義者が「反日だ！」なんていわれるように、アマノさんの「日の丸大好きパロディ」に対しても「ふざけてる！」と激怒する心の狭いひとがいるんだろうなー。嫌な時代だよ。

映画を見て思ったけど、日の丸弁当だけじゃないね。何を見ても「日の丸」に見え
てくるから不思議だ。信号の赤をみると「日の丸」に見える。野球やテニスのボールを見ても「日の丸」に見える。さらに街灯を見ると、エンピツを見ると、眼鏡を見ると、缶コーヒーを見ると･･･みんな「日の丸」に見えてくる。日本には日常生活の中にこんなに「日の丸」があったんだよ。だから、国旗にしたんだ、ということがよくわかった（赤坂注・引っ張ったわりに映画評論はシンプルですね）。

･･･と、ここまで書いたところで電話が鳴った。

赤坂の原稿催促かと思ったら『週刊宝石』だった。「妻への遺言」という特集に

書いてくれという。
　「いいですよ」と返事をして、枚数と締切を聞いた。「じゃー」といって電話を切ろうとしたら、「奥さんとは何年間ご一緒でしたか？」「えっまだですよ。そのうちもらいます」といったら、「じゃーダメですよ」と原稿の話はナシになっちゃった。いなくたっていいんじゃないかね。面白いと思ったのに。残念。

　ではまた来週。

HOME　BACK

今週の主張１２／２０

　批判が多くて落ち込んでるよ。抗議の電話や手紙も多いしね。掲示板にもあったな。ＳＰＡ！　の連載は日記を公開してるだけじゃないか。面白くねーぞ、と。
　そうか、つまんないのか。もっと社会性があって、過激で、危ないことを書かないとダメなのか、と頭を抱えた（赤坂注・社会性はともかくムリに過激で危なくしなくてもいいんじゃないですか？）。
　それで、ＳＰＡ！　の出来上がって送るばかりになっていた原稿も「チクショー！」と叫んで破り捨てた（赤坂注・何もモノに当たらなくても。トホホ）。
　そして、朝までかかってまったく別の原稿を書いた。こんな動機で書き直すとかえって悪くなるんだろうが、しかたない。俺もダメだなと思った。そして、芥川龍之介の『戯作三昧』を思い出した。そういってもわかんないひとはわかんなくていいよ。悔しかったら読んでみろ（赤坂注・あーあ、読者様にまでケンカ売っちゃって。そんなクニー嫌い。真理の真似）。
　他にも気になる書き込みがあったな。
　『刑事弁護』（99年冬号。発売中。現代人文社発行）のインタビューはよかったけど、こんないいものはＳＰＡ！　や『創』にも書け、だって。ほめられてるのか、けなされてるのかわからない（赤坂注・どこまでひがむかな、クニーは。けなしてはいないんじゃないですか？）。
　まあ、連載はそれぞれテーマを分けて、何とか個性を出すようにしてるけど、力及ばなくて、似たカラーになったりすることもあるんだ。それは何も某作家のように手抜きじゃないんだ。一生懸命やってるのに実力がないんだ。能力不足なんだ。悔しいけど（赤坂注・全国推定100万人の鈴木邦男の女性ファン、励ましメールを！　も一赤坂じゃ手に負えません）。
　それに、インタビューの場合は、「聞き手」というか「まとめ手」がうまいと、僕の話もずっとよくなる。『刑事弁護』や『アプロ21』（99年８月号。アプロツーワン発行）のケースがそれだ。それと、例の朝日新聞（本ＨＰ今週の主張８月２日参照）ね、あれなんてうますぎて問題を起こしちゃったからね。

左翼のくせに日の丸見て泣くな！

　で、『刑事弁護』の話だ。あのとき、学校の成績が優秀なだけで、司法試験に合格して裁判官になったり弁護士になったりしちゃーダメだといった。世の中のことを何も知らない奴がひとを裁けるか。世の中のことを知らないから警察にいわれてホイホイと「ガサ令状」を出したりするんだ。だから、司法試験に通ったやつは「ガサ入れ」や「拘留」を体験研修させろっていったんだ。その他、なんていったっけ、忘れた。

それに探したらどこにもファイルされてない。だめだ、こいつはまったく整理もできんのか！　と自分で自分を叱りつけた。こんなんじゃ、原稿書くとき困るじゃないか！　と「家のもの」に八つ当たりして、蹴飛ばした。「家のもの」っていっても、「者」じゃなくて「物」だからね。机とかテレビとかコタツとか。そいつらを怒鳴って蹴飛ばして平手打ちにしたりね。ウーン、「マッド・アマノ」じゃなくて「マッド・スズキ」になっちゃうよ（赤坂注・こわすぎ。邦男さんの場合、シャレにならないんですよ）。

あ、そうだ『刑事弁護』の担当だったひとのことだ。この記者（編集者というのかな）は、昔、なんと全共闘運動をしてたんだって。それで「日の丸・君が代」の話になったとき、「実は僕は日の丸を見て涙が流れて止まらなかったことがあるんですよ。恥ずかしいから誰にも話さなかったんですが」という。

「エッ！　なんちゅうことだ。全共闘のくせに。新左翼のくせに。ひどい。愚劣だ。生意気だ。ふざけてる･･･」と思った。でも、この場合の自分の感じを表現するにはちょっと違うなと思った。

じーっと考えていて、そうだ、「図々しい奴」だと思った。だから「新左翼のくせに日の丸を見て涙を流したなんて、図々しいよ」といった。俺たち右翼だって涙を流したことはないのに。俺たちの面目はどうなるんだよ、と思った。　この「図々しい」という気分は、前にも感じた、と思った。そうだ、元「楯の会」会員の大石晃嗣（てるつぐ）だよ。こいつは、早大の日学同から、森田必勝とともに三島由紀夫の「楯の会」に入ったんだ。お姉さんは有名な女性カメラマン（女性でカメラマンじゃ変か。じゃー、女性のフォトジャーナリストだ）の大石芳野さんだ。目黒に住んでいて、僕もよく遊びに行って、会ったことがある。

この大石晃嗣は早大生だが、英単語を200しか知らない。喫茶店のお姉さんだって「アイス」「プリーズ」「コーヒー」「ティー」と数え上げたら350は知っている（赤坂注・なんか二重に失礼ですよ）。

それなのに、早大で200だ。さらに、卒業後イギリスに留学した。そして映画「ポセイドン・アドベンチャー」を日本語字幕なしの英語で見て、感動して泣いたという。言葉がまったく分からないし、ストーリーも分からないはずなのに「感動して泣く」なんて。どういう神経をしてるんだ、このバカはと思った。その時、「図々しい」と思ったんだ。

フーッ長かったね。「図々しい」が出るまで（赤坂注・こんだけ引っ張ってこれですか。大石さん、本当にゴメンナサイ）。

さらに、図々しいのはこの大石は今では英語塾の先生をしてるんだ。さらにその後は商社マンになったという噂も聞いた。英単語を200しか知らないくせに本当に図々しい奴だ。

涙を流す代わりに･･･

そこで、『刑事弁護』の編集者の話に戻る。日の丸を見て涙を流したというが、あれっ、全共闘をやっているときに日の丸を振ったんだろうか。そんなはずはない。じゃー、逮捕されて護送車で送られた時に窓の外なんかを見ていたら、日の丸

が掲げられていて、不意に涙が流れたか。あるいは外国に行って、ふと日の丸を見つけて、懐かしくて泣いたのか（このケースが多いんだよね）。　ところが、違っていた。

なんと、ボーイスカウトをやっていた時の話だという。なんだ、早くいえよ、つまんない。でも、子供の時に、あんなもの見て感動するかよ。あっまずい、「あんなもの」なんて書いちゃったよ。でも、子供の気持ちとしてはそうなんじゃないか。それなのに泣いたのか。

その時は純真だったかもしれんな。だったらなぜ全共闘に入ったんだ。右翼学生をやるべきじゃないか、と腹が立った。どうもよく分からん話だ。

「どうせ僕は矛盾的人間ですよ。だったら鈴木さんはどうだったんですか。高校時代から右翼だったんだから、いつも日の丸を見て感動して涙を流してたんでしょう」と聞く。ギクッとした。

それで、学生時代のことを思い出した。毎朝、「生長の家」の学生道場で国旗掲揚をしていた。厳粛な気持ちで「君が代」を歌い、日の丸が上がるのを見ていた。でも涙が出たりはしなかった。オリンピックで優勝したわけでもないし、日の丸を見ただけで涙は出ないだろうよ。

じゃー、その時何を思ってたんだろう。考えた。

そして、アッと思った。マズイ。嫌なことを思い出した。そう、赤坂も嫌な予感がしただろう（赤坂注・このときは何も。後で臨死体験しましたが）。そうなんだよ。でもそんなことを『刑事弁護』の編集者にはいえない。

「どうしたんですか、鈴木さん、赤くなって？」と聞く。

「い、いや別に。ちょっと暑いねー」といってごまかして、無理に他の話題に移った。フーッ、危ないところだった。

だっていえないよなー。純真で清らかな宗教運動をしていた童貞のおいらが、あんなことになったなんて。いや、何もおいらのせいじゃないよ。じゃーここでやめようか。「生長の家」出身の「鈴木邦男ファンさん」（ＨＮ）の期待を裏切っちゃうことになるし。

でもここまで書いてやめるのも変か。犯罪的か。

でも書いたらまた「不敬な！」「反日だ！」なんていわれるんだろうな。まあ、おいらは２万回以上も「君が代」を歌い、「日の丸」を上げたからいいのか。

そう、じゃーいうか。

国旗掲揚のときに一列に整列して当番の者が日の丸を掲揚する。それに合わせて「君が代」を歌う。ああ、「日の丸」が上にスルスルと上がっていくなー。どんどん上がる、掲揚されてる･･･と思ってたら、**なんと「自分自身」の「自分自身」までが上に行ったんですよ。**

バカバカ、何でこんなときに、と必死で叱ったんだけど、ダメで。まいったねーありゃー。なにもおいらのせいじゃないよ。自然現象なんだから。女も知らないのに、どうしてそんな現象が起こるんだい。ポケットに手を突っ込んで押さえるわけ

にもいかないし、もう大変だったよ。
　まあ、一列になって皆、上を見てるからよかったけど、でも大変だったな。冷や汗もんだった。「日の丸」が上がる、上がる、と思ってたら自分も立っちゃったなんて。とても他人にはいえないよ（赤坂注・いってるじゃないですか、今ここで。死ぬかと思いました。面白すぎて）。

　それでどうしたかって？　もちろん収めるお祈りをした。何もそれ専用のお祈りがあるわけじゃない（当然だね）。でも、神想観の中の最後のお祈りをやるんだ。もうこれで終わりという部分。それを唱えて必死で収めたよ。

　と書いてて、今思ったけど、そんな体験をしたのはおいらだけかな。他の奴らだっていくら宗教的な清純な生活をしていても、生理現象はあっただろう。
　「日の丸」の上がるのを見て自分も上がった奴は他にもいるんじゃないのか（赤坂注・そんなヘンなひと”いない”に、映画のチケット１枚賭けてもいいけど、確認できませんね）。
　でも、今さら昔の仲間に電話して聞くのも恥ずかしいしな。
　あの頃、他の人間のも盗み見しとけばよかった。でも、もしも、もしもだよ、全員、おいらと同じだったら、ゾーッとするよな。ウーン、恐ろしい（すごい！　としかいいようがないです。でも、真理はこういうの好きでしょ）。
　こんなことを書くと、「不敬だ」とか「国旗を穢してる」なんていわれるかな。しかし、変なことを想像したわけではないし、まじめに国旗を掲揚してたんだ。そしたら上がっちゃったんだ。いけない奴だ。
　いやなことを思い出しちゃった。感動して涙をながすどころじゃないか。
　おいらもボーイスカウトに入ってもっと小さいうちに「日の丸」を掲揚していればよかった。そしたら、きっと感動して涙を流したのにな。

オワリ。

HOME　BACK

年内最後の今週の主張１２／２７
阿部勉氏の日記と旧友のこと

　このＨＰでも何回か書いたが、10月11日に阿部勉氏が亡くなった。元「楯の会」の
第一期生であり、また、一水会の創設メンバーの一人だった。
　だから、11月10日（水）と12月８日（水）の「鈴木邦男維新講座」（於・一水会事務
所）で、阿部氏の文章をテキストに皆で読み合った。彼の書いたものはけっして多く
ない。しかし、そのどれもが素晴らしい。漢文の素養があり、習字は師範級だし、文章
も勇壮にして華麗だ。きちんと歴史的仮名遣いで書いている。それも大学生のときか
らだ。とても彼にはかなわないと思っていた。今読んでみても舌を巻く（赤坂注・形見
分けで「ツメの垢」もらってきましたか？）。

「何かが肥えてゆく・・・・」

　「維新講座」では、阿部氏が「レコンキスタ」（赤坂注・おなじみ一水会の機関紙）や
「青年群像」（日本青年講座発行。民族派の理論誌）に書いたもの、「経済往来」の座
談会に出たときのものなどを読んだ。
　その中でも僕が好きなのは「青年群像」の1975年４月号と５月号に載った阿部氏
の日記だ。阿部氏は学生時代からずっと日記をつけていた。
　僕は阿部氏のアパートに転がり込んでいた時があり、その時ちらっと見せてもらっ
た。これはいいと思った。カント、ヘーゲル、西田幾太郎･･･といった本をよく読んで
いる。それでいて、酒もよく飲み、積み木遊び（麻雀）もするし、Ｍ子ちゃんとも遊んで
いる。「これはぜひ発表すべきだよ」といったら、「何をいってるんですか」と笑って取
り合わなかった。
　僕は70年の４月から74年の３月まで産経新聞社に勤めていた。辞めて半年間は
失業保険で食っていた（赤坂注・それって不正受給じゃないですか。もう時効だけ

ど）。その時、右翼の大先輩の白井為雄先生が「『青年群像』の編集をしてみないか」
といってくれた。生活も助かるし、好き勝手に編集していいというし、大喜びで引き受
けた。まわりの友達から原稿を集めて、自由にやっていた。阿部氏にも頼んだが、遅
れに遅れた。
　「じゃー、あの日記を貸してよ。原稿ができなければこれを載せる」といった。何か借
金のカタに娘をとったような感じだ（赤坂注・おおげさ）。案の定、阿部氏の原稿は締
切に間に合わない。さっそく「質草」にとった「日記」を公開した（赤坂注・あーあ。最
近の週刊ＳＰＡ！　の一連のいんちき暴露記事で皆の顰蹙を買ってますけど、昔から
悪質発表主義者だったんですね･･･。わかりました。M子ちゃんは今？）。
　タイトルは「何かが肥えてゆく　青年は枯れてゆく」とつけた（一瞬、赤坂と邦男さん
のことかと思いましたよ。ギクッ）。
　サブタイトルは「わが愛・わが挫折・わが別離」だった。タイトルは日記の中からとっ
た。三島事件の起こる70年11月25日前後の部分を載せた。「愛」や「挫折」は分
かるが、「別離」とは何だろう。もしかしたら、三島由紀夫、森田必勝との別離かもしれ
ない。僕がサブタイトルをつけたんだが、まったく忘れてしまった。僕もちゃんと日記
をつけておけばよかった。

なぜか（？）慕われる「阿部ちゃん」

　「維新講座」でこの「日記」を皆で読んでいたら、昔の仲間の高橋尚樹氏と山本敏
明氏が来た。「レコンキスタに阿部ちゃんの文を読むって書いてあったから懐かしく
て」という。２人とも50代だ。いつもの参加者は誰も知らない。だから紹介してやった。
　高橋尚樹氏は名を「ひさき」と読む。でも阿部氏は秋田人なので「ｈｉ」が発音できな
い。雪が降って寒いから東北の人は大きく口を開かない。だから、母音は３つしかな
い（普通は母音は５つよ）。「ａ」と「ｉ」は二つで一つになる。これは井上ひさ

しが小説
「吉里吉里人」（赤坂注・東北の人が独立国家つくるハナシですよね）の中で書いて
いたことだ。この小説では、東北弁の「文法」まで発表しとった。　だから阿部氏は「ｈ
ｉ・ｓａ・ｋｉ」と呼べないで撥音便（？）になって「ｓｙａｋｉ」になる。「シャキ」といつも呼んで
いた（赤坂注・それはいいけど、邦男さんも東北出身なのに他人事っぽいですね）。
　新宿に「勇船」という居酒屋を出していた。政治になんか関心のない真面目な店主
だった。ところが阿部氏が飲みに行って気に入った。気に入られたのが”不幸の始まり”だった。毎日のように行く。でも金を払わない。ツケだ。さらには「タクシー代がない
から貸せ！」という。仲間もドッと連れて行く。皆、払わない。中には払ってるやつもい
たが、たいがいは払わない。真面目な僕ですらツケにした（赤坂注・何やってんですか。右翼だから怖くて請求できなかったんですよ、可哀想に）。
　さらに、金がないときは「勇船に行こう。あそこならタダで飲める」と皆がいうようにな
った。可哀想に。それで店はつぶれてしまった（赤坂注・つぶしたんでしょーが）。普
通なら訴訟ものだよ。
　でも、シャキちゃんはひとがいいから、阿部氏を恨まない。無一文になっても「阿部
ちゃん」「阿部ちゃん」となついている。山本周五郎の小説「さぶ」のようなひとだ（赤
坂注・今週からスズキクニオ文学散策シリーズ？）。
　裸一貫になったシャキ君はインドに行って再起。今度はチベット独立運動にかぶれ、
その支援運動をやる。また、そこからチベット絨毯などを仕入れてきて商売をやり出し
た。今は東中野に「アート・ヒマラヤ」という店を開いている（赤坂注・皆で行ってあげ
ませう）。
　78年に僕は初めて海外旅行に行った。10人ほどの右翼のひとばかりでインドに行ったのだが、これをシャキちゃんが企画した。タージ・マハル寺院を見たりしてインド
観光をし、そのあとニューデリーから列車に揺られて３時間。ヒマラヤの麓のダラ

ムサ
ラに行った（この話はＳＰＡ！　の次かその次の週に載るよ）。
　そこには「チベット亡命政府」がある。そしてダライラマ猊下（げいか。高僧の敬称だ
よ）にもお会いした（赤坂注・またまた。知らないと思って･･･）。いい所だった。野生の
猿なんかもいて遊んだ。独立記念日の祭典や集会にも出た。７日間滞在した。「セブ
ン・イヤーズ・イン・チベット」だ。なんかそんな題の映画があったな（赤坂注・ブラピの
やつですね。でも７日間ならセブンデイズでは？）。

僕も登場！　阿部氏の日記

　11月の「維新講座」に来たもう一人は、山本敏明氏という。実は、阿部氏の日記が
載った「青年群像」を発行している「日本青年講座」に勤めていた。白井為雄先生の
いわば秘書というか書生をしていた。朴訥な人柄と、朴訥な顔（赤坂苦笑）で皆に愛
されていた。
　当時、流行っていたみなもと太郎の漫画「ホモホモ７」の主人公に顔が似ていたの
で「ホモホモ７」と呼ばれていた（赤坂注・二重に失礼シリーズ）。
　可哀想に。ホモでもないのにそう呼ばれていたんだ。でも、いつもニコニコしてい
た。
しかし、ひどい奴らだ。こんな仇名をつけるなんて（赤坂注・主犯はどーせ邦男さんで
しょ。それで「皆がいってる」なんて他人のせいにするなんて、昔から悪質ライターだ
ったんですねえ）。
　阿部氏の日記を読んでいて「あっ僕のことが出てる」「おっ俺のことも書いてる」と、
二人とも声を上げていた。阿部氏はこの二人が特に好きで日記の中によく出てくる。
二人とも純朴で、ひとに騙されてもただじっと耐えて、笑顔を絶やさない。こういうひと
が好きだったんだ。
　「鈴木さんのこともよく書いてますね」と二人はいう（赤坂注・長いけど引用。地方出
身者が”標準語”で喋るときの苦労について「鈴木邦男さんなどは特に顕著で、言葉

につまってくると、手や足が物を言う様になる。非常に尊敬する人ではあるが、田舎
生まれの宿命を背負った典型的な一人である」そうです。手はともかく足って･･･苦笑）
　じゃー、僕も好かれていたのかな。３人とも寡黙で、純真で、純朴だったから、阿部
氏は信頼し、生涯の友と思ったのだろう（赤坂注・いやー１人は違うと思いましゅけ
ど）。
　山本氏は一升瓶を持ってよく阿部氏のアパートに来た。僕も居候をしてたから、ツ
マミもなしに３人でコップ酒を飲んだ。山本氏は「どうもどうも」といって入ってきて、あ
とはただニコニコしている。喋らない。でも皆に好かれていた。赤坂は山本氏のツメの
垢をもらいなさい。
　右翼運動を「卒業」してからは、海外青年協力隊に入り、フィリピンに行った。拓殖
大学を出ていたし、農業指導で行ったのだ。日本だけでなく世界に雄飛して活動しようと思っていたのだろう。フィリピンの女性と結婚して、子供が３人いる。この後タイ
に行った。マンションを建てる会社をやっている。
　僕もタイに行った時に、山本氏に何回か会った。タイは王国で、王室に対する尊敬
の気持ちが皆強い。また、国旗・国歌も大事にする。ホテルでもレストランでも小さな
おみやげやでも国王陛下の写真が掲げてある。なにもそんなに･･･と思うほどだ。
　「ニセ米ドル事件」で捕まった田中義三（よしみ）さん（元赤軍）の裁判支援で５回ほ
どタイに行った。タイの裁判所はものすごく自由でアバウトだ。廊下ではパチパチ写
真を撮れるし、中では被告の田中さんの隣に座り、自由に喋れる（赤坂注・でも田中
さんは足枷つけられてたんですよね。よくわからないっすねー）。本来は私語禁止な
のだが、「どうせ言葉も分からないのだろうし」と黙認しているのだ。
　ただし、「これだけはやめてください」と弁護士にきつくいわれたことがある。
　「腕を組むこと、ワイシャツの袖を腕まくりすること、足を組むこと」だ。なぜなら、正
面には国王の写真が掲げてあるからだ。国王の前で腕まくりをしたり、足を組んで

は
失礼だというわけだ。でも、もともと半袖シャツを着ればいいんだ。それだけ王室への
尊敬、愛情が深いのだろう。
　そして、国旗・国歌だ。映画館でも上映が始まる前は国歌が流れる。皆起立する。
日本から行った商社マンが日本と同じつもりで座っていた。そればかりか「ペッ！」と
ツバを吐いた。これで彼は逮捕された。青年協力隊や商社マンなどタイの実情をあら
かじめ勉強し、知ったうえで行くと思うのだが、そんなひとたちも失敗することがある。
　これは日本の教育が悪いんだ。ただ法制化するんじゃダメだ。外国ではどう扱って
いるか。国旗・国歌の起源は･･･と教えなくっちゃー。
　また、格闘技や他のスポーツの試合でもあまりに軽い気持ちで両国の国歌を流すのも考えものだ。日本の国歌は嫌いだといって立たないのなら、まだ分かるが、相手
国の国歌のときも立たない。これじゃー相手国を侮辱していることになる（赤坂注・で
も、大昔の高田・ハシミコフ戦のとき、ハシミコフ自らロシア国歌の演奏途中で「イエ
ー」とかやってましたよ）。
　自国の国歌が嫌いなら立たなくてもいいが、相手国の国歌にはきちんと敬意を表すべきだろう。それだけは教えるべきだ。それができないのなら（今は多分、できない
だろうが）スポーツの場などで国歌を濫用すべきじゃないよ。
　山本氏は青年協力隊に長くいたから、そういうことは知っていた。郷に入っては郷
に従えだ。国歌が流れたら必ず起立する。でも一度、失敗したという。
　「ホモホモ７」ちゃんも男だ。だから「そういう場所」にも行く。タイには多い。そこで
「そういう行為」をしていた（赤坂には意味が分かりません。どこ？　なに？）。
　午後５時、行為中に突然、相手の女性が「立て！」という。驚いた。「立ってる」とタイ
語でいった。「そっちじゃない。起立しろ。国歌が流れる時間だ」という。「エッこんなと
きも起立するのか」と思った。大変だ。この話は前にどこかに書いたが、実は、「犯人」
は山本氏だったんだ。時効だからばらしてもいいやろ（赤坂注・それって山本さん

の
ハナシなんですか、ほんとに。邦男さんじゃないのー？）。

　ところで、タイには国歌は実は２つあるんですよ。その話は次週に。いや来年に。
　よいお年を！

HOME　BACK